

病 院 年 報

— 第 11 号 —

平 成 24 年 度



杉田玄白記念 公立小浜病院

病院理念と基本方針

病 院 理 念

『 地域住民の皆様とともに歩み、愛され、信頼される病院 』

基 本 方 針

- 1) 杉田玄白の進取の精神を受け継ぎ、良質・最新の医療を提供します。
- 2) 医療連携を推進し、中核病院として地域のニーズに応えます。
- 3) 安全・安心な医療サービスに努めます。
- 4) 公共性に配慮しつつ、健全な経営をめざします。
- 5) 教育・研修を充実させ、優れた人材を育成します。

巻頭言

地域医療を守るために



病院長 吉田 治義

杉田玄白記念公立小浜病院は、明治 16 年 1 月 4 日に県立病院として開設されて以来、福井県西部、若狭地域の中核病院として機能してまいりました。「若狭の医療は若狭で完結」を目指して基本的な診療科と救命救急センターの充実に努めております。

昨年に高度医療施設整備事業が完了した当院では、医師、看護師の確保が最重点項目です。開院 130 周年にあたる本年度は、かねてより計画しておりました寄附講座「地域高度医療推進講座」を福井大学に開設することができました。3 年期限の初年度にあたる今年は、消化器内科を対象にして新任の准教授に毎週指導に来て頂き、同時に専門医師 1 名を常勤派遣して頂くという形で始まりました。来年度には、他科にも参加して頂く予定であり、また、京都大学医学部にも同様な寄附講座を開設の予定です。これにより、当院の専門内科を中心とした各科の診療体制が整備され、研修医や若手医師にとっては、より充実した研修を受けることが可能になります。また今年 4 月から嶺南医療振興財団奨学制度による第一期の後期研修医師を迎えることができました。今後も受け入れが続く見込みで、福井県医師派遣制度とともに医師確保のための大きな支えになっています。看護師の確保については、併設の若狭高等看護学院があるのでこれまで安心してきた面がありますが、7:1 の新看護体制になってからは他院と同じく不足しております。今後、働きやすい職場づくりや専門認定看護師の育成などを通して、魅力ある勤務環境を作りたいと思います。

高齢者を対象にした医療体制の整備は時代の要請です。当院でも複数の慢性疾患を持っていることが多い高齢患者さんの急変には速やかに対処し、急性期病床での入院加療の終了後には慢性期病床への転棟・転院、そして療養病床あるいは在宅までをも視野に入れて患者さんの状態に適した医療を提供できるよう努めていきたいと思っています。そのために、24年度から地域医療連携室を拡充しダイナミックな医療施設間協力を目指しています。また、診療体制の上からは救急部と内科の連携強化のために家庭医あるいは総合内科医による総合診療科（総合内科）を育成して行きたいと思っています。

優れた伝統文化を残している一方、医療ではへき地と見なされてきた若狭地域ですが、高速道路の充実は、地方性を払拭する勢いで進んでいます。当院も、これまで以上に広い視野をもって、医療技術面のみならず接遇や安全など医療サービスの向上についても努力を重ね、患者さんに愛され信頼される病院を目指してまいります。今後とも皆様のご指導、ご鞭撻を賜りますようお願いいたします。

（平成 25 年 11 月 12 日記）

目 次

病院理念・基本方針

巻頭言 病院長 吉田 治義

I. 病院概況

施設概況	3
沿革	5
建物配置図・断面図	6
組織図	7
役職員一覧	8
院内会議・委員会一覧	9
職員数	10

II. 活動状況

1. 各科・各部署の活動状況

内 科	12	放射線科	34
循環器科	15	救命救急センター	35
外 科	17	救急総合診療科	35
整形外科	19	歯科口腔外科	36
形成外科	20	健診センター	37
脳神経外科	21	血液浄化センター	38
心臓血管外科	22	消化器センター	39
小 児 科	23	薬 剤 部	40
産婦人科	25	画像診断センター	42
眼 科	26	臨床検査科	43
耳鼻いんこう科	27	病 理	44
精 神 科	28	リハビリテーション科	45
泌尿器科	29	食事療法科	53
皮 膚 科	32	看 護 部	54
手術センター・麻酔科	33		

2. 院内委員会の活動状況

3. 学術活動等

Ⅲ. 各種統計

外来患者数、入院患者数	84
平均在院日数、病床利用率、救急車搬送患者数	
時間外診療患者数、へき地巡回診療患者数	85
手術件数、分娩件数、人工透析件数、内視鏡検査件数	89
薬剤件数	90
画像検査件数、リハビリテーション件数、患者給食数	91
臨床検査件数	92
地域連携・医療福祉相談件数	93

Ⅳ. 決算概要

事業報告	96
経営概要・経営分析	97
収益的収入および支出	98
資本的収入および支出	102

Ⅴ. 公立病院改革プラン概要・評価

平成 23 年度杉田玄白記念公立小浜病院改革プラン実績評価	104
杉田玄白記念公立小浜病院改革プランの概要	112

Ⅵ. 医師臨床研修概要

Ⅶ. 公立小浜病院組合構成施設の紹介

公立若狭高等看護学院	130
介護老人保健施設アクル若狭	132
レイクヒルズ美方病院	135

I . 病院概況



本館・救命救急センター



正面玄関（西館）



東館



外来新棟



杉田玄白像



東側玄関

施設概況

所在地 福井県小浜市大手町2番2号
 設立形態 一部事務組合立病院
 構成市町 小浜市、若狭町、おおい町、美浜町
 代表者 組合長（小浜市長）

敷地面積 24,479 m²
 建築面積 9,029 m²
 延床面積 32,027 m²



病床数 456床（一般296、療養50、結核8、感染症2、精神100）

診療科目 救急総合診療科、内科、精神科、小児科、外科、整形外科、形成外科、脳神経外科、心臓血管外科、皮膚科、泌尿器科、産婦人科、眼科、耳鼻いんこう科、リハビリテーション科、放射線科、麻酔科、歯科口腔外科

入院基本料 一般病棟 7対1入院基本料（経過措置）
 療養病棟 入院基本料2
 結核病棟 7対1入院基本料（経過措置）
 精神病棟 15対1入院基本料（看護補助加算2）

特殊診療機能 免震構造（本館部分）、救命救急センター（12床、うちICU・CCU 7床、無菌室1床）、HCU（15床）、健診センター（6床）、血液浄化センター（42床）、高気圧酸素治療装置、画像診断センター（PET-CT、MDCT、MRI、IVR-CT、骨塩量測定装置等）、放射線治療装置、結石破碎装置

併設施設 公立若狭高等看護学院、介護老人保健施設アクル若狭、院内保育所、小浜市病後児保育所



救命救急センター



ICU・CCU



PET-CT



64列MDCT



IVR-CT

指定医療機関等の状況（平成 25 年 4 月 1 日現在）

各種社会保険指定医療機関、労災指定医療機関

救命救急センター（新型）、救急告示病院、へき地医療拠点病院、災害拠点病院

第 2 種感染症指定医療機関、結核指定医療機関、養育医療指定病院、更生医療指定病院

育成医療指定病院、生活保護法指定病院、身体障害者福祉法指定病院

地域周産期医療母子センター、母体保護法指定施設、被爆者一般疾病医療機関

単独型臨床研修指定病院

協力型臨床研修施設（福井大学医学部附属病院、岐阜大学医学部附属病院）

マンモグラフィ検診精度管理中央委員会認定マンモグラフィ検診施設

（財）日本医療機能評価機構認定病院（病院機能評価 審査体制区分 3 Ver. 6.0）

福井DMA T 指定病院

専門医、認定医教育病院等、学会の指定状況（平成 25 年 4 月 1 日現在）

日本内科学会教育関連病院、日本内分泌学会認定教育施設、日本甲状腺学会認定専門医施設

日本腎臓学会認定教育施設、日本循環器学会認定循環器専門医研修関連施設

日本外科学会認定医修練施設、日本外科学会専門医制度修練施設

日本消化器外科学会専門医制度認定施設、日本消化器内視鏡学会指導施設

日本消化器病学会専門医制度認定施設、日本脳神経外科学会専門医認定制度指定訓練施設

日本小児科学会専門医関連施設、日本眼科学会専門医制度研修施設

日本泌尿器科学会専門医教育施設、日本救急医学会認定救急科専門医指定施設

日本麻酔科学会認定病院



MRI (1.5 Tesla)



健診センター



血液浄化センター



医師公舎・看護師宿舎



無菌病室



高気圧酸素治療装置

沿革

年	月	日	
明治	16	14	県立小浜病院として開設
	26	41	郡制実施により郡立小浜病院と改称
大正	12	41	郡制廃止に伴い小浜病院組合を設け、共立小浜病院と改称
昭和	26	41	町村合併により一市八ヶ村組合立病院となる（公立小浜病院と改称）
昭和	30	11	町村合併により一市一町一村の組合立病院となる（小浜市、上中町、名田庄村）
	35	612	救急告示病院の指定を受ける
	53	121	第2次救急病院群輪番制病院の指定を受ける
	55	41	へき地中核病院の指定を受ける
	58	1124	創立100周年記念式典
平成	2	41	公立若狭高等看護学院開校
	3	515	自治体立優良病院表彰式において自治大臣表彰を受ける
	4	72	病院施設整備工事着工
	5	830	旧本館（現西館）完成
		91	病床数変更（一般271床、精神100床、隔離20床、計391床）
		1218	第2病棟、旧第3病棟（現管理棟）改修工事完成
	6	527	病院施設整備事業竣工式典
	10	119	災害拠点病院（地域災害医療センター）の指定を受ける
		41	院内保育所開設
	11	525	遠隔医療システム稼働
		1213	リハビリテーション施設整備工事完成
	12	329	介護老人保健施設 アクルス若狭開設
	13	41	三方町、美浜町が病院組合へ加入
	15	71	レイクヒルズ美方病院開設
		811	高度医療施設整備事業 第一期工事起工式典
		1030	単独型臨床研修病院の指定を受ける
	16	112	病床数変更（一般308床、精神100床、感染2床、計410床）
		1110	高度医療施設整備事業 第一期工事竣工式典
	17	331	若狭町が病院組合へ加入（合併による）
		61	福井県地域療育拠点設置事業開始
		101	指定居宅介護支援事業開始
		103	第1期オーダーリングシステム運用開始、院外処方箋発行開始
		1027	高度医療施設整備事業 第2期工事起工式典
		111	小浜市病後児保育事業受託開始、病後児保育所開設
	18	118	協力型臨床研修施設（歯科口腔外科）の指定を受ける
		33	おおい町が病院組合へ加入（合併による）
		320	（財）日本医療機能評価機構による認定を受ける（審査体制区分3 Ver.4.0）
		41	救急総合診療科開設、精神科デイケア開始
	19	11	一般病棟10：1入院基本料算定開始
		101	病院名称を「杉田玄白記念 公立小浜病院」と改称、救命救急センター開設
		1025	高度医療施設整備事業 第2期工事竣工式典
		1029	第2期オーダーリングシステム運用開始
			病床数変更 （一般296床、療養50床、結核8床、感染2床、精神100床、計456床）
	20	41	単独型臨床研修指定病院として医科臨床研修医を初受け入れ
		111	近隣小児科医院との連携により小児科休日当番医制度を開始
	21	330	福井DMA T指定病院の指定を受ける
		71	一般病棟7：1入院基本料算定開始
	22	41	消化器センター開設、物忘れ外来開始
		71	DPC対象病院となる
	23	320	（財）日本医療機能評価機構による認定を更新（審査体制区分3 Ver.6.0）
	24	1124	高度医療施設整備事業 第3期工事竣工式典

建物配置図



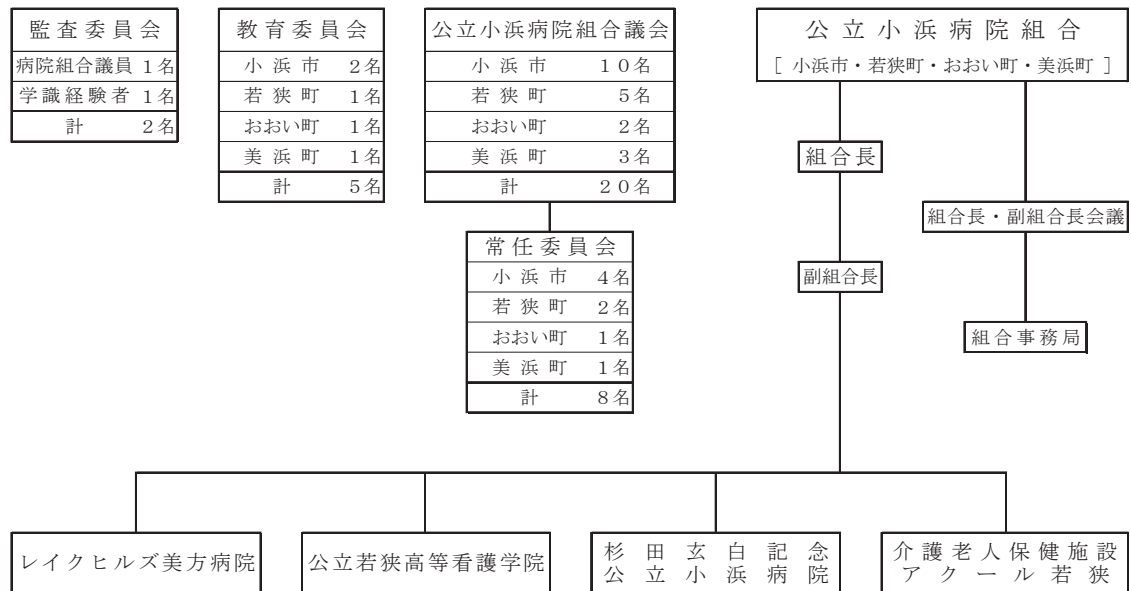
各階案内図

本 館					
9階	会議室				
8階	一般病棟、感染症病棟、結核病棟				
7階	一般病棟				
6階	一般病棟				
5階	一般病棟				
4階	一般病棟				
3階	救命救急センター	血液浄化センター	通路	精神科病棟	
2階	ICU、CCU	健診センター、中央検査		精神科病棟	
1階	救急専用病床 救急診察室	画像診断、地域連携室 杉田玄白コーナー		精神科デイケア室 医療福祉相談室	
西 館					
4階	療養病棟				
3階	一般・亜急性期病棟				
2階	手術センター、中央材料室 管理部門	外来診療科			
1階	外来診療科、外来検査室 受付、会計、薬剤部 紹介患者窓口	外来診療科、一般食堂、売店 放射線治療、災害処置室	通路		
東 館					
				療養室	
				療養室	
				療養室	
				リハビリテーション科 通所レクリエーション室	
南 館					
4階	福井県健康管理協会				
3階	管理部門				
2階	管理部門				
1階	管理部門				

組織図

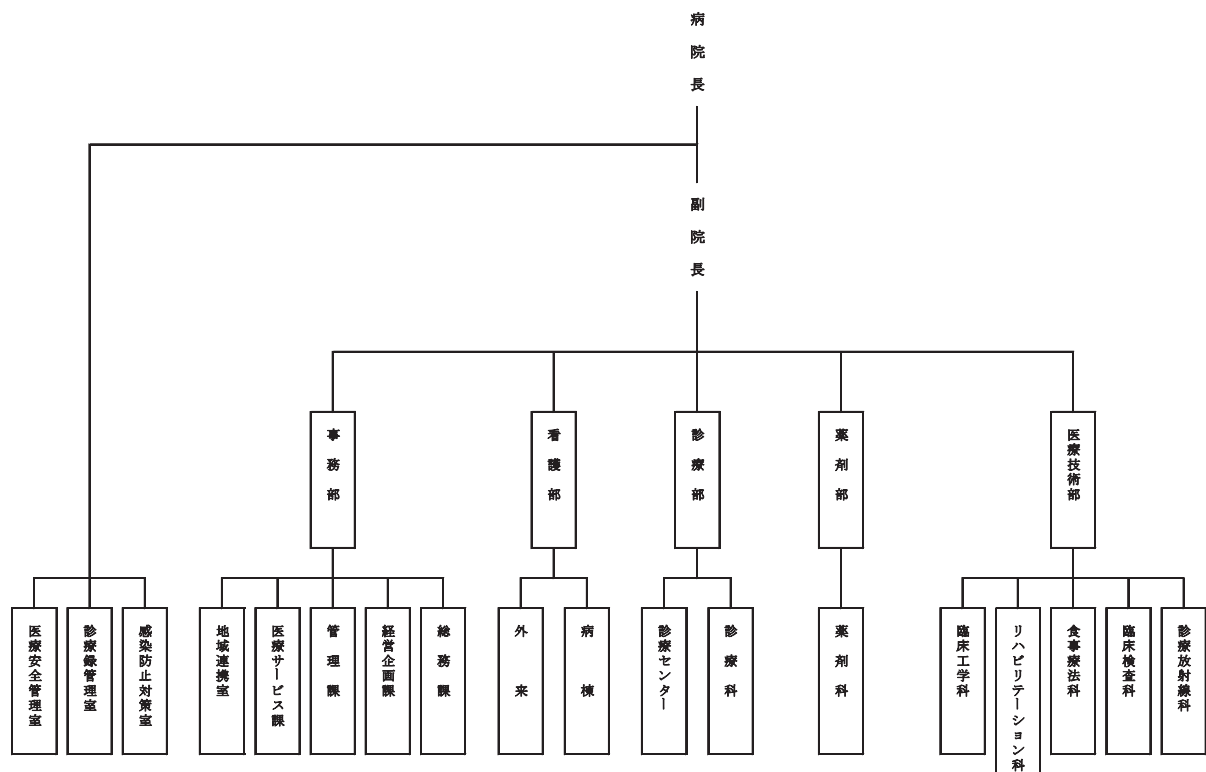
公立小浜病院組合 組織図

平成24年4月1日～



杉田玄白記念 公立小浜病院 組織図

平成24年4月1日～



役職員一覧（平成 25 年 4 月 1 日現在）

公立小浜病院組合

組 合 長	松 崎 晃 治	（小浜市長）
副組合長	森 下 裕	（若狭町長）
〃	時 岡 忍	（おおい町長）
〃	山 口 治太郎	（美浜町長）
〃	東 武 雄	（小浜市副市長）
事務局長	北 原 幹 三	（事務代理）

杉田玄白記念 公立小浜病院

病 院 長	吉 田 治 義	（内 科）
名誉院長	小 西 淳 二	（内 科）
副 院 長	福 井 泉	（外 科）
診療部長	廣 瀬 敏 士	（脳神経外科）
手術センター長	莊 司 勸	（麻酔科）
血液浄化センター長	鈴 木 裕 志	（泌尿器科）
救命救急センター長	廣 瀬 敏 士	（兼 務）
消化器センター長	菅 野 元 喜	（外 科）
画像診断センター長	川 上 悟 司	（放射線科）
健診センター長	福 井 泉	（兼 務）
薬剤部長	内 田 博 友	
医療技術部長	池 田 勘 一	
看護部長	大 枝 かよ子	
事務部長	北 原 幹 三	

公立若狭高等看護学院

学 院 長	吉 田 治 義	（兼 務）
副学院長	百 合 淳 子	
事 務 長	北 原 幹 三	（兼 務）

介護老人保健施設 アクルル若狭

施 設 長	服 部 泰 章	（外 科）
事 務 長	田 邊 靖 雄	（兼 務）
総看護師長	大 森 美代子	

レイクヒルズ美方病院

病 院 長	入 江 善 二	（整形外科）
副 院 長	東 博 司	（内 科）
診療部長	東 博 司	（兼 務）
総看護師長	竹 内 みゆき	
事 務 長	中 山 浩	

院内会議・委員会一覧

【 会 議 】

病院組合事業運営会議

医療安全会議

診療科代表者会議

病院・アクール連絡会議

部長連絡会議

所属長会議

臨床部門連絡会議

【 委 員 会 】

倫理委員会

医療安全管理委員会

防災対策委員会

放射線安全委員会

安全衛生委員会

薬事委員会

診療録管理委員会

地域医療連携委員会

広報委員会

救命救急センター運営委員会

輸血療法委員会

病院機能評価委員会

病床運営委員会

画像診断運営委員会

院内保育所運営委員会

図書委員会

D P C 委員会

医療機器安全管理委員会

人事委員会

臓器移植普及推進検討委員会

医療ガス安全管理委員会

院内感染対策委員会

情報システム委員会

保険診療検討委員会

研修管理委員会（臨床研修病院関係）

接遇委員会

緩和医療検討委員会

診療材料検討委員会

化学療法室運営委員会

クリニカルパス推進委員会

手術室運営委員会

臨床検査適正化委員会

栄養治療食委員会

褥瘡対策委員会

血液浄化運営委員会

行動制限最小化委員会

（平成 25 年 4 月）

職 員 数

職員数の推移 (各年度4月1日時点の職員数)

	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度
医 師	38	43	43	42 (4)	45 (1)
臨床研修医(医科)	(6)	(7)	(8)	(8)	(8)
臨床研修医(歯科)				(1)	(1)
薬剤師	10	11	10	11	11
診療放射線技師	11	11	10	11	11
臨床検査技師	15 (1)	15	14	14	14 (1)
歯科衛生士	1 (2)	1 (2)	1 (2)	1 (3)	1 (3)
管理栄養士	3	3	3	2	3
栄養士	3 (1)	3 (1)	3 (2)	3 (1)	3 (2)
理学療法士	8	8	8	8	8
作業療法士	8	8	8	8	8
言語聴覚士	3	4 (1)	4 (1)	4	4
臨床工学技士	3	3	4	4	6
視能訓練士	1	2	2	2	2
臨床心理士	1	1	1	1 (1)	1 (1)
助産師	6 (6)	6 (6)	7 (6)	9 (6)	10 (4)
看護師	202 (32)	207 (34)	217 (41)	215 (46)	210 (40)
准看護師	22 (28)	17 (28)	17 (27)	16 (26)	13 (25)
看護補助員	27 (10)	27 (7)	27 (9)	27 (12)	27 (18)
事務職員	40 (3)	39 (3)	39 (3)	38 (4)	42 (4)
その他職員	32 (15)	31 (15)	29 (19)	30 (19)	22 (19)
合 計	434 (104)	440 (104)	447 (118)	446 (131)	441 (127)

()内は非常勤職員を示した別掲数

医師の非常勤職員数に、他病院等からの嘱託医師は含まれていません。

Ⅱ. 活動状況

1. 各部署の活動状況

内 科

[常勤医師]	吉田 治義 (H23. 1～)	小西 淳二 (H15. 4～)
	本馬 徳人 (H18. 4～)	布居 剛洋 (H21. 4～)
	笠原 勝宏 (H21. 4～)	鈴木 将智 (H23. 4～)
	鈴木 馨 (H18. 4～H25. 3)	松田 安史 (H23. 5～H24. 9)
	高崎 俊和 (H24. 4～)	山本 裕子 (H24. 4～)
	上田 大輔 (H22. 4～H25. 3)	亀井 俊治 (H22. 8～H25. 3)
	西村 大 (H24. 4～)	伊藤 和広 (H24. 7～)
[非常勤医師]	堀口 孝泰、今川 美智子、中嶋 蘭、秋月 修治、白藤 法道	
	坪坂 誠司、田中 大祐、松原 靖、佐藤 広規、福永 康智	
	武田 朋子、田居 克規、神澤 朋子、細野 祐司、口出 将司	
	辻 英輝	

【平成 24 年度の診療状況等】

当科では、消化器疾患、呼吸器疾患、糖尿病疾患、内分泌疾患、腎疾患、高血圧疾患、膠原病疾患、神経疾患などに対し専門的に対応できる医師が診療にあたり、当地域における内科診療の中心的役割を担っています。

地域柄、高齢者の比率が高く、呼吸不全、消化管出血、急性冠動脈疾患などの救急搬送も多くあることから、関連施設や行政とも連携を密にし、地域に信頼される医療を提供すべく努力しております。

一般内科・循環器科の初診につきましては、平成 19 年より紹介外来制をとらせていただいておりますが、特に木曜日は多くの医院が休診のため、患者の皆様には大変ご不便をおかけしてしました。そこで、平成 22 年 9 月より毎週木曜日に紹介状なしで受診していただける内科・循環器科の初診外来を開き、急なご病気の方や、かかりつけ医をお持ちでない方の診療をおこなっています。

今後も地域の診療所や開業医の皆様との連携をより一層強化し、外来では救急対応と紹介制による専門医療を担当させて頂き、入院では急性期を中心とした高度医療を担当することで、地域医療に貢献してきたいと考えています。

<消化器>

当専門科は、消化器疾患（上下部消化管、肝胆膵）の治療及び検査全般に関して幅広く対応し、平成 21 年 4 月には消化器を専門とする常勤医師 3 名の増員、平成 21 年 7 月には、より侵襲の少ない経鼻式内視鏡を導入し、より多くの症例に対応できる体制を整えました。また、早期胃癌（粘膜内癌）に対する内視鏡的粘膜下層剥離術（ESD）や、肝腫瘍（肝臓癌、肝転移）に対する経皮的ラジオ波焼灼術を導入し、最先端の医療技術についても対応しています。

平成 19 年度以降、内視鏡検査件数は増加傾向にあり、平成 24 年度の上部消化管内視鏡

は 2,461 件(平成 23 年度 2,372 件)、下部消化管内視鏡検査は 942 件(平成 23 年度 903 件)、
膵管胆道内視鏡検査は 105 件(平成 23 年度 132 件)となっています。

その症例数の増加と多様性に対応するため、平成 22 年 4 月に消化器内科、消化器外科、
画像診断の各医師が、診断から治療まで一貫した方針で迅速かつ的確に診療が行えるよう
に消化器センターが設置されました。

消化器疾患は非常に頻度が高く多様であり、緊急対応が必要な場合も多く、地域での初
期対応が非常に重要と考えていますので、当センターの地域における役割を果たすべくス
タッフ一同努めて参ります。

<呼吸器>

呼吸器科外来では、非常勤応援医師の協力をいただき、週 4 回の外来診療を行っていま
す。

<生活習慣病・糖尿病>

当専門外来では、京都大学の内分泌代謝内科と糖尿病栄養内科から派遣される各専門医
により、それぞれ週 1 回(生活習慣病は毎週水曜日、糖尿病は毎週金曜日)の外来診療を
行っています。

両専門外来ともに他科と連携した合併症の治療と同時に、糖尿病学会認定療養指導士資
格を有する管理栄養士による治療前後の栄養評価と、それに基づく食事指導を実践してお
り、患者個人の生活習慣や嗜好などを加味した個別指導を目指しています。

また、疾患の性格上、高い再診率が特徴ですが、近年の病診連携の充実により、紹介・逆
紹介数も増加しています。

<内分泌>

小西名誉院長により毎週水曜日に甲状腺疾患を中心とする専門外来が行なわれており、
多くの患者様が定期的に治療を受けておられます。この実績をふまえて、平成 16 年 4 月よ
り、内分泌代謝科認定教育施設、また同年 12 月より甲状腺学会認定専門医施設となってい
ます。

<腎臓>

糸球体腎炎やネフローゼ症候群などの腎臓内科一般の疾患に加えて膠原病や糖尿病によ
る腎病変など幅広く診断治療を行っています。また、膠原病や心血管障害に対する血漿交
換治療や肝不全などの血液浄化療法も数多く行っています。

血液浄化センターでは、臨床工学技士 4 名で機器の管理を行っています。平成 24 年度の
血液透析治療の延べ件数は 13,321 名で前年度より 313 名増加しました。平成 24 年度末の
透析患者数は 95 名で昨年度から 7 名増加しています。一方、腹膜透析患者数は 4 名と 2 名
減少しました。特殊血液浄化治療については、持続血液ろ過透析のべ 25 日、エンドトキシ
ン吸着治療(PMX)8 回、LDL 吸着 2 回、腹水濾過濃縮再生静注療法・腹水濃縮濾過透析療法
2 回、白血球除去療法(LCAP) 10 回でした。

<リウマチ・免疫膠原病>

京都大学の免疫膠原病内科から派遣される担当医が専門外来を行っています。

平成 22 年 4 月より、診療日を以前の隔週から毎週月曜日に増やし、より良い充実した医療の提供を目指しています。

診療内容は、免疫異常の発症を基盤とする膠原病、自己免疫疾患、リウマチ疾患、アレルギー疾患などが中心となり、これら疾患の多くは、多臓器の障害を引き起こす全身性疾患であり、全身の臓器に対する幅広い見識が必要であることから、関連診療科との連携を密にとりながら、身体全体を見据えた総合的な治療を行っています。

<神経>

毎週月曜日に福井大学より派遣される神経内科専門医が外来を担当しています。当専門外来では、頭痛、めまい、しびれ、麻痺、ふらつき、物忘れ、意識障害、ふるえ等、様々な症状をきたす患者さんの診断、治療を行っています。

パーキンソン病、脊髄小脳変性症、多発性硬化症、重症筋無力症などの神経内科の専門診療を必要とする疾患に対しては、診断や薬物療法だけでなく、リハビリ診療や行政機関との協力のもとでご家族も含めた支援を行っています。また、認知症、脳血管障害に関しても他科の先生方と協力して充実した診療を提供させていただきます。

循環器科

〔常勤医師〕 本馬 徳人（H18.4～）鈴木 将智（H23.4～）亀井 俊治（H22.8～H25.3）

〔非常勤医師〕 土井 孝浩、村上 究、塩見 紘樹、臼井 公人、天野 真理子

【平成 24 年度の診療状況等】

平成 23 年 4 月より、循環器専門医の鈴木医師が加わり、本馬医師、後期研修医の亀井医師の 3 人体制にて循環器診療を維持しています。毎週火曜日には、舞鶴共済病院臼井公人心血管カテーテル室長に治療を指導して頂き、治療水準を維持しています。

日本循環器学会関連施設より専門教育施設へ移行させ、2 年目が経過しました。循環器教育を充実させることにより、後期研修医の育成を行っています。京都大学循環器内科より非常勤の先生にお力添えを頂きながら診療にあたりました。

虚血性心疾患、不整脈等、特に迅速な対応が必要な疾患に即応する体制をとり、また高血圧、糖尿病、高脂血症など生活習慣病の予防にも努めています。

近年、心房細動に伴う心原性脳梗塞が注目されることから、脳梗塞を担当している脳神経外科からの心原性脳梗塞に対して経食道心エコーの充実を行いました。

心臓超音波検査は、平成 19 年度から検査技師により行う体制となっています。循環器内科からも頸動脈超音波検査も行うこととしました。現在、施行件数増加とともに、国保上中病院より検査技師の教育研修、また、研修医や内科後期研修医に対する教育も行っています。現在、中森、西尾、島田検査技師による日勤帯ですべてに対応可能となりました。心臓超音波勉強会も、月 1 回開催し向学に励んでいます。

薬剤負荷、運動負荷心筋シンチによる検査は、週 2 回の定期検査として定着し、虚血性心疾患の診断をより充実したものにいたしました。また、β 版より使用している HeartRiskView を虚血性心疾患の診断に補助的に行っています。精度管理には、福井大学高エネルギー医学研究センター岡沢教授と長崎大学工藤教授に精度管理をお願いしています。

今年度より、血液透析患者の心疾患スクリーニング検査として、BMIPP 心筋シンチを施行しました。血液透析患者の心疾患による予後改善に寄与が期待されます。

治療については、各疾患に対しての内科的治療はもちろんのこと、虚血性心疾患に対してカテーテルによる血管形成術、徐脈性不整脈に対してペースメーカーの植え込み術、下肢静脈血栓症、肺塞栓症に対して下大静脈フィルター留置などを行っています。

外科的治療については、平成 23 年 4 月より福井大学心臓血管外科より腰地孝昭教授に月 2 回の応援を頂き、迅速な対応を行うことができました。

心臓リハビリテーションを、平成 21 年 4 月より勉強会から立ち上げ、4 年が経過しました。吉田真紀看護師、松井文昭理学療法士、山本浩史理学療法士の 3 名が、心臓リハビリテーション指導士に合格しています。現在、心臓リハビリテーション(I)を算定可能となりました。また、ICU との連携による院内心筋梗塞パスの運用、さらに周辺医療機関との地域連携パスの運用を行っています。

主な検査、治療件数

冠動脈造影検査 135 件

冠動脈 CT 検査 65 件

経皮的冠動脈形成術 44 件(緊急 16 件)

経皮的血管形成術 15 件

下肢静脈フィルター留置 4 件

安静時心筋シンチ 12 件

負荷心筋シンチ 48 件

ペースメーカー移植（新規 13 件、交換 10 件）

カテーテルアブレーション治療 1 件

電気生理学的検査 5 件

心臓超音波検査 1070 件

経食道心臓超音波検査 30 件

心臓大血管疾患リハビリテーション（算定 I） 48 件

外 科

- 〔常勤医師〕 福井 泉（H24.4） 服部 泰章（H2.4～） 菅野 元喜（H18.7～）
伊藤 鉄夫（H20.5～） 相馬 俊也（H21.10～H24.9） 西川 徹（H24.4～）
田中 崇洋（H24.4～H25.3）
- 〔研修医〕 鎌田 泰之
- 〔非常勤医師〕 和田 洋巳、木村 元英

【平成 24 年度の診療状況等】

消化器センター内科部門・画像診断部門の協力のもと消化管・肝胆膵疾患に対する外科治療を中心に、呼吸器外科領域、乳腺外科領域においても内視鏡手術も含め、適正な適応で安全重視を旨に治療を行っております。

（内視鏡手術）

手術の低侵襲化を目指し消化器外科領域、呼吸器外科領域、乳腺外科領域の良性疾患及び早期癌・他臓器非浸潤進行癌に対する標準癌手術を中心に内視鏡手術を施行してきた結果、年間450例弱の手術のうち80%を内視鏡手術が占めました。

（開胸・開腹手術）

多臓器浸潤癌や横隔膜をまたいで腹部臓器に浸潤する肺癌等については確実な根治切除を旨に開胸・開腹手術の適応としています。

《当院の先進的手術》

消化器外科領域

- ①単孔吊り上げ式（小浜式）内視鏡手術：炭酸ガス・トロッカーを使用しない地球温暖化防止にも寄与し経済的な内視鏡手術（適応）胆石症・虫垂炎・鼠径ヘルニア
- ②腹臥位気胸下胸腔鏡下食道癌手術：良視野低侵襲下に縦郭郭清が可能
- ③腹腔鏡下胃癌手術：幽門側胃切除から胃全摘まで低侵襲に標準郭清が可能
- ④単孔式結腸悪性腫瘍手術：トロッカー挿入創の省略を可能にし、術後の創痛も緩和
- ⑤腹腔鏡下直腸低位前方切除・切断術：術後創痛を軽減
- ⑥腹腔鏡下肝切除術：術後創痛を軽減
- ⑦腹腔鏡下膵臓手術：手術の低侵襲化を実現
- ⑧腹腔鏡下脾摘術：手術の低侵襲化と術後創痛の軽減を実現
- ⑨腹腔鏡下穿孔性胃・十二指腸潰瘍手術：手術の低侵襲化と術後創痛の軽減を実現
- ⑩腹腔鏡下食道裂孔ヘルニア根治術：手術の低侵襲化と術後創痛の軽減を実現
- ⑪腹腔鏡下イレウス解除術：術後創痛を軽減
- ⑫腹腔鏡下直腸脱根治術：術後の疼痛はわずかで、排便もスムーズ

呼吸器外科領域

- ①胸腔鏡下(VATS)肺葉切除術：肺癌手術の低侵襲化と術後創痛の劇的軽減を実現
- ②胸腔鏡下気胸手術：術後創痛の軽減を実現
- ③胸腔鏡下縦郭腫瘍根治術・縦郭郭清術：低侵襲化と術後創痛の劇的軽減を実現

乳腺外科領域

- ①乳輪単孔吊り上げ式（小浜式）鏡視下乳腺切除術：整容性と術後創痛の軽減を実現
- ②鏡視下腋窩郭清：整容性と術後創痛の劇的軽減を実現
- ③センチネルリンパ節生検（色素法）：放射線被曝の危険を回避したセンチネルノドナビゲーションサージェリーが可能

肛門外科

- ①PPH痔核・脱肛根治術：術後疼痛を軽減

《今後の取り組み》

適正な手術適応で、ガイドラインを遵守し、適正な手術時間・出血量で安全確実な外科治療を実現する。

整形外科

〔常勤医師〕 竹野 建一（H24.4～） 平井 貴之（H23.4～）

〔非常勤医師〕 入江 善二、小久保 安朗、佐藤 充彦、坂本 拓己、根来 航平
彌山 峰史、吉田 藍、竹浦 直人

【平成 24 年度の診療状況等】

平成 24 年 3 月に入江医師がレイクヒルズ病院院長に就任し非常勤となり、また尾崎医師が退職致しました。4 月には竹野医師が常勤となり、常勤医師 2 名と非常勤医師の状態であり、平成 23 年度より継続しております紹介外来制を継続しておりますことは非常に御迷惑をおかけしております。当分の間、初期治療につきましては、地域の診療所等をお願いする次第でございます。

外来は初診、再診に分かれ、あらゆる整形外科領域の症例を治療しております。

高齢化社会の昨今、転倒による骨折、骨粗鬆症、変形性疾患、廃用症候群の増加がみられており、少ない医師で対応しなければならないことに歯がゆさを感じておりますが、患者の皆様に良質な医療を提供できるように努めてまいります。

手術は外傷を中心とし、変形性関節症に対する人工関節術、関節鏡手術、腰椎椎間板ヘルニアや腰部脊柱管狭窄症に対する椎弓切除術、ヘルニア摘出術も適応に応じて行なっております。症例によっては福井大学医学部附属病院整形外科より非常勤医師に来て頂き、手術を行なっております。厳しい状況は継続しておりますが、昨年度に比べ手術件数では大幅に増加致しております。

今後も他科の先生方と協力して充実した診療を行ってまいります。

平成 24 年度の手術件数

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
平成 23 年度 手術件数	21	17	15	21	26	16	22	20	20	16	27	14	235
平成 24 年度 手術件数	22	30	24	19	26	22	26	18	26	25	19	28	285
前年度比較	1	13	9	-2	0	6	4	-2	6	9	-8	14	50

形成外科

〔非常勤医師〕 中村 陽子（京都大学医学部 形成外科）

【平成 24 年度の診療状況等】

毎週月曜日に京都大学から派遣される担当医が、皮膚科の先生方と連携し、診療を行っています。午前が外来で午後が手術となっています。

形成外科は皮膚の外科と考えていただければいいと思います。全身のケガやヤケドなどの外傷を受けた時に、なるべく傷跡が目立たなくなるように治していくことを目標としています。また、出来てしまった傷痕を手術や保存的方法で治していくことも行っています。特に顔面に関しては鼻骨骨折を含め、形状及び機能温存に少なからず形成外科が関与することになります。

皮膚腫瘍の切除、再建、眼瞼下垂の手術、顔面・手足の先天奇形や蜂窩織炎（皮膚の腫れや膿）、褥瘡（とこずれ）、陥入爪（まきづめ）の治療なども行っています。また、ほくろや老人性のイボ、しみやアザの診療も行っています。 範囲が多岐に渡りますので、さらに専門性を要する場合は他機関に紹介させていただくこともありますが、まずは、気軽にご相談下さい。

平成 24 年度手術件数 62 件

脳神経外科

[常勤医師] 廣瀬 敏士 (H17.1～) 細田 哲也 (H23.4～H25.3) 松田 謙 (H24.4～)
[非常勤医師] 竹内 浩明

【平成 24 年度の診療状況等】

平成 24 年度の目標として、脳血管治療専門医の松田医師を迎え、血管内手術の整備充実を図りました。数年前にこちらでともに働いた新井医師(現在、市立敦賀病院勤務)とともに、従来の、アンギオ機械の見直しから手技材料配置に至るまで、一つ一つ定めていただきました。結果、破裂動脈瘤のコイリング、内頸動脈狭窄症に対するステント留置など、安全・確実に実施が可能となっております。まだ症例は少ないものの、確実に増やしていく所存です。開頭手術と血管内手術のバランスが取れることで、患者さんの手術の選択の幅が広がり、急性期脳神経外科施設としてのよりよい形ができたと考えています。

脳梗塞に対しては、平成 24 年 9 月から tPA の投与開始時間が、発症 3 時間以内だったものが、4.5 時間に延長され、患者さんへの福音となっております。

脳ドックについては、脳ドック学会からの要請もあり、頸部エコー検査の追加を計画いたしました(平成 25 年 5 月より実施しております)。

年間を通じて、外来・入院ともに前年度を上回る数字を示しており、地域連携室の協力も徐々に根付いていると考えます。

手術統計は下記のとおりです。

平成 24 年度手術統計

平成 24 年度手術統計

脳腫瘍		
	摘出術	5 例
脳血管障害		
	脳動脈瘤	
	破裂脳動脈瘤クリッピング術	5 例
	未破裂動脈瘤クリッピング術	2 例
	脳梗塞	
	浅側頭動脈・中大脳動脈バイパス術	3 例
	高血圧性脳出血	
	開頭血腫除去術	5 例
	定位的脳内血腫除去術	1 例
外傷		
	急性頭蓋内出血除去術	2 例
	慢性硬膜下血腫穿頭洗浄術	18 例
水頭症		
	脳室腹腔シャント術	5 例

心臓血管外科

〔非常勤医師〕 腰地 孝昭

【平成 24 年度の診療状況等】

心臓血管外科の診察は、毎月第 2 および第 4 金曜日となっており、午前に外来診療、午後には静脈瘤等の外来手術及び硬化療法を行っております。

当科での診療疾患は、心臓疾患（虚血性心疾患、弁膜症、先天性心疾患、虚血性・拡張性心筋症）、大血管疾患（胸部大動脈瘤、胸腹部大動脈瘤、解離性大動脈瘤）、末梢動脈性疾患（腹部大動脈瘤、閉塞性動脈硬化症、バージャー病）、静脈性疾患（深部静脈血栓症、下肢静脈瘤）となっております。

これらの疾患への外科的治療の必要性についてのご相談や、手術後の外来通院加療を行っております。心臓・大血管の治療に対しては術前に詳細な検査が必要となりますので、循環器科と連携を取りながら行っております。

当科では患者様の心臓・血管に関する相談にも十分に対応し、ご希望に応じて適切な検査や治療等についてアドバイスさせて頂きたいと考えております。

小 児 科

〔常勤医師〕 原 慶和（H11.6～） 林 泰平（H23.6～H24.6） 湯浅 光織（H24.7～）

〔非常勤医師〕 川谷 正男、巨田 元礼、西田 公一、千葉 茜、米谷 博、林 仁幸子
奥野 貴士、吉岡 紀久子、岡崎 新太郎、河北 亜希子、村井 宏生

〔非常勤カウンセラー〕 塩本 毅明、福尾 陽子

【平成 24 年度の診療状況等】

当科における若狭地区小児医療の役割としては地域の中の病院としての機能と専門性をもって対応する機能の 2 つを有していると考えます。小児におけるあらゆる問題に対して診断・治療をおこない、当院だけで対応できない疾患についてはその疾患の特異性を考慮した専門病院への紹介を行っております。紹介後も継続した定期フォローアップを要するものではできるだけ紹介先病院と連携して地元での役割を果たすことに力を注いでいます。

平成 20 年 11 月より小児科休日診療を開始しております。これは小浜医師会の行っている休日当番医制度と連携して、小児科標榜医以外の開業医院が当番の日は病院で小児科診療を行うというものです。これにより若狭・小浜管内では休日日中は必ずどこかで小児科医による診察が受けられるというメリットが生まれております。

小児療育にも力をいれ、嶺南では唯一診断機能と療育機能をあわせ持った病院として中心的な役割を果たしています。県の療育センターや舞鶴の療育センターとも共同して日々の診療に従事しています。重度心身障害児、精神運動発達遅滞児に対しての診療はいうまでもなく、現代は ADHD（注意欠陥多動性障害）、LD（学習障害）や広汎性発達障害（自閉症スペクトラム）といった発達障害をもつ幼児・児童・生徒などの診断・治療・療育が大切になってきております。最近では中学卒業後の生徒の受診も増えてきています。

療育機能に絡んで平成 20 年 8 月から小浜市内の 5 歳児を対象に「5 歳児健康相談」を行うことになりました。当初のスタッフはボランティア参加で行っていましたが、平成 21 年 4 月からは小浜市の推進事業として進められており、当院はこれに協力しております。

周産期医療では重症合併のない低出生体重児、病的新生児に対しての受け入れを行っています。重症児や超早産児など当科で対応が難しい症例についてはあらかじめ産婦人科より母体搬送を依頼していただき、専門機関での治療をお願いしております。母体搬送ができない症例については応急的な処置後に新生児搬送をするという流れになって

おります。また通常の出産後のケアにおいては母乳育児を推進し、できるだけ母子カプ
プルとその家族にやさしい病院でありたいと思っております。

専門外来ではアレルギー外来、腎臓外来、内分泌外来、夜尿症外来、神経発達外来、
心臓外来、カウンセリング外来を実施しており、当院医師と非常勤医師、臨床心理士で
担当しております。

当院当科のありかたに対してさまざまな御意見をいただき、今後の成長に生かしてい
きたいと思っております。一層のご協力を、そしてご期待をお願いいたします。

《専門外来》

アレルギー外来（週 1 回）、腎臓外来（月 1 回）、内分泌外来（月 1 回）
夜尿症外来（予約制）、神経・発達外来（月 1 回）、カウンセリング（予約制）
心臓外来（年 7 回）

《地域保健事業》

- * 予防接種（外来）：毎週火曜日 午後（予約制）
- * 学校医・嘱託医等：小浜第二中学校学校医、嶺南東養護学校学校医、小浜市デイス
ービスケア施設『母と子の家』嘱託医
- * 乳児健診（外来）：毎週水曜日 午後（予約制）
- * おおい町集団健診（なごみ保健センター、あっとほーむいきいき館）
1 歳 6 カ月健診、3 歳健診、その他乳児健診
- * 高浜町集団検診（高浜町保健センター）
1 歳 6 ヶ月健診、3 歳健診
- * 小浜市集団健診（健康管理センター）
6ー7 ヶ月児健診、1 歳 6 ヶ月児健診、3 歳健診、5 歳児健康相談

産婦人科

〔常勤医師〕 服部 由香（H11.12～） 高橋 仁（H21.12～H25.4） 上林 大岳（H25.4～）

〔非常勤医師〕 吉田 好雄、黒川 哲司、折坂 誠、福田 真、服部克成、品川 明子
森下 史子、西島 浩二、山本 真、田嶋 公久、高橋 望

【平成 24 年度の診療状況等】

当年度の外来患者数は 1 日平均 29.8 人、入院患者数は 1 日平均 10.6 人でした。

外来では、妊婦健診を延べ 2,598 件、エコー検査（妊婦健診を除く）を 2,869 件、癌検診（ドック以外）を 1,128 件、ドック等検診業務を 335 件施行。

また、助産師による母乳外来ではのべ 453 名の患者様が施術を受けられました。

産科では、分娩数（22 週以降）は平成 24 年度は 218 例で、平成 23 年度の 231 例より若干減少しました。帝王切開率は平成 24 年度 19.7%、平成 23 年度 18.6%からやや増加しました。

母体合併症や早産のための母体搬送は 8 件で、内 7 件は福井大学医学部附属病院周産期センターへ、また 1 件は舞鶴医療センターに受け入れて頂きました。また、他院より 1 件の母体搬送を受けました。

手術室管理での手術件数（帝王切開術を除く）は、平成 24 年度は 33 件、平成 23 年度の 40 件に比しやや減少しました。

手術症例数

	平成 23 年度	平成 24 年度
帝王切開	44 例	43 例（うち緊急は 17 例）
子宮外妊娠	1 例	1 例
子 宮		
子宮筋腫	10 例	4 例
子宮頸癌（含前癌）	5 例	4 例
子宮体癌（含前癌）	2 例	1 例
卵 巣		
良性腫瘍	7 例	14 例（うち腹腔鏡は 4 例）
悪性腫瘍（含 境界悪性）	0 例	0 例
その他	15 例	9 例

眼 科

〔常勤医師〕 青木 内匠（H19.4～） 宮澤 朋恵（H18.11～）

〔非常勤医師〕 米谷 潤

【平成24年度の診療状況等】

眼科外来診療は平成 25 年 7 月より常勤医師 1 名、非常勤医師 3 名、看護師 1 名、検査員 3 名、看護助手 1 名で診療を行っており、外来患者数は 1 日平均 65 名となっています。午前是一般外来を（月、水、木）2 診体制、（火、金）1 診体制で実施し、午後については下記のとおりとなっています。診療検査機器はハンフリー視野計、蛍光眼底造影カメラ、網膜光干渉断層計、角膜内皮細胞数測定計、前房フレア一値測定装置、角膜形状測定装置などがあり、様々な疾患の診断や治療効果の評価に対応出来るようになっていきます。平成 25 年 8 月より網膜光干渉断層計が最新機種になり、以前より検査の時間が早くなり、より高解像度で撮影出来るようになりました。

〔木曜日 午後〕

コンタクトレンズ外来を行っております。ハード、ソフト及びディスポーザブル等、各種コンタクトレンズの処方を行っています。特に第 2, 4 週はサンコンタクトレンズ、第 3 週は日本コンタクトレンズの技術員が来院してコンタクトレンズの微調整と特殊なオーダーメイドも可能となっています。

〔月・水曜日 午後〕

手術日となっています。白内障の日帰り手術も行っています。視野検査を予約制で行っています。

〔火、金曜日 午後〕

主に白内障手術説明会、レーザー手術、造影検査、視野検査、弱視外来などを行っています。白内障手術説明会は予約制としており、白内障についての説明、手術方法及び合併症などの説明に十分な時間をかけて、患者様とご家族によくご理解していただくように努めています。第 3 金曜日は福井県からの委託による「厚生相談の日」として視覚障害者手帳交付のための検査を無料で受診することができます。また、小児の視力検査等には時間を要するため、定期的に通院が必要な斜視弱視等の小児患者様のための外来も行っています。

平成 24 年度の手術件数は約 480 件（レーザー手術は除外）でした。手術内容は白内障手術が大部分を占め約 400 件、網膜硝子体手術が 28 件、網膜剥離(buckling)2 件、緑内障手術 4 件、その他の前眼部疾患、外眼部疾患の手術となっています。入院病棟は本館 4 階病棟で入院患者様のほとんどが白内障手術の患者様となっています。

硝子体出血（糖尿病網膜症、網膜静脈閉塞症）、黄斑前膜、黄斑円孔、難治性網膜剥離などの網膜硝子体疾患に対し、ほとんどの症例で今までより低侵襲で行える 23G システム硝子体手術を行っています。

平成 24 年 4 月より、加齢性黄斑変性症にたいして抗 VEGF 抗体（ルセンティス®）の硝子体注入療法を開始しております。

嶺南の中核病院として地域完結型の医療を提供できるよう日々努力していく所存であります。今後も患者様にさらなる満足をしていただけるように職員一丸となって切磋琢磨して参りたいと思います。

耳鼻いんこう科

〔非常勤医師〕 伊藤 壽一、平野 滋、坂本 達則、山本 英行、岡野 高之、窪 誠太
西村 幸司、中川 隆之、荻野 枝里子、北尻 真一郎、木村 幸弘
二之宮 貴裕、浅香 力、林 裕史、石川 正昭、十名 洋介、鳥居 紘子

【平成24年度の診療状況等】

平成 20 年 6 月に常勤医師が退職して以降は、京都大学と福井大学から派遣される非常勤
応援医師による週 4 回（月・木・金曜日 10：30～、水曜 9：00～）の外来のみの診療体制
となっています。

常勤医師が不在となった影響で、当年度の外来患者数は延べ 6,375 名（1 日平均 26.1 名）
となっています。

常勤医師不在の為、基本的には入院・手術診療を行っておりませんので、必要な方は他
院への紹介となり、大変なご不便をおかけしております。その上、若狭地域には、耳鼻咽
喉科医が少ないせいか、慢性中耳炎、慢性副鼻腔炎、甲状腺腫瘍などの慢性疾患を有した
患者様も多くいらっしゃいますので、今後の常勤医師の確保については、急務であると考え
ております。

精 神 科

〔常勤医師〕 山村 茂樹（H6.4～） 鵜戸 逸友（H15.4～） 鈴木 馨（H18.4～H25.3）
寺西 聡司（H23.4～H25.3）

〔臨床心理士〕 中川 佐智子（H21.4～）

【平成 24 年度の診療状況等】

ひき続き地域の特性から高齢者の精神疾患（認知症、高齢者のせん妄、うつ）の方の受療が増加しているなかで、総合病院精神科としての本来的な機能（急性期・救急医療、リエゾン精神医療、身体合併症管理）に支障を来たさないように努めています。平成 19 年 4 月から指定病院の再指定を受け、平成 24 年度は措置入院の入退院が 3 名ありました。

社会的入院の方が約半数おり、地域への復帰と病棟運営の両立のなかでバランスを保っている状態です。脱施設化のための中間施設の充実、福祉行政の政策に依存する部分が大きい現状があります。

外来受診患者数は徐々に増加しています。医師数が増えない中で、デイケアに参加している方を含め全員の診察を行うのが困難な状況になっています。

デイケアは開始より 6 年経ち、運営も軌道に乗り参加者の生活、心身の安定に貢献しています。また病棟での高齢者の作業療法、外来での作業療法も自立の難しい人たちの ADL の向上に役立っています。

発達障害圏の方の受療も増え、どの程度治療的関与ができるのかも課題となってきました。

平成 24 年度

入院 平均 85 名 / 日（平均在院日数 240 日）

外来 平均 60 名 / 日（初診 374 名 / 年）

リエゾン（他科からの対診依頼） 88 名 / 年

作業療法（H11.7～） 23 名 / 日

デイケア（H18.4～） 15 名 / 日

＜外来新患内訳＞（重複あり）

統合失調症（および近縁疾患） 16 名

依存性疾患 15 名

気分障害（双極性障害） 9 名

神経症性障害（身体表現性障害を含む） 30 名

健診、診断書作成（各種資格、就労用） 22 名

精神発達遅滞（年金申請） 30 名

カウンセリング（不登校、家族などの問題） 13 名

広汎性発達障害（アスペルガー症候群、自閉性障害） 12 名

その他、大量服薬、甲状腺機能低下症、器質性精神病（慢性硬膜下血腫）、障害年金の相談、デイケア見学など、各 2～3 名。

泌尿器科

[常勤医師] 鈴木 裕志 (H14.10～) 中井 正治 (H22.7～H25.9)

[非常勤医師] 岡田 昌裕、多賀 峰克、三輪 吉司、棚瀬 和弥、伊藤 秀明

【平成 24 年度の診療状況等】

外来診療： 平成 24 年度ののべ患者数は前年度と比べ 467 名増加し、保険分累計では増加しました。一方、診療単価はわずかに減少しました。

入院診療： 入院患者数、保険分累計は減少しました。しかし、新規入院患者数は増加し、診療単価も増加しました。原因として以下のことが考えられます。

- 1 月から 3 月まで中井医師が舞鶴共済病院に出向となり、この間、大学病院から臨時医師を派遣してもらいました。この 3 ヶ月間はどうしても手術件数を制限する必要がありました。
- 内シャント設置術などの短期入院・手術患者が増加したため、在院日数が減少した。

手 術： 手術室を使用した手術件数は平成 23 年度が 108 件であったものが、平成 24 年には 123 件（事務的統計とは若干件数が異なります）に増加しました。その原因として以下のことが考えられます

- 内シャント手術が前年度 31 件であったものが、平成 24 年度は 33 件とやや増加し、その他バスキュラーアクセス関連の手術を含めると 39 件となりました。これは全手術件数の約 1/3 となり、泌尿器科で内シャント手術を担当することになってから、大きな負担となってきました。
- 前立腺肥大症に対する内視鏡手術が平成 23 年度 10 件から平成 24 年度 21 件と倍増しました。これは、最近投与例が増加していた前立腺を縮小させる 5 α 還元酵素阻害剤使用症例のうち、十分な改善が得られなかった症例が手術に移行したためと思われます。

【平成 25 年度の目標】

外来診療：

- 大江医師の赴任により、泌尿器科医は3人体制となりましたが、外来診察室は3診分はなく、毎日2診体制で行うことは変わりありませんが、今まで水曜日はレイクヒルズ美方病院に1人派遣していたため、当院外来は1診だけでしたが、今年度からは水曜日も2診体制となります。

入院診療・手術：

- 腹腔鏡手術は昨年度は3例でしたが、今年度も副腎、腎疾患に対して積極的に腹腔鏡手術を採用していく予定です。
- 昨年度は新しい腹圧性尿失禁手術のキットが発売され、1例に実施しました。この手術は今まで大学病院から特殊な機器を借りて行っていたましたが、今後はキットを用いて簡便な手術ができるため手術件数を増加させていきたいと思います。
- 平成24年度は年間手術件数では内シャント手術を含むバスキュラーアクセス関連手術が39件と全手術件数の約1/3を占めるようになりました。日本泌尿器科学会認定病院には「基幹病院」と「関連病院」があり、泌尿器科専門医を取得するためには「基幹病院」で最低2年間の研修が必要です。当院は「関連病院」ですが、今後、専門医をめざす若い医師が研修するためには「基幹病院」への昇格が必要です。そのためには一定以上の手術件数が必要ですが、カウントされる手術術式が指定されており、内シャント手術をいくらたくさん実施してもカウントされません。そこで、一般病院で実施できる手術としては、前立腺肥大症に対する経尿道的前立腺切除術や膀胱癌に対する内視鏡手術を増加させる必要があります。2012年の手術件数も泌尿器科学会に登録しましたが、あと5件ほど指定手術件数があれば目標に達すものでした。ただし、3年間継続が必要です。今後、「基幹病院」への昇格を目標に手術件数を増加していくつもりです。

手術統計

		H22 年	H23 年	H24 年			H22 年	H23 年	H24 年	
副腎疾患	腹腔鏡下副腎摘除術	1			精巣疾患	精巣固定術	4		1	
腎疾患	腹腔鏡下腎摘除術	1				高位精巣摘除術			1	
	腹腔鏡下腎部分切除術			1		精巣摘除術		1	1	
	腎部分切除術		1	1		精巣捻転手術	2		1	
	腹腔鏡下腎尿管全摘除術		2	2						
	経皮的腎結石砕石術			1						
	経皮的腎瘻造設術	4	2	2		尿道疾患	尿道狭窄手術	1		1
	単純腎摘除術		1				尿道ステント留置術		2	4
	尿管疾患	経尿道的尿管結石破砕術	8	11	6		外尿道腫瘍切除術		1	
尿管剥離術		1			尿失禁手術 (TVT/TOT)			1	1	
尿管切石術		1			尿道周囲膿瘍切除術				1	
尿管鏡検査		1			尿道結石除去術				1	
尿管ステント留置術(手術室使用)		2	1	3	陰嚢疾患		陰嚢水腫根治術	3	1	
							精液嚢切除術			1
						精巣上体切除術		1	1	
						精巣垂切除術				
膀胱疾患	経尿道的膀胱腫瘍切除術	21	21	20	陰茎疾患	環状切開	1	2	1	
	経尿道的膀胱砕石術	3	4	3		陰茎切除術	1			
	膀胱全摘除術		1	2						
	膀胱水圧拡張術	1	3			バスキュラークセス	内シャント造設術	21	31	33
	経尿道的膀胱止血術	1	1		内シャント血栓除去術			1	2	
	膀胱多所生検	2	1		その他バスキュラークセス関連手術				4	
					その他		性器脱手術(TVM)	1		2
	経尿道的前立腺切除術	3	10	21		経皮的後腹膜膿瘍ドレナージ	1			
前立腺全摘除術	3	6	5	陰部皮下腫瘍摘除術			2			
前立腺レーザー手術	1									
						合計(ESWLを除く)	89	108	123	
						ESWL	20	32	22	
						総計	109	140	145	

皮 膚 科

〔非常勤医師〕 濱井 公平、夏秋 洋平、佐々木 弘真、江川 裕美、中溝 聡、西田 育子

〔フットケア指導士〕 臼井 由紀

【平成 24 年度の診療状況等】

平成 24 年 3 月に常勤医師が退職して以降、京都大学等から派遣される非常勤応援医師による週 3 回（月曜日・水曜日・金曜日）の外来のみの診療体制となっています。

フットケア指導士の臼井看護師による「フットケア外来」では多くの患者様にご満足を頂いております。

外来患者数は 1 日平均 24 名となっています。

【フットケア外来】

糖尿病の患者が急増する中、その足病変の重要性が認識されています。

平成 22 年 9 月よりフットケア外来を立ち上げ、毎月第 2・4 木曜日（午後）に臼井由紀看護師が足のケアをおこなっています。

手術センター・麻酔科

〔手術センター長(麻酔科主任医長)〕 莊司 勸 (S63.1～)

〔常勤医師〕 澤田 直行 (H23.4～H25.3)

〔看護職員〕 12 名 〔看護補助員〕 1 名

【平成 24 年度の診療状況等】

当年度の手術件数は 1572 件であり、昨年度より 108 件の増加となりました。
外科・整形外科・脳外科・眼科・泌尿器科で増加し、特に整形外科 50 件、眼科 78 件の増加が大きかった様です。

手術室運営に関しては適宜、委員会を開催し、問題点の検討、改善を行い、円滑な手術室運営を行っています。薬剤管理は薬剤師により、月に一度の点検、整理が行われています。

手術室看護師においては、患者様への術前訪問を実施し、患者様の不安軽減に役立っており、術中には家族への経過報告をし、家族の不安、心配に配慮しています。術後訪問を行い、患者様の御意見をうかがうことにより、次の看護にいかせる様努めています。

麻酔別手術件数

平成 24 年度

月/麻酔	全麻	腰麻	局麻	硬麻	伝麻	無麻酔	合計
4 月	52	12	55	0	0	0	119
5 月	56	14	62	0	2	0	134
6 月	50	18	45	1	1	0	115
7 月	56	17	68	0	0	0	141
8 月	50	16	60	0	1	0	127
9 月	49	15	67	1	1	0	133
10 月	51	29	70	0	1	0	151
11 月	44	15	69	0	0	0	128
12 月	45	20	50	3	1	0	119
1 月	43	15	70	0	2	0	130
2 月	42	13	77	0	1	0	133
3 月	52	24	65	0	1	0	142
合計	590	208	758	5	11	0	1572

放射線科

[常勤医師] 丸山 市郎 (H22.4～) 川上 悟司 (H21.6～)

[非常勤医師] 岡沢 秀明

【平成 24 年度の診療状況等】

放射線科は、平成 24 年度は常勤 2 名、非常勤 1 名の体制で診療を行いました。

放射線診断部門では、常勤医師 1 名による C T・MR I の読影、血管造影、I V R と非常勤医師 1 名による核医学診断を行いました。核医学診断、単純 X 線写真、上部消化管検査、注腸検査の読影は遠隔診断システム（京都プロメド）にて対応しました。放射線診断装置に変更は無く、64 列 MD C T、1.5 T の全身用 MR I、P E T－C T、I V R－C T、心臓・脳血管用フラットパネル血管造影装置、フラットパネル X 線テレビ、C R 一般撮影装置、マンモグラフィ撮影装置により撮像された画像に対して診断を行いました。従来通り放射線情報管理システム（R I S）、医用画像ファイリングシステム（P A C S）を使ったモニター診断による読影と電子レポートの配信を継続しました。C T の総件数は 10,115 件（同 23 年度は 9,298 件）、MR I の総件数は 3,160 件（同 23 年度は 2,501 件）、P E T－C T の総件数は 295 件（同 23 年度は 237 件）と増加しました。

放射線治療部門では、常勤医師 1 名による診察と治療計画を行いました。平成 24 年度に放射線治療を開始した新患患者数は 35 人で、診療科別では、泌尿器科 14 人、内科 7 人、外科 7 人、脳外科 3 人、口腔外科 2 人、院外紹介 2 人でした。疾患別の内訳は、前立腺がん 12 人、肺がん 9 人、乳がん 7 人、膀胱がん 2 人、下咽頭・食道がん 1 人、舌がん 1 人、上顎がん 1 人、胃がん 1 人、直腸がん 1 人でした。

今後も、放射線領域の高度専門的医療を担当することで、地域医療に貢献したいと考えています。

救命救急センター・救急総合診療科

〔救命救急センター長〕 廣瀬 敏士（兼務）
 〔常勤医師〕 大森 啓子（副センター長 H20.4～）
 千葉 拓世（H22.1～H24.5） 加藤 之紀（H23.4～H25.3）
 東 裕之（H24.4～H25.3）
 〔看護職員〕 26名

【平成 24 年度の診療状況等】

大森、千葉、加藤、東の 4 人で診療させていただいております。

残念ながら、千葉医師は非常勤医師として、今後の留学、研修に備えて、少しお休みをいただきつつとなっています。加藤医師は小浜での 2 年目を迎え着々と経験を積んでいます。東医師は小浜 1 年目ですが、小浜の風土に慣れるスピードは 1 番早いようで、小浜愛をもって、診療に携わっています。

4 人一同、救急外来という、一度しか会わない可能性が高い患者さまを前に、真摯な姿勢で診療をしていきたいと思っています。

他科の医師、スタッフ、地元の先生方、多くの方と連携を取りながら、ご迷惑をかけないよう、少しでもよりよい医療が行われるよう、努力していく所存です。

平成24年度救急総合診療科の取扱件数

日勤帯		救急車	入院数	死亡
4月	248	45	41	0
5月	279	64	54	2
6月	247	56	46	2
7月	296	48	38	2
8月	365	51	45	1
9月	268	54	55	0
10月	248	49	41	2
11月	259	57	57	0
12月	230	65	44	2
1月	254	48	54	1
2月	227	40	34	1
3月	209	53	43	1
合計	3,130	630	552	14
平均	261	53	46	1

日宿直		救急車	入院数	死亡
4月	871	122	155	4
5月	807	88	120	2
6月	691	91	101	5
7月	946	113	110	2
8月	987	154	130	3
9月	872	106	146	1
10月	704	80	99	3
11月	755	108	124	2
12月	926	109	146	8
1月	915	131	165	9
2月	775	92	101	4
3月	879	103	126	5
合計	10,128	1,297	1,523	48
平均	844	108	127	4

歯科口腔外科

[常勤医師] 土井田 誠 (H22.4～) 安藤 幸司 (H14.6～) 杉山 健 (H24.10～H25.3)

[非常勤医師] 柴田 敏之、畠山 大二郎

[研修医] 杉山 健 (H23.9～H24.9)

【平成 24 年度の診療状況等】

歯科口腔外科では、消化器・呼吸器の入り口である顎・口腔の形態と機能のより良い保全に向けて医療の提供を行っております。平成 24 年度の外来患者数は 1 日平均 55.1 人、新規入院患者数は年間 65 人、入院手術件数は年間 59 件（うち全身麻酔手術は 14 件）、外来手術件数は年間 279 件、病理検査件数は年間 109 件（生検 19 件を含む）でした。当科での取扱い疾患（診療内容）は以下の如くです。

< 歯 科 >

- ・ 一般歯科治療（う歯、歯周炎、義歯などの補綴治療）
- ・ 有病者歯科治療

< 口腔外科 >

- ・ 埋伏歯（埋伏智歯、埋伏過剰歯）
- ・ 顎関節症および顎関節炎
- ・ 歯科インプラント
- ・ 顎口腔領域の嚢胞
- ・ 顎口腔領域の炎症性疾患（頭頸部領域の菌性感染症）
- ・ 口腔顎顔面外傷（軟組織損傷、歯の損傷、顎顔面骨折など）
- ・ 顎口腔領域の良性・悪性腫瘍
- ・ 口腔粘膜疾患（白板症、口腔扁平苔癬など）
- ・ 口腔乾燥症・舌痛症

局所麻酔下での口腔外科的疾患の手術（深部埋伏智歯抜歯術、嚢胞摘出術、顎骨骨髓炎等）においては静脈内鎮静法を併用し、患者さまに安全でストレスの少ない口腔外科手術の遂行に心掛けております。全身麻酔下手術においては麻酔科・蘇生科医師と検討のうえ手術療法を施行しております。また、全身的な疾患をお持ちの患者さまの手術においては、関連各診療科の専門医と協力の上で術前～術後管理を一貫して行い、患者さまの口腔顎顔面領域のQOLの向上に努めております。当科の手術日は月曜日の午後および金曜日の午後となっております。

口腔外科においても病-診連携・病-病連携の推進が重要であり、一次医療機関の先生方と患者さまの共同管理に努めながら、病院歯科口腔外科機能の向上を図り、地域住民の皆さまの口腔の健康の維持・増進に貢献したいと考えております。

現在、当科には公益社団法人日本口腔外科学会認定専門医・指導医および卒後臨床研修指導医が常勤しており、今後も岐阜大学大学院医学系研究科口腔病態学分野の柴田教授、畠山臨床講師はじめ専門医師の応援を得て、地域の総合病院歯科・口腔外科として患者さまのために良質な医療の提供を継続したく考えております。当院は平成 18 年 1 月 18 日付で厚生労働省より歯科医師卒後臨床研修施設指定病院（施設番号：051316）、また、平成 24 年 10 月 1 日付で公益社団法人日本口腔外科学会認定関連研修施設（施設番号：関 3029）に認可され、平成 23 年 10 月からは岐阜大学大学院医学系研究科口腔病態学分野より口腔外科医師（研修医）を受け入れ、歯科医師卒後臨床研修を行っており、平成 24 年度には当院麻酔科の荘司先生の御指導の下、麻酔科研修もさせていただきました（平成 24 年 4 月～平成 25 年 3 月）。卒後臨床研修の遂行にあたり各科の専門医師および病院職員の皆様には、平素より御支援・御指導をいただき、この場をお借りして厚く御礼申し上げます。

健診センター

〔健診センター長〕 福井 泉（兼務）

〔副センター長〕 丸山 市郎（兼務）

〔看護職員〕 1 名 〔事務職員〕 1 名

【平成 24 年度の診療状況等】

平成 24 年度の健診センターでは従来通り、1 日ドック、2 日ドック、脳ドック、PET 健診、特定健康診査、各種の健康診断を行うとともに、新たに協会けんぽの健康診断とがん個別検診（肺、胃、大腸）を行いました。

担当は、センター長が福井医師（副院長）、脳ドックを廣瀬医師（脳外科）、その他の健診を丸山医師（放射線科）が行いました。他には、看護師 1 名と事務員 1 名が常駐し各種の業務に対応しています。

消化器センター（胃内視鏡、大腸内視鏡）、循環器科（心電図判定）、外科（マンモグラフィ読影）、婦人科（婦人科診察）、眼科（眼科診察）、耳鼻科（眼底検査判定・聴力検査）、画像診断（胸部単純 X 線写真、腹部超音波検査、PET 検査、胃 X 線検査）、検査科（検体検査、呼吸機能検査、心電図検査）等の院内各部署に協力していただき運営しました。

受診者数は以下のとおりです。

	1 日ドック	2 日ドック	P E T	脳ドック	特定健診	健康診断	協会けんぽ	個別検診
平成 21 年度	625	102	37	106	64	276		
平成 22 年度	641	106	34	124	72	231		
平成 23 年度	700	76	26	135	63	233		
平成 24 年度	698	74	43	108	81	252	124	48

丸山医師が、平成 24 年 4 月に日本人間ドック学会の認定医、平成 24 年 11 月に日本医師会認定産業医、平成 25 年 3 月に日本医師会認定健康スポーツ医に認定されました。

今後も、生活習慣病の予防・早期発見と各種がんの発見を通して、地域医療に貢献したいと思います。

血液浄化センター

〔血液浄化センター長〕	鈴木 裕志（兼務）
〔副センター長〕	中井 正治（兼務）
〔腎臓内科医師〕	吉田 治義（病院長）
〔非常勤医師〕	堀口 孝泰、横山 由就、
〔臨床工学技士〕	4 名
〔看護師〕	13 名

【平成 24 年度の診療状況等】

血液透析コンソールは 42 台と前年度と同様で、臨床工学技士 4 名で機器の管理を行っています。平成 24 年度の血液透析治療の延べ件数は 13,321 名で前年度より 313 名増加しました。平成 24 年度末の透析患者数は 95 名で昨年度から 7 名増加しています。一方、腹膜透析患者数は 4 名と 2 名減少しました。特殊血液浄化治療については、持続血液ろ過透析のべ 25 日、エンドトキシン吸着治療 (PMX) 8 回、LDL 吸着 2 回、腹水濾過濃縮再生静注療法・腹水濃縮濾過透析療法 2 回、白血球除去療法 (LCAP) 10 回でした。

平成24年度も2名の非常勤医師と腎臓内科専門である院長の指示・指導のもと従来どおり運営しております。また、夜間・休日の血液透析には管理当直医を始めとし、複数の診療科医師にお世話になっており、大変感謝しております。血液透析を担当する常勤の腎臓内科医が不在である状態でも血液浄化療法が必要な症例は増加してきています。このため、より良質な血液浄化療法を提供するためには腎臓内科常勤医の赴任を期待したいと思います。次年度も様々な問題点を協議しながら、患者さまがより安全で安心できる透析ライフを過ごせるように力を合わせていきたいと思っています。

消化器センター

〔消化器センター長〕	菅野 元喜（外科 兼務）
〔常勤医師〕	布居 剛洋（内科）、笠原 勝宏（内科）、上田 大輔（内科）
〔非常勤医師〕	山内 淳一、宮寄 守成、岩本 諭、高田 裕
〔看護職員〕 2 名	〔看護補助員〕 1 名

【平成 24 年度の診療状況等】

平成 22 年 4 月開設

わが国の 3 大成人病のうち死亡原因の第 1 位を占める癌（がん）の中で、発生頻度の高い胃癌、大腸癌、肝癌は、小浜病院においても診察件数の多い消化器疾患です。

一口に消化器疾患と言っても、その検査や治療法に関しては近年目覚しく進歩しており、内視鏡検査や内視鏡治療、腹腔鏡手術をはじめとして、あらゆる面で多様化しています。

このような医療環境の中、消化器内科医師、消化器外科医師、画像診断医師が一丸となり、診断から治療まで一貫した方針で迅速かつ的確に診療が行えるよう消化器センターを開設しました。

	平成22年度	平成23年度	平成24年度	前年度比
上部消化管検査	2,273	2,372	2,461	89
うち、粘膜切除術	9	2	4	2
うち、内視鏡的胃ろう増設術	64	55	43	△ 12
下部消化管検査	937	903	942	39
うち、大腸ポリープ切除術	50	32	9	△ 23
うち、シグモイドファイバー	28	7	2	△ 5
気管支ファイバー	38	20	25	5
膵胆管造影検査	100	132	105	△ 27

薬 剤 部

〔職員数〕（非常勤職員含む）

薬剤師 11 名

薬剤助手 4 名

【平成 24 年度の診療状況等】

4 月に退職者 1 名の補充ができ、また 10 月には育休者も復帰し数年ぶりにフルメンバーとなりました。

本年度も、昨年度に引き続き後発医薬品を積極的に採用し、昨年度までの採用分を合わせ 61 品目、薬価ベースで約 12 %でした。

薬学部 6 年制に伴う実務実習では、福井県はグループ実習（1 人の薬学生が複数の病院で実習すること）が決まっており 11 週全て 1 病院で実習はしませんが 1 名受け入れました。

現在の課題は、休日も 2 名出勤し処方箋による注射剤払い出しを実施しており、休日勤務者の代休と当直翌日の職免とで平日 2 名が休み、薬剤管理指導業務が手薄になっていることです。

【今後の予定】

- ・ 薬剤管理指導業務の充実
- ・ 病棟薬剤師配置

画像診断センター

〔画像診断センター長〕 川上 悟司（放射線科）

〔放射線技師〕 11 名 〔看護師〕 6 名

【平成 24 年度の診療状況等】

画像診断センターは放射線科診断専門医をセンター長として医師、診療放射線技師、看護師をはじめそのほか関係する各部署の職員から構成されています。

画像診断センターは機械、撮像、読影の精度を管理しています。これらは画像診断の臨床レベルを高めるために重要な項目です。

今日、疾患に対する検査、治療方法は目覚ましい進歩と多様化がみられます。現在、当施設でも高速撮像が可能なボリューム CT や高磁場 MRI や PET-CT といった機器が導入され稼動しています。放射線科以外の科でも院内で X 線を用いた消化管造影検査や血管造影といった画像診断およびそれを用いた治療が行われています。

CT は全身にわたる撮像を容易にし、MRI も機械は数年で劇的に進化する一方で、CT では他の X 線検査に比較して多い被曝の問題や MRI の装置の特性に由来する検査適応の制限などの問題があります。核医学検査も有用な機能画像を提供しますが、そのためには放射性同位元素を体内に投与する必要があります。医療レベルの向上への貢献と安全性は両立されなければなりません。

このような背景から、画像診断センターでは安全で価値の高い画像診断の施行や、看護師や関係する各部署との連携をより強固にするために人材育成を含めた環境整備を行っています。

医師については、引き続き専門医による読影を通じて画像診断のレベルを高める努力を行います。

診療放射線技師についても撮像技術を基礎として装置の性能評価や精度管理や保守および被曝や造影剤に関しての安全性などの知識と基礎的な臨床知識を持ち、これらを医師に提供し検査の施行を協議できることが望まれます。

画像診断すべてに共通することですが、正しい診断のためには、整備できた機械で知識を持った技師が撮像し、専門医が読影するという過程がきわめて重要です。

画像診断センターではこのような方針のもとで、引き続きより一層精度管理を確保するとともに最新の医療技術に対応した最善の画像情報を提供し、安全を担保することで地域のニーズに寄与します。

臨床検査科

〔職員数〕（非常勤職員含む）

臨床検査技師 14 名

【平成 24 年度の業務内容等】

●検査件数

検査件数（外注を含む総件数）は、H21 年度 708,372、H22 年度 720,620、H23 年度 792,980、H24 年度 829,824（医療行為月報を基に集計）と増加が続いています。

限られた人員で正確かつ効率的な業務を遂行するため努力しています。今年度病理検査室への自動染色装置の新規導入により染色作業の効率化が図られ、スタッフ一名が生理機能検査等を担当することが可能になりました。

●精度管理検討会について

元病院長の小西先生に引き続き臨床検査の指導・管理をお願いし、毎週一回行なっているミーティング時に、主に内部精度管理について各分野交替で状況報告と意見交換をし、小西先生から助言等を頂いています。外部精度管理については、日本臨床検査技師会の全国コントロールサーベイ、福井県臨床検査技師会のコントロールサーベイ他、試薬メーカーのサーベイ等に参加し各分野とも良好な成績を得ていますが、この検討会でもディスカッションを持ち、成績を全員で確認しています。試薬・装置・コントロール検体・手技等について具体的に変更・改善した事が多く、検査精度の改善につながっています。

今後も引き続き取り組み、検査の質の向上を図りたいと考えています。

●院内感染対策委員会

狭義の院内感染のみならず、多様な感染症に関する情報提供、予防・診療の検討、指針の策定や指導も行なっていますが、その中で臨床検査技師は中心的な任務を担っています。今後、院内感染対策はますます重要になると考えられ、その活動の充実のため努力していきたいと考えています。

●糖尿病療養指導（「糖尿病教室」）

糖尿病療養指導士 2 名が、「教室」に参加していますが、患者様の期待に少しでも応えられるよう、学会や研修会に参加して蓄積を増やしながら進めています。

●臨床検査システム・電子カルテシステム

今般 25 年度に電子カルテシステム稼働が予定され、その構築が大きな課題になっています。電子カルテ化に伴い、従来の検体検査系に加え、生理機能検査システムと病理検査システムの導入、また輸血検査システムの連携稼働、さらに細菌検査システムの感染対策情報管理システムへの拡大等を予定しています。

●その他

検査精度（正確性・精密性）の向上を基本にしながらも、検査試薬・機材等のコストパフォーマンスについて留意し、検討・改善を進めていく予定です。

病 理

[非常勤医師] 内木 宏延（福井大学医学部 分子病理学教授）

【平成 24 年度の診療内容等】

病理組織診断件数は、年々増加傾向にありましたが、今年度は、昨年度 1956 件と比べ 1814 件と減少しました。提出科別には、内科・循環器科 (35.8%)、外科 (26.5%)、健康診断科 (7.6%)、産婦人科 (9.7%)、口腔外科 (7.7%)、泌尿器科 (5.4%)、その他の科の順になっています。検査材料別には、生検・ポリペクトミー等（消化器・呼吸器・泌尿器・皮膚・子宮頸部他）が 74.0% を占め、手術検体・腫瘍等の摘出検体が 26.0% の比率となっています。

術中迅速病理診断は 13 件で、内容は、胆道系 (5)、呼吸器系 (3)、乳腺腫瘍 (1)、その他 (4) となっています。術中迅速病理診断は、ごく限られた検体（範囲）から特殊な手法により直ちに標本作製するため、かなり制限された条件下の病理診断となりますが、診断精度の維持・向上に努めています。遠隔病理診断（テレパソロジー）は 3 件、肺・胸膜について実施致しました。

また、病理診断の一部である細胞診検査に関しては、当院の細胞検査士（スクリーナー）への指導・ディスカッションを行なっています。現在、細胞検査士が 2 名常勤しており、所要時間（日数）・処理能力・診断技術面で日々、向上に努めています。悪性腫瘍（がん）の発見・診断・治療にとって、細胞診検査はきわめて重要なものであり今後ますます必要性が高まっていくと考え、地域の中核医療機関として今後もこの態勢を維持することが期待されます。

病理解剖（剖検）については、非常勤のため剖検自体を担当（執刀等）することは困難ですが、固定後臓器の検索・標本作製・病理診断を行なっています。C P C（臨床病理検討会）は、一般的にはこのような病理解剖例について解剖で得られた知見を、医師をはじめとする多くの関係スタッフで共有し、今後の診療に活かすために行なわれます。当院でも定期的に行なっており、今年度は 10 症例実施しました。剖検例に限らず多彩な症例を取り上げ充実したものになっています。ただし時間的制約があることや、参加職種がやや偏りがちであるのが今後の改善課題かと考えます。

来年度は、病理システム導入により、診断・画像情報の一元管理、各依頼端末での診断結果参照が可能となります。

リハビリテーション科

〔職員数〕（非常勤職員含む）

理学療法士 8 名 作業療法士 8 名 言語聴覚士 4 名
補助員 5 名

【平成 24 年度の診療状況等】

I 各療法別の紹介

理学療法

1 活動報告

1) 診療内容

理学療法の対象疾患は脳卒中、下肢骨折などの整形疾患、呼吸器疾患、心疾患、小児疾患、廃用症候群など様々です。入院・外来の患者様に対して評価をし、計画を立てて、個々の状態に合わせてベッドサイドやリハビリ室での理学療法を行います。早期より介入し離床を進めることで活動性低下による廃用症候群を予防・改善し、早期退院を目指します。理学療法の内容は、筋力トレーニングや関節可動域練習、神経筋促通などの運動療法や、寝返り・起き上がり・座位・立ち上がり・歩行などの基本動作練習を中心に行っています。その他に、消炎鎮痛目的に物理療法も行っています。また、PT・OT・ST と共に退院前カンファレンスや退院前居宅訪問にも積極的に介入し、退院後のよりよい生活が送れるように、家族・ケアマネジャー・介護サービススタッフ・福祉用具専門員などと情報交換を行っています。

2) 昨年度との比較

処方件数の約半分が廃用症候群です。リスク管理に十分に配慮しなければならない環境が気になる所です。

3) 今後の課題

今後は、今まで以上に院内外他職種との連携を密にとり、リスク管理の徹底、そして患者様の ADL（日常生活活動）や QOL（生活の質）の向上を目指し取り組んでいきます。

各セラピストが認定や専門の取得を積極的に行い、専門性の向上に努めます。

患者様・地域のニーズに応えるため、急性期リハビリの強化、維持期のフォロー体制の確立が必要であると考えます。

経営効率にも配慮した理学療法の展開が必要であると考えます。

2 研修会、学会参加

- | | |
|---------------------|----------------|
| ・ 福井県心肺リハビリテーション研究会 | ・ 福井県士会主催研修会 |
| ・ 地域支援部主催地域リハ研修会 | ・ 日本理学療法学術大会 |
| ・ 日本心臓リハビリテーション学会 | ・ 福井県理学療法学術大会 |
| ・ 日本理学療法士協会基礎講習会 | ・ 福井県リウマチケア研究会 |

3 研修会・講義の講師派遣、発表

- ・ 介護予防・リハビリ推進人材事業 従事者研修会
- ・ 看護部院内勉強会
- ・ 看護学校講義

身障作業療法

1 活動報告

1) 診療内容

身体障害作業療法では、主に脳卒中、上肢骨折などの整形外科疾患、内科疾患などの患者様を対象に、日常生活動作がより円滑になるようリハビリを行っています。内容は、1) 起居・座位などの基本動作練習、2) 食事・排泄・更衣等の生活動作練習、3) 注意・記憶等に関する高次脳機能練習、4) 生活環境設定、5) 関節運動・筋力運動・姿勢コントロールなどの機能的作業療法などを行っています。

また、発達作業療法では、言語発達遅滞、広汎性発達障害などの小児科患者様を対象に、生活活動練習・発達全般に関する支援を行っています。

2) 昨年度との比較

身体障害作業療法では、昨年度と比較し実施単位数が増加しています。

発達作業療法においては、嶺南地域療育拠点施設整備事業により「こどもリハビリるーむ」が開設され、小児専門の作業療法室が開設されたことから、発達作業療法の実施単位数が増加しています。

3) 今後の課題

疾患の特性に応じた、より効果的な作業療法の提供に努めます。日常生活活動に関する作業療法の充実に努めます。また、勉強会・研修会に積極的に参加し技術の向上を図ります。同職種間、他機関との連携の強化を図ります。リハビリを実施するにあたり安全管理に努めます。

2 研修会、勉強会参加

- ・ 全国作業療法学会
- ・ 福井県作業療法学会
- ・ 院内外作業療法士勉強会

3 研修会・講義の講師派遣、発表

- ・ 看護学校講義

精神作業療法

1 活動報告

◎精神科作業療法

1) 診療内容

- ①活動性・自主性の向上。②対人関係、人付き合いの練習をする。③生活リズムの調整。
④認知・身体機能の維持、改善。⑤活動と休息のバランスを身につける。⑥感情の表現と

発散、気分転換。⑦自己価値の再発見。⑧日常生活に必要な生活技能の練習をする。⑨興味の拡大。⑩社会性の向上。⑪自己理解を深める。を目的に、入院・外来患者様の症状に合わせ実施しています。

2) 昨年度との比較

患者様の必要性に合わせて、プログラムの変更を行っています。

3) 今後の課題

認知症患者様の対応、安全管理の徹底、退院促進、地域生活の援助、就労支援に努めます。

精神科デイケア

1) 診療内容

①通所者の居場所を提供し、生活圈・対人交流範囲の拡大を図る場。②様々なグループ活動を通じて、円滑な対人交流、社会性、自主性を獲得する場。③生活リズムを維持し、日常生活技術を獲得する場。④個々の通所者の病状、能力に見合った現実的な就労支援をする場。⑤医療的な関わりによって病状の再燃を防止し、病状悪化の際はそれを早期に把握するなど、通常の外来診療を補完する治療の場。⑥同居している家族との適切な距離を保つために、日中過ごす場。⑦疾患のセルフコントロールの学習・練習の場。これらの役割をベースに、患者様個々の目的・目標に近づけるように、リハビリテーション科の作業療法士もスタッフとして日々様々な大小の集団プログラム（月に20弱のプログラム数を実施）を運営しています。

2) 昨年度との比較

患者様の要望や必要性に合わせて、月毎のプログラムは変更しています。

3) 今後の課題

多様化する通所者様の目的や目標の傾向に応じたプログラム運営、安全管理の徹底に努めます。

2 研修会・勉強会参加

- ・福井県嶺南地区精神科事例検討会
- ・県士会主催の各種研修会・勉強会

言語聴覚療法

1 活動報告

1) 診療内容

成人患者様では主に摂食・嚥下訓練、失語症訓練、構音訓練、高次脳機能訓練を行っています。中でも、摂食・嚥下訓練を必要としておられる患者様が多く、食べ物を使用しない間接的訓練や実際の食べ物を使用して行う直接的訓練を行っています。小児患者様では主に構音訓練や言語発達遅滞、広汎性発達障害などの方に対して言語・コミュニケーション訓練などを実施しています。地域からのニーズも高く、患者様の増加が見られています。

2) 昨年度との比較

小児分野において地域療育拠点事業の一環として、こども療育センターからの職員派遣が始まりました。

3) 今後の課題

患者様にとってより良い摂食・嚥下訓練を行うため、さらに詳しい評価の確立が望まれ技術の向上に取り組んでいます。

また、言語訓練を行う際、注意・集中力などの面から個室を使用して行う場合が多くあります。しかし、部屋数が限られており、交代で使用しているため、場所の確保が望まれます。安全にリハビリが実施できるよう安全管理に努めます。

2 研修会・勉強会参加

- ・嶺南地区言語聴覚士勉強会
- ・嶺南西養護学校見学
- ・福井言語聴覚学会大会
- ・NST カンファレンス
- ・福井療育センター見学
- ・呼吸器ケア・リハをする人のための基礎技術

3 研修会・講義の講師派遣、発表

- ・看護学校講義
- ・施設への介護予防講義
- ・介護予防センターでの講義

物理療法

消炎、鎮痛を主な治療目的として多くは整形外科的疾患が対象です。機器・器具はホットパック、マイクロ波治療、赤外線治療、低周波治療、頸・腰椎牽引装置です。

Ⅱ 各科カンファレンスの実施

昨年度に引き続き各科カンファレンスを積極的に実施しています。

内科：月 2 回。医師と看護師を交え入院患者様の現在の様子や情報交換など行い、今後の方針などを話し合います。

脳外科：月 2 回。医師と看護師を交えて入院患者様の現在の様子や情報交換などを行い、今後の方針の検討など話し合います。

整形外科：月 1 回。医師と看護師と地域連携室の方を交えて、患者様の現在の様子や退院に向けての状況など情報交換や今後の検討など話し合います。

小児科：月 2 回。医師と患者様の現在の様子や今後の方針などを話し合います。

精神神経科：週 2 回（入院、外来各 1 回）。医師、看護師、ソーシャルワーカーを交え、患者様の症状の情報交換や今後の方針など話し合います。

リハビリ科：月 1 回。リハビリスタッフ内で情報交換など行い、今後の患者様の治療方針などを話し合います。

Ⅲ 介護予防・リハビリ人材養成推進事業の事業展開

若狭圏域広域支援センターとして、地域の各関係機関に対して相談支援・現場指導・研修会などを実施し、リハビリテーション理念の浸透に努めました。

訪問事業

1) 事業目的

当事業は、より効果的な自立支援サービスの提供が可能となるように、居宅並びに施設へリハビリテーションスタッフが訪問し、リハビリの方法を検討・指導するものです。

2) 事業内容

依頼・指導内容は介助方法や運動指導が主でした。対象者は、脳卒中後遺症、複数の

疾患や複数の疾患や病態を罹患している方でありました。

3) 今後の展望

今後も、さらに事業の存在・内容を理解していただくために周知を行い、出来る限りの訪問を検討していく必要があると考えられます。また、実施後のフォロー体制についても検討していく必要があると考えます。

介護予防事業

1) 事業目的

当広域支援センターでは、平成 12 年度から始まった地域リハビリテーション整備推進事業の一環として、「健康づくりの推進」と「介護予防の強化」を目的として事業を開始した。

当初より、予防的リハビリテーションの観点から、また嶺南圏域でのリハビリスタッフの不足という課題を抱えていたことから、地域住民自ら地域を支える体制を作る事を目的とし、小浜市をモデル地区として様々な既存団体への介入を中心に当委員会は事業展開を行ってきた。

平成 14 年度からは、サロンへの介入を中心とし、平成 16 年度からはサロンのリーダー育成を重点とした研修会（以下：リーダー研修会）を開催した。平成 19 年度からは、各市町の包括支援センターと連携し、小浜市のみでなく若狭圏域での活動を開始した。

2) 事業内容

今年度、当委員会は研修会での講義・体操の内容に関しては、各地区のニーズに添うよう提案する、各地区の包括支援センターや社会福祉協議会・リーダー研修会参加者にアンケートをとり評価に繋げていくことを運営方針として挙げた。

今年度の研修会の特徴としては、小浜市に関してはサロンリーダーだけでなく「運動サポーター」「サポートナース」に対しても体操の指導を行った。また、若狭町では効果判定をするために体力測定をした後、体操指導を行い実施状況の確認・効果を後日再評価した。高浜町では昨年度と同様に合同サロンに介入を行い、名田庄地区、大飯地区も昨年と同様にサロンリーダーへの介入を行った。

体操は、昨年度までに作成した「若さを維持する、若狭い～じ～体操」（以下：い～じ～体操）の 14 種類、各地区の要望に沿った体操を紹介した。（表 1・表 2・表 3・表 4）。今年度、当委員会が介入し実施したリーダー研修会について、実施状況を以下に報告する（表 5）。

表 1.体操種類（H19～20 年度）

体 操 種 類	内 容
上肢・下肢ストレッチ	筋肉の柔軟性を高める
タオルストレッチ	身近な道具を使い、筋肉の柔軟性を高める
ペットボトル体操	身近な道具を使い、筋力強化、バランス能力の改善を図る
尿失禁予防体操	尿失禁予防
頭の体操、個人編・集団編	手足を動かし、頭の体操を行う
カユイゆかい体操	上肢・体幹の柔軟性を高める
新聞体操	「手のひらを太陽に」の音楽に合わせ、上肢・体幹の柔軟性を高める
バランス能力低下予防体操	「手のひらを太陽に」の音楽に合わせ、転倒予防体操を行う

頭の体操	「手のひらを太陽に」の音楽に合わせ、頭の体操を行う
------	---------------------------

表 2.体操種類（H21 年度）

体 操 種 類	内 容
肩こり予防体操	「上を向いて歩こう」の音楽に合わせ、肩こり予防体操を行う
ハンガー体操	「上を向いて歩こう」の音楽に合わせ、上肢・体幹の柔軟性を高める
ぽっこりお腹体操	「上を向いて歩こう」の音楽に合わせ、体幹の運動を行う

表 3.体操種類(H23 年度)

体 操 種 類	内 容
あっちよこ運動	日常の動作に合わせて「～しながら」全身の体操を行う

表 4.体操種類(H24 年度)

体 操 種 類	内 容
腰痛体操	腰痛に対してのストレッチ、筋力強化の体操を行う

表 5. H24 年度研修会内容

	日付	内容	参加人数	委員スタッフ人数	対象者
小浜市					
第2回	2012/10/31	ストレッチ	25	1	運動サポーター、サポートナース
第3回	2012/12/21	嚙下体操、歌に合わせた体操	約 40	2	サロンリーダー
第4回	2013/1/29	腰痛体操	約 80	2	サロンリーダー
おおい町(名田庄)					
第1回	2012/8/2	嚙下・タオル・腰痛体操	7	2	サロンリーダー
第2回	2012/8/29	嚙下・タオル・膝痛体操	11	2	サロンリーダー
おおい町(大飯地区)					
第1回	2012/8/30	ぽっこりお腹体操	9	2	サロンリーダー
第2回	2012/9/5	ペットボトル体操、頭の体操	11	2	サロンリーダー
高浜町					
第1回	2012/11/16	あっちよこ運動、頭の体操	約 160	3	サロンリーダー
若狭町					
第1回	2012/7/24	体力測定、あっちよこ運動	69	3	サロンリーダー
第2回	2012/11/14	体力測定、あっちよこ運動	49	2	サロンリーダー

1) 今後の展望

今回、サロンリーダーだけでなく各地区の担当者にアンケートを実施し、感じたことはやはり各地区によって課題が異なり、アンケートでは適切な介入回数だったという結果であったが各地区の平均介入回数は2回ほど(表5)で、軌道にのっていない地区と軌道にのっている地区の介入回数がほとんど変わらないということである。

軌道にのらない背景には、地区によっては農繁期などの時期と開催時期が重なってしまうことや民生委員には任期があるため引継ぎが上手く出来ずに一からの指導になってしまうなどが考えられる。そのため、軌道にのっていない地区に対して引き継げるような共通のシートを作成することなどの対応が必要になってくると考えられる。

また、当事業においても、各地区の次年度の目標や運営方針を事前に把握できることはスムーズに連絡調整・方針の協議などに取り組めるため、今後も今年度のような各地区に対してのアンケートを引き続き実施していけるとよいのではないかと考える。

効果判定に関しては、アンケートが主な評価スケールになっているがアンケートのみでなく、負担にならないような共通の簡単なチェックシートを各地区と協力して作成し実施状況を確認していくことも一つの方法ではないかと考える。

平成16年度よりサロンリーダーに対しての介入をスタートさせ約8年経過するが、どの地区もなかなかサロンに持ち帰り継続的に実施を行なう事が難しいという現状がある。今後は各地区に対象をサロンリーダー以外も含めた新たな対象を選んでもらい各担当とともに対応する必要がある。

従事者研修会事業

1) 事業目的

介護予防に関する従事者研修会の開催により、地域リハビリテーションに携わる様々な職種の方が、より質の高いサービスを提供できるように支援します。

2) 事業内容

第1回従事者研修会

テーマ：「学ぼう！認知症ケア ～早期発見のポイント&頭の体操編～」

日時：10月24日(水) 18:30～20:30

場所：杉田玄白記念公立小浜病院 9階大会議室

講師：杉田玄白記念公立小浜病院 精神科医 山村茂樹 先生

介護老人保健施設ゆなみ 言語聴覚士 寺川智浩 先生

内容：認知症についての講義

個別による脳活性化リハビリについての講義・実技

参加者人数：43名

第2回従事者研修会

テーマ：「学ぼう！認知症ケア ～早期発見のポイント&頭の体操編～」

日時：11月28日(水) 18:30～20:30

場所：杉田玄白記念公立小浜病院 9階大会議室

講師：介護老人保健施設ゆなみ 言語聴覚士 寺川智浩 先生

理学療法士 山中雄大 先生

内容：リハビリ要素を取り入れた体操の紹介

集団における脳活性化リハビリについての講義・実技

参加者人数：42 名

2) 今後の展望

今後も今年度の従事者研修会の様に、現場が必要としているものをテーマにし、現場で活かせる内容を検討して提供する必要があります。そのため、テーマ選択をする際に、運営委員会にてご意見をいただくと共に、アンケートなどを実施して、実際の現場の意見やニーズを知ることが必要であると考えています。

Ⅳ 地域支援体制

障害児通園施設指導を行いました。

- ・母と子の家 作業療法指導（月 1 回、計 12 回）

Ⅴ 実習生の受け入れ

教育研修機能の充実、及びリハビリテーション職種の後輩育成の為、当科開設以来実習生を受け入れています。

理学療法、身障作業療法、精神作業療法の 3 部門において福井県内の養成校を中心に評価・臨床実習に来ています。期間は 4～8 週間、人数は各部門ごとに 3 人～10 人を受け入れています。

Ⅵ 認定士資格の現状

各取得認定、資格など

- ・心臓リハビリテーション指導士：24 年度 理学療法士 2 名
- ・3 学会合同呼吸認定療法士：24 年度 理学療法士 2 名

食事療法科

【職員数】（非常勤職員含む）

管理栄養士 2名 栄養士 4名 調理師 9名 事務職員 1名

【平成24年度の診療内容等】

- ① 患者食管理（食数管理）
- ② 材料管理（見積り管理、納品管理）
- ③ 栄養管理（献立管理）
- ④ 栄養管理計画書作成
- ⑤ 入院、外来栄養指導
- ⑥ その他（栄養指導関連行事参加）

【新たな取り組み】

- ① 入院患者様に栄養管理計画書を作成し、必要な栄養量を提示することが継続してできました。
- ② 毎月、行事食や旬の食材を使用した献立をしおりなど添えて提供することができました。
- ③ 平成25年度より栄養サポート加算（NST）算定に向け 準備委員会を立ち上げ、多職種により低栄養の患者さまの改善を図ります。
- ④ 褥瘡委員会に継続して出席し、回診にも参加することができました。
- ⑤ 心臓カテーテル検査の患者様への栄養指導を実施することができました。

【今後の取り組み】

- ① 患者様アンケートを充実させ、患者様に喜ばれる食事内容と器に関する検討を行います。
- ② 栄養指導の充実を図り、実施件数を増やします。
- ③ 集団栄養指導の実施件数を増やします。
- ④ 栄養管理計画を充実させ、他部門との連携を図り低栄養の患者様の改善を図ります。
- ⑤ 電子カルテに向けて、給食管理システムとの連携についての検討を行います。

【平成24年度業務統計】

食 数

常 食 58,891食 軟菜食 134,966食 流動食 673食 特別食 166,491食

栄養指導件数

集団指導 2件 入院栄養指導 145件 外来栄養指導 74件

栄養管理実施件数

栄養管理件数 2,983件

看護部

〔職員数〕（非常勤職員含む）

看護師 261 名 助産師 15 名 准看護師 42 名 看護補助員 39 名
(平成 24 年 4 月 1 日現在)

看護部の理念・方針・目標

【看護部理念】

地域の皆さまのその人らしい生活の実現に向けて、安全・安心な看護を提供します

【看護部基本方針】

1. その人らしさを大切にする看護を提供します
2. チーム医療に積極的に参加します
3. 教育機能の充実に努めます
4. 専門職業人としての自覚と誇りを持てる人材を育成します
5. 経済性に配慮した取り組みをします
6. ワークライフバランスを推進します

【平成 24 年度看護部目標】

1. 看護実践力の強化
2. 働きやすい職場環境づくり
3. 相互が満足できる看護の提供
・ 部署内活動の活性化
4. チーム医療への参画
5. 医療安全の推進
6. 接遇の向上
7. DPC の理解と協力

平成 24 年度 看護部活動

月	内容
4 月	2～9 日 新人看護師オリエンテーション 5 日 看護部倫理委員会活動開始 12 日 県内看護学院訪問 23～27 日 看護学生就職勧誘のための家庭訪問 27 日 若狭高等看護学院学生対象 就職説明会
5 月	10 日 看護の日 記念行事 26 日 福井県看護協会主催就職説明会（嶺南）
6 月	8 日 看護補助員研修 30 日 福井県看護協会主催就職説明会(嶺北)
7 月	14 日 就職説明会（JA 若狭） 23 日 「看護職への道」講演会講師派遣：澤明依 26 日 高校生一日看護体験受け入れ 52 名
8 月	
9 月	3 日～28 日 新人看護師ローテーション研修開始 認定看護師室を開設し、活動開始 電子カルテ導入に向けての勉強会、他病院見学に参加
10 月	看護部相談室開設（部長、副部長、新人教育担当看護師）
11 月	3 日 師長主任研修：目標管理の中間評価
12 月	
1 月	25 日 院内看護研究発表会開催
2 月	
3 月	9 日 師長主任研修：目標管理最終評価、次年度看護部目標立案

平成 24 年度 看護部活動

委員会	活動内容
教育委員会	☐ クリニカルラダーⅠ～Ⅴ 研修企画・実施・評価 ☐ 看護補助員と事務員研修企画・実施・評価 ☐ 伝達講習会、看護研究発表会企画・実施・評価
安全対策委員会	☐ ヒヤリ・ハット体験事例報告書の集計と情報共有 ☐ 安全対策ラウンドの企画・実施・評価 ☐ クリニカルラダーⅡ,Ⅲ研修企画・実施・評価
看護部接遇委員会	☐ 接遇ラウンドの企画・実施・評価 ☐ クリニカルラダーⅠ,Ⅱ,Ⅲ,Ⅳ研修企画・実施・評価
記録委員会	☐ 看護記録の監査 ☐ 看護記録ガイドラインの整備 ☐ クリニカルラダーⅠ研修の企画・実施・評価
注射・与薬委員会	☐ 注射マニュアルの追加・修正 ☐ 注射に関するラウンドの企画・実施・評価 ☐ クリニカルラダーⅠ,Ⅱ,Ⅲ,Ⅳの企画・実施・評価
業務検討委員会	☐ 看護手順の見直し、新規作成 ☐ 看護手順の読み合わせによる周知
感染対策委員会	☐ 環境ラウンドの企画・実施・評価 ☐ クリニカルラダーⅠ,Ⅱ,Ⅲ、看護補助員研修の企画・実施・評価 ☐ 嶺南感染フォーラムへの参加 ☐ 感染対策マニュアルの一部を見直し、ICTへ
看護部褥瘡対策委員会	☐ 院内勉強会の企画・実施・評価 ☐ 褥瘡回診への参加 ☐ エアマットの管理
看護倫理委員会	☐ 4分割法による事例検討 ☐ 看護倫理研修の企画・実施・評価 ☐ 院外研修参加し、メンバーへ伝達
プリセプター委員会	☐ 看護技術研修の企画・実施・評価 ☐ 新人看護師のヒヤリ・ハット体験事例報告書の情報共有
実習指導者委員会	☐ 臨床実習での指導・評価 ☐ 臨床講義の企画・実施 ☐ 教員との情報交換
看護補助員委員会	☐ 接遇に関する学習会 ☐ ヒヤリ・ハット体験事例報告書の記入
看護事務員委員会	☐ DPC 勉強会への参加 ☐ SPD 定数の見直し ☐ 単価票作成、各病棟に掲示

平成 24 年度 クリニカルラダー教育計画

㊤：S-QUE 院内研修 オンデマンド研修

	O J T	O f f - J T	院外研修
レベル I	☐ 新採用者OR ☐ 看護記録/看護診断 ☐ 看護基準/看護手順にそった看護技術 ☐ 各種マニュアル ☐ 部署の特殊性 ☐ 防火訓練参加 ☐ 目標管理 役割：看護学生への支援	教育委員会 ☐ フォローアップ研修 ☐ 講演会 ☐ 伝達講習会 ☐ 看護研究発表会 記録委員会 ☐ 看護記録ガイドライン ☐ 看護診断/看護記録 ㊤9月 安全対策委員会 ☐ 医療安全管理マニュアル ☐ 医療安全 接遇委員会 ☐ 接遇マニュアル 感染対策委員会 ☐ 院内感染対策マニュアル ☐ 針刺し防止 褥瘡対策委員会 ☐ 最新の褥瘡治療と管理の実際 ㊤10月 プリセプター委員会 ☐ 新人OR ☐ 看護技術研修 注射委員会 ☐ 静脈注射/薬理作用 倫理委員会 ☐ 看護倫理/看護を語る ㊤3月 看護部 ☐ 新人OR ☐ ローテーション研修 9月	看護協会 ☐ 新人研修 病院 ☐ 新採用者接遇講演会 ☐ 倫理講演会 ☐ BLS ☐ 防災関連 ☐ 医療安全 ☐ 感染対策
	☐ プライマリナースとなり看護過程を展開（記録委員指導） ☐ 未実施の看護技術チェック ☐ 各科特殊技術の修得 ☐ 看護必要度 ☐ 目標管理 役割：看護学生への支援	教育委員会 ☐ チームメンバー研修 ☐ 講演会 ☐ 伝達講習 ☐ 看護研究発表 記録委員会 ☐ 看護診断/看護記録 ㊤9月 安全対策委員会 ☐ 危険予知トレーニング 注射委員会 ☐ 薬理作用：アナフィラキシーショック 接遇委員会 ☐ 医療人としての接遇 倫理委員会 ☐ 看護倫理/看護を語る ㊤3月 感染対策委員会 ☐ 経路別感染対策 プリセプター委員会 ☐ レスピレーター療法 ㊤5月 病院 ☐ 接遇講演会 ☐ 医療安全 ☐ 感染対策	他 ☐ I C L S 医師会

	O J T	O f f - J T	院外研修
レベルⅢ	☐ 日勤チームリーダー研修 ☐ 未実施の技術チェック ☐ 各科特殊技術の修得 ☐ 目標管理 役割：看護学生及び後輩への指導	教育委員会 ☐ チームリーダー研修 ☐ 講演会 ☐ 伝達講習 ☐ 看護研究発表会 記録委員会 ☐ 医療事故発生時の看護記録 安全対策委員会 ☐ 時系列分析 注射委員会 ☐ 薬理作用：向精神薬 接遇委員会 ☐ 患者満足度とは 接遇委員会 ☐ 看護倫理/看護を語る ㊦3月 感染対策委員会 ☐ 基礎から学べる感染管理技術の実際とその効果 ㊦10月 病院 ☐ 接遇講演会 ☐ 医療安全 ☐ 感染対策	他 ☐ トリアージ 医師会
	☐ 看護研究への取り組み ☐ N A N D A看護診断 個別性の看護計画立案、展開 ☐ 院外研修参加、部署での伝達 ☐ 目標管理 役割：看護学生実習担当 プリセプターとなり新人 看護師指導	教育委員会 ☐ 院外研修伝達講習会 ☐ プリセプター研修 ☐ 次期プリセプター研修 ☐ 講演会 ☐ 伝達講習 ☐ 看護研究発表 記録委員会 ☐ 看護診断/看護記録 ㊦9月 注射委員会 ☐ 実践がん化学療法の基礎 ㊦11月 倫理委員会 ☐ 看護倫理/看護を語る ㊦3月 病院 ☐ 接遇講演会 ☐ 医療安全 ☐ 感染対策	看護協会 ☐ 福井県看護研究発表会
	☐ 師長代理研修 ☐ 目標管理 役割：新人看護師の实地評価者 実習担当者 看護部委員として部署での推進	教育委員会 ☐ 師長代理研修 ☐ ストレスマネジメントとモチベーションアップ ㊦8月 ☐ 患者に寄り添った退院支援と連携 ㊦1月 ☐ 講演会 ☐ 伝達講習 ☐ 看護研究発表 倫理委員会 ☐ 看護倫理/看護を語る ㊦3月 病院 ☐ 接遇講演会 ☐ 医療安全 ☐ 感染対策	

	O J T	O f f - J T	院外研修
看護補助員	☐ 目標管理 役割：環境整備／5S	☐ 教育委員会 ☐ 最新の廃用症候群予防とケア ㊤2月 ☐ 安全対策委員会 ☐ 危険予知トレーニング ☐ 感染対策委員会 ☐ 基礎から学べる感染管理技術の実際とその効果 ㊤9月 ☐ 病院 ☐ 接遇講演会 ☐ 医療安全 ☐ 感染対策	
	☐ 目標管理 役割：各種書類の取り扱い SPDの定数管理	☐ 教育委員会 ☐ 診療報酬/介護報酬改定 ㊤5月 ☐ 安全対策委員会 ☐ 危険予知トレーニング ☐ 病院 ☐ 接遇講演会 ☐ 医療安全 ☐ 感染対策	
管理Ⅰ	役割 教育担当者 プリセプター、実施評価者、 実習指導者指導と支援 中途採用者、勤務異動者の 指導 医療安全、接遇への取り組み	☐ 教育委員会 ☐ 講演会 ☐ 伝達講習 ☐ 看護研究発表 ☐ 倫理委員会 ☐ 看護倫理/看護を語る ㊤3月 ☐ 看護部 ☐ 師長主任研修（オンデマンド） ・診療報酬/介護報酬改定 5月 ・人材確保、育成プロモーション 10月 ☐ 病院 ☐ 接遇講演会 ☐ 医療安全 ☐ 感染対策	☐ 看護協会 ☐ 定例研修 ・クレーム、暴言、暴力の 予防と対応法 ・ワークライフバランスと 組織作り 他 ☐ 全国セミナー
	役割 病棟管理 目標達成のために、スタッフ への役割分担と支援・指導	☐ 教育委員会 ☐ 講演会 ☐ 伝達講習 ☐ 看護研究発表 ☐ 倫理委員会 ☐ 看護倫理/看護を語る ㊤3月 ☐ 看護部 ☐ 師長主任研修（オンデマンド） ・診療報酬/介護報酬改定 5月 ・人材確保、育成プロモーション 10月 ☐ 師長研修（オンデマンド） ・次世代病院管理を考える 12月 ☐ 他部署研修 ☐ 病院 ☐ 接遇講演会 ☐ 医療安全 ☐ 感染対策	☐ 看護協会 ☐ 定例研修 ・クレーム、暴言、暴力の 予防と対応法 ・ワークライフバランスと 組織作り ☐ 衛星通信研修 ・法律、制度、政策の最新 情報とマネジメントの視 点 他 ☐ 全国セミナー
管理Ⅱ			

平成 24 年度 教育研修状況

主催	内容	氏名
日本看護協会	看護研修学校 集中ケア看護認定看護師課程	寺川由佳
滋賀県看護協会	看護教員養成講習会	河原由典
石川県看護協会	看護教員養成講習会	東治美
愛知県医師会	愛知県医師会立名古屋助産師学校	河原幸代
福井県立病院 NST 委員会	栄養サポートチーム専門療養士実地研修	時岡久美子 垣内知佳

平成 24 年度 実習生受け入れ

学校名	実習内容	受け入れ人数
小浜市立小浜中学校	職場体験学習	2 年生 4 名
小浜市立小浜第二中学校	職場体験学習	2 年生 5 名
金沢看護専門学校	第 2 看護学科 小児看護学 精神看護学	2 名 2 名
福井県立若狭高等学校	高校生の「ジュニア・インターンシップ」	2 年生 5 名
福井県立若狭東高等学校	若狭東高校生活科学科インターンシップ	2 年生 4 名

講師派遣・地域への派遣

主催	内容	派遣者・講師
日本看護連盟	平成 24 年度通常総会	樽谷和代 清水幸代
小浜助産師会	小浜市妊婦セミナー うぶごえ 赤ちゃん抱っこ体験	北村桂子 北村桂子 北村桂子 辻京子 宮川朋子
若狭町	若狭町子育て支援 ベビーマッサージ	北村桂子
福井県看護協会	再就業者研修	田中友子
福井県	子育てマイスター	北村桂子
佐分利小学校	いのちの話	北村桂子
地域活動支援センター	レクレーション交流会	谷口敏子
小浜市健康管理センター	子育て支援	北村桂子
石川県	中部ブロック DMAT	高本祐三恵
福井県看護協会 小浜地区委員会	講演会 「BLS」	救急看護認定看護師田中友子 インストラクター 5名
福井県看護協会 小浜地区委員会	講演会 「誤嚥性肺炎予防と対策」	慢性呼吸器疾患看護認定看護師 北村眞由美

平成 24 年度 院内看護研究発表会

部署	テーマ	研究者	講評者
手術センター	内視鏡手術鉗子の管理方法の改善	○長田愛 刀根正彦	田中友子
血液浄化センター	温罨法と掌握運動による穿刺への効果	○森口祐次 荒木久仁子 田中知枝美 山田美帆	北村真由美
本館 5 階	ストーマ装具選択に対する看護師の認識 ～ストーマ観察チェック表、装具選択ツールの有効性～	○小堀真奈美 澤明依 寺井仁美	田中友子
本館 7 階	ASV に関する看護師の知識の共有化 ～マニュアル導入を行うに当たり～ * 福井県看護協会「看護研究発表会」での発表	○社和樹 大橋賢太郎 時岡久美子 中村優子	北村真由美

2. 院内委員会の活動状況

倫理委員会

委員長 副院長
委員構成 診療部長、診療部副部長、薬剤部長、医療技術部長、看護部長、事務部長
事務部次長、上原弁護士（外部委員）

（平成 24 年度の協議事項、活動内容等）

開催年月日 平成 24 年 6 月 19 日、10 月 15 日

審査事項 1. ダイアライザが高齢透析導入患者の予後に与える影響
2. 温罨法と掌握運動による穿刺への効果
3. 自宅退院予定の軽度認知症患者に対する内服飲み忘れ防止への取り組み
4. ストーマ装具選択に対する看護師の認識
5. ASV の指導に向けて
6. 内視鏡手術で使用する鉗子の管理方法改善
7. 日本産婦人科学会周産期委員会周産期登録事業への参加について

倫理講演会

講師 京都大学大学院医学研究科医療倫理学 教授 小杉 眞司 先生
開催日 平成 24 年 4 月 25 日 新採用職員対象
平成 24 年 6 月 27 日 看護学院生対象
平成 24 年 8 月 22 日 医療倫理について
平成 24 年 10 月 31 日 //

防災対策委員会

委員長 病院長
委員構成 副院長、診療部長、老健施設長、医療技術部長、薬剤部長、看護部長
看護学院副院長、老健総師長、事務部長（防災管理者）、管理課長

（平成 24 年度の協議事項、活動内容等）

- ・ 防災マニュアルの見直し、作成について協議
- ・ 防災訓練の実施

医療安全管理委員会

委員長 病院長
医療安全管理室長（診療部長）、医療安全管理責任者、医療機器安全管理責任者、副院長、手術センター長、診療部副部長、薬剤部長、医療技術部長、看護部長、看護部副部長、事務部長、事務部次長、地域連携室長、医療サービス課長、老健施設長、老健総看護師長

（平成 24 年度の協議事項、活動内容等）

- 4 月 平成 24 年度の研修計画について 他
- 5 月 医療安全管理室の設置について 他
- 6 月 委員会規約（改正案）および医療安全管理室の業務等について 他
- 7 月 院内の医療機器・掲示されている時計の表示時刻の統一について 他
- 8 月 ヘパリンに対しアレルギー反応を起こした事例について 他
- 9 月 腎機能障害がある患者に対する造影 MRI 検査について 他
- 10 月 MRI 検査時の観察について 他
- 11 月 医療安全管理室より報告（ヒヤリハット事例） 他
- 12 月 リストバンドへのアレルギー情報マークについて 他
- 1 月 医療安全管理室より報告（ヒヤリハット事例） 他
- 2 月 内視鏡室での停電事故について 他
- 3 月 ヒヤリハットレポートの改定について 他・毎月の小委員会活動状況について

研修会

- 4 月 BLS・AED 講習会（新入職員対象）
- 6 月 検死について（全職員対象）
- 11 月 やってみよう KYT（全職員対象）

放射線安全委員会

- 委員長 副院長
- 委員構成 精神科主任医長、放射線科主任医長、放射線取扱主任者、主任放射線技師、技師長、看護部長

（平成 24 年度の協議事項、活動内容）

関係省庁への届出

文部科学省へ放射線管理状況報告書の提出：平成 24 年 5 月 30 日

放射線障害防止法に基づく放射線施設定期検査、定期確認の受検：平成 24 年 11 月 15 日

院内感染対策委員会

- 委員長 病院長
- 委員構成 診療部長、手術センター長、診療部副部長、内科主任医長、小児科主任医長、薬剤部長、医療技術部長、臨床検査技師、調理師、看護部長、看護部副部長、手術センター看護師長、手術センター看護師、病棟看護師、老健看護師、事務部長、事務部次長、医療サービス課長

（平成 24 年度の協議事項、活動内容等）

- ・感染症(MR S A 等)の検出状況について
- ・抗菌薬使用状況について

- ・ I C T（インфекション・コントロールチーム）の活動について
- ・ 院内感染対策マニュアルの整備・改訂について
- ・ 新人職員オリエンテーションの実施
- ・ I C Tレター『感 染』の作成・発行
- ・ 嶺南感染フォーラムへの参加・演題発表

院内感染対策講演会の開催

・ 1 回目

開催日 ： 平成 24 年 5 月 24 日

演 題 ： 『 感染制御の基本 』

講 師 ： Meiji Seika ファルマ株式会社 毛利恵子 先生

・ 2 回目

開催日 ： 平成 24 年 11 月 15 日

演 題 ： 『 チーム医療・地域連携「感染防止対策の取り組み」』

講 師 ： 中部労災病 ICT ※S-QUE 研究会でオンデマンド配信される講義を上映

安全衛生委員会

委 員 長 病院長

委員構成 診療部副部長、内科主任医長、臨床検査技科長、診療放射線技師長
管理栄養士、看護師長、事務部次長、

(平成 24 年度の協議事項、活動内容等)

- ・ 職員健康診断および各種予防接種の運用に関する検討および結果分析
- ・ メンタルヘルスに関する検討
- ・ 予防接種（インフルエンザ・B 型肝炎）

講演会開催

- ・ 「ハラスメント対策について」 全職員対象

行動制限最小化委員会

委 員 長 精神科主任医長

委員構成 精神科医師、看護師長、主任看護師、看護師、精神保健福祉士

(平成 24 年度の協議事項、活動内容等)

- ・ 行動制限患者に対する病状改善
- ・ 行動制限の状況の適切性
- ・ 行動制限の最小化に向けた取り組み

研修会の開催

- ・ 平成 25 年 1 月 28 日 「精神保健福祉法について」
- ・ 平成 25 年 2 月 27 日 「行動制限最小化に向けた取り組みについて」

栄養治療食委員会

委員長 食事療法科長

委員構成 内科医長、医療技術部長、主任調理師、調理師、看護師長、主任看護師
医療サービス課係長

(平成 24 年度の協議事項、活動内容等)

- ・濃厚流動食の新製品採用時申請手順について
- ・診療報酬改定に伴う入院診察計画に係わる栄養管理手順について

情報システム委員会

委員長 診療部長

委員構成 副院長、施設長、内科医長、薬剤部長、医療技術部長、臨床検査科長
技師長、看護部副部長、看護師長、主任看護師 2 名、事務部次長
医療サービス課係長、経営企画課係長

(平成 24 年度の協議事項、活動内容等)

- ・電子カルテ導入について
- ・病院見学の実施

緩和医療検討委員会

委員長 診療部副部長

委員構成 薬剤部長、精神科医員、薬剤師、臨床検査技師、栄養士、理学療法士

(平成 24 年度の協議事項、活動内容等)

- ・『緩和』発行 (4 回)

薬事委員会

委員長 病院長

構成委員 診療部副部長、内科主任医長、精神科主任医長、薬剤部長、看護部副部長

(平成 24 年度の協議事項、活動内容等)

開催 月 1 回

- ・医薬品の新規採用について
- ・後発医薬品採用について

診療録管理委員会

委員長 病院長

委員構成 診療部長、診療部副部長、老健施設長、医療技術部長、看護部副部長
看護師長、医療サービス課長、事務職員、診療情報管理士

(平成 24 年度の協議事項、活動内容等)

- ・診療録記載様式の追加・変更の承認
- ・診療録等管理規定の見直しについての検討

研修管理委員会(臨床研修病院関係)

委員長 副院長

委員構成 病院長、老健施設長、診療部長、診療部副部長、内科主任医長、事務部長
事務部次長、総務課係長

(平成 24 年度の協議事項、活動内容等)

- 4 月 1 日 研修医 5 名（基幹型 4 名、協力型 1 名）採用
- 4 月 18 日 第 1 回院内研修管理委員会（平成 24 年度研修プログラム等について）
- 5 月 13 日 東海北陸地区臨床研修病院合同説明会（名古屋市）
- 5 月 16 日 第 2 回院内研修管理委員会（研修診療科の変更等について）
- 5 月 24 日 福井県合同臨床研修病院説明会（福井大学）
- 6 月 20 日 第 3 回院内研修管理委員会（研修医の病院評価等について）
- 7 月 1 日 次年度研修医募集開始（応募者 3 名）
- 7 月 1 日 レジデントナビ大阪研修病院説明会（大阪市）
- 7 月 11 日 第 4 回院内研修管理委員会（研修医の病院評価等について）
- 7 月 15 日 レジデントナビ東京研修病院説明会（東京都）
- 8 月 2 日 採用試験実施（1 名）
- 8 月 9 日 採用試験実施（2 名）
- 9 月 19 日 第 5 回院内研修管理委員会（採用試験結果等について）
- 9 月 6 日 採用試験実施（1 名）
- 10 月 17 日 第 6 回院内研修管理委員会（2 年目研修医の進路等について）
- 10 月 25 日 マッチング結果発表（定員 1 名確定）
- 11 月 21 日 第 7 回院内研修管理委員会（マッチング結果等について）
- 11 月 22 日 採用試験実施（1 名）
- 11 月 30 日 採用試験実施（2 名）
- 12 月 19 日 第 8 回院内研修管理委員会（2 次募集採用試験の結果等について）
- 1 月 16 日 第 9 回院内研修管理委員会（次年度研修プログラム等について）
- 2 月 6 日 第 3 回臨床研修医研究発表会
- 2 月 16 日 近畿厚生局管内臨床研修病院説明会（大阪市）
- 2 月 20 日 第 10 回院内研修管理委員会（次年度研修プログラム等について）

- 3 月 1 日 福井県合同研修病院説明会（福井市）
- 3 月 21 日 第 11 回院内研修管理委員会（次年度研修プログラム等について）
- 3 月 28 日 研修管理委員会開催

接遇委員会

- 委員長 看護部副部長
- 委員構成 診療部副部長 2 名、薬剤師、臨床検査技師、理学療法士、学院専任教員
看護師 6 名、調理師、介護職員 2 名、事務部他 6 名
- 開催状況 毎月第 3 火曜日に定例開催、またその他必要時に開催
（平成 23 年度は、全 12 回開催）
小委員会に関しては随時活動

（平成 24 年度の協議事項、活動内容等）

年間スローガン 「笑顔であいさつすることは接遇の第一歩です」

前期テーマ 『あいさつ・みだしなみ』

後期テーマ 『言葉使い・患者様への対応』

職員接遇の向上に関する事

- ・院長直行便の内容を委員会にて公開・検討
- ・接遇テスト・身だしなみチェックシートの作成
- ・言葉のプレゼントによる部署間チェック

病院接遇の調査に関する事

- ・入院満足度調査（11 月）

接遇教育に関する事

- ・新人研修（4 月）
- ・接遇講演会（9 月）
- ・新人フォローアップ研修（1 月）

機関紙「せっちゃん」・接遇に関するポスターの発行

- ・機関紙「せっちゃん」（年 2 回）
- ・接遇に関するポスター（年 2 回）

広報委員会

- 委員長 副院長
- 構成委員 診療部長、診療部副部長、小児科主任医長、診療放射線技師長、薬剤師
臨床検査技師、栄養士、言語聴覚士、看護部副部長、事務部次長
医療サービス課長

（平成 24 年度の協議事項、活動内容等）

- ・病院年報の作成・発刊
- ・院外広報誌「いきいき」の作成・発行

- ・院内広報誌「わかさ」の作成・発行
- ・病院ホームページの更新

血液浄化センター運営委員会

委員長 血液浄化センター長

委員構成 病院長、副院長、診療部長、診療部副部長、血液浄化副センター長
看護部副部長、看護師長、臨床工学技士、地域連携室長

(平成 24 年度の協議事項、活動内容等)

- ・血液浄化センターの運営に関すること

保険診療検討委員会

委員長 副院長

委員構成 診療部長、診療部副部長、医療技術部長、臨床検査技師、看護部副部長
医療サービス課長

(平成 24 年度の協議事項、活動内容等)

- ・診療報酬の査定内容の検討
- ・診療報酬増に向けての検討

救命救急センター運営委員会

委員長 救命救急センター長

委員構成 病院長、診療部長、手術センター長、救命救急副センター長、医療技術部長
薬剤部長、臨床検査科長、技師長、看護部副部長、看護師長 2 名
看護師 2 名、事務部次長 2 名、医療サービス課長、事務職員

(平成 24 年度の協議事項、活動内容等)

主な協議事項

- ・救命救急センターの運営に関すること

診療材料検討委員会

委員長 診療部長

委員構成 血液浄化センター長、医療技術部長、看護部副部長、総務課長
医療サービス課長

(平成 24 年度の協議事項、活動内容等)

主な協議事項

- ・診療材料に関すること

手術室運営委員会

委員長 手術センター長
構成委員 診療部副部長 2 名、内科主任医長、整形外科医長、産婦人科主任医長
歯科口腔外科主任医長、眼科医長、看護部副部長、看護師長 2 名

(平成 24 年度の協議事項、活動内容等)

- ・手術センター運営に関すること

輸血療法委員会

委員長 副院長
委員構成 診療部副部長、臨床検査技師、薬剤師、看護部副部長、看護師 3 名
事務職員
開催 定例 6 回

(平成 24 年度の協議事項、活動内容等)

- ・輸血製剤・輸血療法に関すること

図書委員会

委員長 精神科主任医長
委員構成 薬剤部長、放射線技師長、理学療法士、臨床検査技師、栄養士
看護部副部長、経営企画課係長

(平成 24 年度の協議事項、活動内容等)

- ・平成 25 年度購入国内雑誌の選定について
- ・平成 25 年度購入外国語雑誌の選定について
- ・電子臨床教科書「UpToDate」の契約更新

医療機器安全管理委員会

委員長 医療技術部長
委員構成 麻酔科主任医長、救命救急センター看護師長、本館 4 階看護師長、
本館 6 階看護師長、本館 8 階看護師長、手術センター看護師長
外来看護師長、外来主任看護師、診療放射線技師長、臨床工学技師主任
経営企画課係長

(平成 24 年度の協議事項、活動内容等)

- ・医療機器安全講習会の日程・内容について
- ・輸液ポンプ・シリンジポンプの保有台数について
- ・モニター等、医療機器の時刻修正について

研修会の開催

- ・平成 24 年 7 月 31 日 「医療に於ける安全」
- ・平成 24 年 11 月 4 日 「やってみよう KYT」

褥瘡対策委員会

委 員 長 副院長

委員構成 脳神経外科医長、皮膚科医師、薬剤師、理学療法士、管理栄養士
看護部副部長、看護師長、看護師、老健看護師、医療サービス課係長

(平成 24 年度の協議事項、活動内容等)

- ・褥瘡回診について
- ・褥瘡予防・管理ガイドラインの周知
- ・勉強会の開催
- ・日本褥瘡学会報告
- ・DESIGN-R について
- ・褥瘡スコアについて
- ・退院後のフォローについて
- ・褥瘡発生数の把握について

D P C 委員会

委 員 長 副院長

委員構成 診療部長、診療部副部長、内科主任医長、整形外科医長、眼科主任医長
泌尿器科医員、小児科主任医長、産婦人科医員、医療技術部長、薬剤部長
臨床検査技、技師長、理学療法士、看護部副部長、看護師長、事務部次長
医療サービス課長、事務職員

(平成 24 年度の協議事項、活動内容等)

開催年月日 平成 24 年 12 月 27 日

- ・コーディングガイドについて

3. 学 術 活 動 等

学会発表

Tetsuo Ito : Strategies of laparoscopic D3 lymphadenectomy for patients with locally advanced transverse colon cancer : 20th International Congress of the EAES 2012.6.20-23 Brussels (Belgium)

伊藤鉄夫：当院における単孔式腹腔鏡下大腸切除術導入について：第 67 回日本消化器外科学会総会 2012.7.18 富山

伊藤鉄夫：地方市中病院における単孔式腹腔鏡下大腸切除術導入について：第 1 回 Reduced Port Surgery Forum 2012.8.25 札幌

伊藤鉄夫：市中病院における安全な腹腔鏡補助下臍頭十二指腸切除術の工夫：第 74 回日本臨床外科学会総会 2012.11.29 東京

伊藤鉄夫：市中病院における安全な腹腔鏡補助下臍頭十二指腸切除術の工夫：第 25 回日本内視鏡外科学会総会 2012.12.7 横浜

菅野元喜：鏡視下腋窩・胸骨傍リンパ節郭清の検討：第 20 回日本乳癌学会学術総会 2012.6.30 富山

菅野元喜：腹腔鏡下胃癌手術における左側アプローチ D2 郭清（特に臍上縁）とその治療成績：第 67 回日本消化器外科学会総会 2012.7.20 富山

菅野元喜：REDUCED PORT BREAST SURGERY (3PORT AXILLARY AND PARASTERNAL LN DISSECTION)：第 1 回 Reduced Port Surgery Forum 2012.8.25 札幌

菅野元喜：小浜式単孔吊り上げ内視鏡手術は環境保護・節電に寄与するか？：第 51 回全国自治体病院学会 2012.11.9 高松

菅野元喜：REDUCED PORT BREAST SURGERY (3PORT AXILLARY AND PARASTERNAL LN DISSECTION)：第 74 回日本臨床外科学会総会 2012.11.30 東京

菅野元喜：小浜式単孔吊り上げ内視鏡手術は環境保護・節電に寄与するか？：第 25 回日本内視鏡外科学会総会 2012. 12. 6 横浜

菅野元喜：T2(MP)/N1(Stage IB/IIA の一部) 胃癌は腹腔鏡下手術の守備範囲となりうるか？：第 25 回日本内視鏡外科学会総会 2012. 12. 8 横浜

鎌田泰之：外科医としての一步を踏み出してから：第 67 回日本消化器外科学会総会 2012. 7. 20 富山

鎌田泰之：若手外科医が単孔式胆嚢摘出術を安全に行うための工夫：第 1 回 Reduced Port Surgery Forum 2012. 8. 25 札幌

鎌田泰之：初期研修医が安全に単孔式腹腔鏡下胆嚢摘出術を施行するための 2 つの工夫：第 74 回日本臨床外科学会総会 2012. 11. 30 東京

鎌田泰之：初期研修医の立場から見た、憧れの外科医に近づくための腹腔鏡トレーニングとは？：第 25 回日本内視鏡外科学会総会 2012. 12. 8 横浜

Toshiya Soma：COLORECTAL RESECTION IN NONAGENARIANS: EFFECTIVENESS OF THE LAPAROSCOPIC SURGERY：20th International Congress of the EAES 2012. 6 Brussels(Belgium)

相馬俊也：A 当院における腸閉塞手術症例での retrospective study：第 112 回日本外科学会定期学術集会 2012. 4 幕張（千葉）

相馬俊也：当院におけるイレウス手術症例での retrospective study：第 67 回日本消化器外科学会総会 2012. 7 富山

田中崇洋：腹腔鏡下大腸切除術に繋がる手術手技を習得するには -外科志望研修医の視点から-：第 112 回日本外科学会定期学術集会 2012. 4 幕張（千葉）

Takahiro Tanaka：THE ADVANTAGE OF GASLESS ABDOMINAL WALL LIFTING SILS FOR HERNIA REPAIR：20th International Congress of the EAES 2012. 6 Brussels(Belgium)

田中崇洋：後期研修医が安全に腹腔鏡補助下右半結腸切除術を執刀するには？ -そのピットフォールと解決策-：第 67 回日本消化器外科学会総会 2012. 7 富山

田中崇洋：腹腔鏡下虫垂切除術は外科初学者の基本主義習得に有意義か：第 74 回日本臨床外科学会総会 2012. 11 東京

田中崇洋：一般市中病院後期研修医による腹腔鏡下大腸切除術への道-外科志望初期研修医の立場から-：第 25 回日本内視鏡外科学会総会 2012. 12 横浜

西川徹：乳輪切開単孔送気式鏡視下乳房部分切除・腋窩リンパ節郭清の長所：第 20 回日本乳癌学会学術総会 2012. 6 熊本

西川徹：後期研修医が単孔式ヘルニア根治術で学ぶ単孔式手術における術野展開の要点：第 1 回 Reduced Port Surgery Forum 2012. 8 札幌

伊藤鉄夫：腹腔鏡下胃全摘脾合併切除術における脾門部処理、体腔内再建の工夫：第 191 回近畿外科学会 2012. 5 大阪

伊藤鉄夫：市中病院における安全な腹腔鏡補助下臍頭十二指腸切除術の工夫：第 267 回北陸外科学会 2012. 9 富山

伊藤鉄夫：腹腔鏡下胃全摘 Roux-Y 再建の際の食道空腸機能的端々吻合について：第 8 回 FEViC (Fukui Endoscopic Surgery Video Conference) 2012. 9 福井

鎌田泰之：初期研修医が安全に腹腔鏡手術を行うための準備と工夫：第 191 回近畿外科学会 2012. 5 大阪

田中崇洋：後期研修医による腹腔鏡補助下結腸切除術脾彎曲授動の工夫：第 191 回近畿外科学会 2012. 5 大阪

田中崇洋：当院外科後期研修医による腹腔鏡下臍体尾部切除術の経験 -脾摘を伴う LTG に学ぶ-：第 267 回北陸外科学会 2012. 9 富山

田中崇洋：腹腔鏡下結腸切除術・前方切除術内側アプローチにおいて内臓脂肪はいかに手術操作に影響するか：第 25 回近畿内視鏡外科研究会 2012. 9 京都

田中崇洋：鏡視下手術に学ぶ腓体尾部周囲の解剖の考察：平成 24 年京都大学外科冬季研究会 2012. 12 京都

中井正治、塩山力也、鈴木裕志： $\alpha 1$ ブロッカー効果不十分症例に対する dutasteride の使用経験：第 100 回日本泌尿器科学会総会 2012. 4. 22 横浜

原慶和：当院夜尿症外来の現況：第 48 回中部日本小児科学会 2012. 8. 26 福井商工会議所

高橋直生、木村秀樹、上山和子、黒瀬知美、杉本英弘、井村敏雄、三上大輔、糟野健司、吉田治義：Laser microdissection 法を用いた慢性低酸素環境における db/db マウスの糖尿病性腎症の進展機序の解析：第 55 回日本腎臓学会学術総会 2012. 6. 3 横浜

木村秀樹、三上大輔、高橋直生、杉本英弘、上山和子、糟野健司、吉田治義、岩野正之：近位尿細管細胞に於いて、TNF- α は p38MAPK/HSP27 経路を介して VEGF-C 発現を誘導し、ステロイドはこれを抑制する：第 55 回日本腎臓学会学術総会 2012. 6. 3 横浜

Takahashi N, Kimura H, Kamiyama K, Yokoi S, Yokoyama Y, Mikami D, Kasuno K, Yoshida H, Iwano M: Role of Renal Hypoxia in the Progression of Experimental Diabetic Nephropathy. American Society of Nephrology, Kidney Week, 2012, 10. San Diego (USA).

論文・著書・総説

小西淳二：Editorial：高齢社会における総合医の必要性—あなたは「かかりつけ医」を持っていますか？ 環境と健康 25(3):312-316, 2012.

小西淳二：巻頭言「FDG-PET の保険収載から 10 年—クリニカル PET の歩みと展望」PET Journal No. 19, p. 3, 2012.

小西淳二：改訂第 3 版の序 「甲状腺・頸部の超音波診断」第 3 版、監修、金芳堂、京都、2012.

小西淳二：杉田玄白記念公立小浜病院について 「杉田玄白賞」のあゆみ～第1回から第10回までの記録～ p.12-13, 福井県小浜市・「杉田玄白賞」実行委員会発行、2012.

Daijiro HATAKEYAMA, Naritaka TAMAOKI, Kazuki IIDA, Kazuhiro YONEOTO, Keizo KATO, Hiroki MAKITA, Makoto TOIDA, Toshiyuki SHIBATA: Simple bone cyst of the mandibular condyle in a child: report of a case. Journal of Oral and Maxillofacial Surgery 70 (9): 2118-2123, 2012

吉田治義：CKDの臨床病理学的研究 臨床病理 60 (2) : 145-156、2012

Takahashi N, Kimura H, Mizuno S, Hara M, Hirayama Y, Kurosawa H, Tsutaya S, Yasujima M, Yokoi S, Mikami D, Kasuno K, Naiki H, Iwano M, Yoshida H: Severe intraglomerular detachment of podocytes in a Gitelman syndrome patient. Clin Exp Nephrol. 16 (3) : 495-500. 2012

講演

小西淳二：「中川淳庵と本草学」食文化館企画展「中川淳庵と本草学」記念講演 平成 24 年 11 月 17 日、食文化館 小浜市

小西淳二：「中川淳庵顕彰薬草園について」若狭ロータリークラブ卓話 平成 25 年 1 月 15 日、小浜商工会議所 小浜市

本馬徳人：「健康は職場から―職場における健康づくりの工夫を知ろう―」 平成 25 年 3 月 14 日 三方公民館 小浜市

中井正治：「内シャントについて」：福井県腎友会若狭地区腎セミナー：2012. 12. 2：福井県立若狭図書館 小浜市

山村茂樹：「職場のメンタルヘルス」：おおい町保健医療福祉関係者：平成 24 年 6 月 6 日 おおい町なごみ

山村茂樹：「認知症診療の現場から」：若狭ファーマシストクラブ：平成 24 年 7 月 17 日 杉田玄白記念公立小浜病院 大会議室

原慶和：「平成 23 年度 5 歳児健康相談実施報告」、「ADHD 児の世界を知る」：小浜市保育士研修会 平成 24 年 6 月 1 日 小浜市働く婦人の家

原慶和：「小児救急の話」：平成 24 年 10 月 25 日 おおい町はまかぜ交流センター

湯浅光織：「夜間・休日にこどもが病気になったら」：平成 24 年 11 月 14 日 子育て支援センター

原慶和：「発達障害のよもやま話」：平成 25 年 1 月 23 日 子育て支援センター

丸山市郎：病気の予防 健康診断・がん検診の勧め：平成 25 年 3 月 15 日：小浜市民生委員 研修会：小浜市働く婦人の家

土井田 誠：「口唇生検及び唾液腺機能検査の実際」：教育レクチャー「シェーグレン症候群の診断

に必要な検査の実際～その 1～」：東海シェーグレンシンドロームカンファランス 2012. 6. 23：名古屋ルーセントタワー16 階 J 会議室

研究会・報告・その他

小西淳二：「武田欣司師を囲む会」によせて 「武田欣司師と京都大学観世会」 p. 5, 2012.

小西淳二：我が人生と能 同上、p. 34-35, 2012.

小西淳二：FDG-PET の保険採用から 10 年 百万遍通信 No. 140, p. 3-6, 2012.

田中崇洋：単孔式腹腔鏡下鼠径ヘルニア根治術は若手外科医育成に有用か：第 6 回単孔式内視鏡手術研究会 2012. 8 札幌

田中崇洋：当院外科後期研修医による腹腔鏡下膵体尾部切除術の経験 -脾摘を伴う LTG に学ぶ-：第 4 回膵臓内視鏡外科研究会 2012. 11 東京

伊藤鉄夫：腹腔鏡下胃全摘脾合併切除術における脾門部処理、体腔内再建の工夫：第 42 回北陸内視鏡外科研究会 2012. 6 金沢

伊藤鉄夫：当院における大腸がんに対する単孔式腹腔鏡下手術の現状：5th Obama Digestive Organ Conference 2012. 11 小浜（福井）

伊藤鉄夫：経胆嚢管法による腹腔鏡下総胆管切石術の工夫について：第 43 回北陸内視鏡外科研究会 2012. 11 金沢

鎌田泰之：若手外科医による単孔式腹腔鏡下胆嚢摘出術：第 42 回北陸内視鏡外科研究会 2012. 6 富山

鎌田泰之：初期研修医が安全に単孔式腹腔鏡下胆嚢摘出術を施行するための工夫：第 25 回近畿内視鏡外科研究会 2012. 9 京都

田中崇洋：2 年生初期研修医による腹腔鏡補助下結腸切除術：第 14 回京都臨床外科セミナー
2012. 4 京都

田中崇洋：後期研修医が安全に腹腔鏡下右半結腸切除術を執刀するには？-ピットフォールとその
対応策：第 42 回北陸内視鏡外科研究会 2012. 6 富山

西川徹：衝撃的映像でおくる単孔式腹腔鏡下虫垂切断術！？：第 42 回北陸内視鏡外科研究会
2012. 6 富山

湯浅光織：「出征直後から呼吸障害を呈した X 染色体短腕部欠失の男児例」：第 26 回北陸周産期新
生児研究会 2012. 10. 21 石川県立中央病院

湯浅光織：「出征直後から呼吸障害を呈した X 染色体短腕部欠失の男児例」：第 14 回甲信越・北陸
出生前診断研究会／第 33 回北陸臨床遺伝研究会 2012. 11. 23 福井商工会議所ビル国際ホール

院内活動

<医局カンファレンス>

平成 24 年

4 月 18 日「グラム染色」：救急総合診療科 加藤之紀

5 月 16 日「さらなる低侵襲性を追求した腹腔鏡下消化器癌手術について」：外科 伊藤鉄夫

6 月 20 日「体幹神経ブロック」：麻酔科 澤田直之

7 月 18 日「動脈硬化予防としての脂質管理」：内科 鈴木将智

9 月 19 日「間質性膀胱炎について」：泌尿器科 中井正治

10 月 17 日「シェーグレン症候群と歯科」：歯科口腔外科 土井田誠

11 月 21 日「最近の精神科薬について」：精神科 鵜戸逸友

平成 25 年

1 月 16 日「COPDのABC」：内科 高崎俊和

2 月 20 日「加齢性黄斑変性症の治療について」：眼科 宮澤朋恵

「福井県立病院における陽子線がん治療」

福井県立病院陽子線がん治療センター長 山本和高 先生

3 月 13 日「脳動脈瘤の治療」：脳神経外科 細田哲也

<臨床病理検討会（CPC）>

平成 24 年 4 月 18 日 「憎帽弁膜症による心不全の加療中に突然死された症例」

内科：鈴木将智、病理：内木宏延

7 月 25 日 「S 状結腸捻転後、誤嚥性肺炎となり、それと共に肝機能悪化し肝不全と
なつて死亡した症例」

内科：鈴木馨、病理：内木宏延

8 月 8 日 「確定診断に苦慮した原発性肺癌の一例」

内科：山本裕子、病理：内木宏延

11 月 14 日 「食道癌サルベージ手術後に気管膜様部穿孔・気道出血を来した症例」

外科：伊藤鉄夫、病理：内木宏延

平成 25 年 1 月 31 日 「比較的高齢で発症し、急速に進行した球麻痺型 ALS の一例」

内科：布居剛洋、病理：内木宏延

2 月 13 日 「胃癌術後 20 年、下行結腸・左尿管・胆管の狭窄を来した一例」

外科：西川徹、病理：内木宏延

2 月 27 日 「急性呼吸不全を呈した一例」

内科：高崎俊和、病理：内木宏延

3 月 14 日 「吐血にて来院し、来院後心肺停止。蘇生処置にも反応乏しく死亡した症例」

救急総合診療科：加藤之紀、病理：内木宏延

3 月 21 日 「化学療法中に緑膿菌敗血症と肺炎を合併した DLBCL の一部検例」

内科：伊藤和広、病理：内木宏延

市民公開講座等

若狭健康フォーラム 第 10 回 学術講演会

平成 24 年 5 月 10 日（木）18 時 30 分～ 杉田玄白記念公立小浜病院 9 階大会議室

特別講演：「どう処方する 糖尿病？ ～当院での経験から～」

講師：福井赤十字病院 内科 副部長 中野 雅子 先生

座長：杉田玄白記念公立小浜病院 循環器科 主任医長 本馬 徳人 先生

Ⅲ. 各種統計

延べ外来患者数 診療科別 () は実診療日

診療科	延べ外来患者数			前年度比	
	平成22年度 (243 日)	平成23年度 (243 日)	平成24年度 (244 日)	増減数	伸率
内科・循環器科	46,003	61,130	62,192	1,062	1.7%
外 科	8,301	8,513	9,163	650	7.6%
整形外科	28,307	15,405	17,209	1,804	11.7%
脳神経外科	9,214	9,440	9,631	191	2.0%
小 児 科	16,128	17,152	17,071	△ 81	-0.5%
産婦人科	8,053	7,439	7,261	△ 178	-2.4%
精神科	15,192	14,799	14,694	△ 105	-0.7%
耳鼻いんこう科	9,206	6,655	6,375	△ 280	-4.2%
眼 科	17,814	15,114	15,851	737	4.9%
皮 膚 科	7,039	6,553	5,825	△ 728	-11.1%
泌尿器科	9,201	8,408	8,875	467	5.6%
麻 酔 科	1	0	0	0	0.0%
放射線科	946	1,091	1,159	68	6.2%
歯科口腔外科	12,323	11,713	13,436	1,723	14.7%
心臓血管外科	122	97	120	23	23.7%
形成外科	602	879	623	△ 256	-29.1%
合 計	188,452	184,388	189,485	5,097	2.8%

1 日平均外来患者数 診療科別

診療科	1 日平均外来患者数			前年度比
	平成22年度	平成23年度	平成24年度	
内科・循環器科	189.3	251.6	254.9	3.3
外 科	34.2	35.0	37.6	2.6
整形外科	116.5	63.4	70.5	7.1
脳神経外科	37.9	38.8	39.5	0.7
小 児 科	66.4	70.6	70.0	△ 0.6
産婦人科	33.1	30.6	29.8	△ 0.8
精神科	62.5	60.9	60.2	△ 0.7
耳鼻いんこう科	37.9	27.4	26.1	△ 1.3
眼 科	73.3	62.2	65.0	2.8
皮 膚 科	29.0	27.0	23.9	△ 3.1
泌尿器科	37.9	34.6	36.4	1.8
麻 酔 科	0.0	0.0	0.0	0.0
放射線科	3.9	4.5	4.8	0.3
歯科口腔外科	50.7	48.2	55.0	6.8
心臓血管外科	0.5	0.4	0.5	0.1
形成外科	2.5	3.6	2.5	△ 1.1
合 計	775.5	758.8	776.7	17.9

延べ外来患者数 近隣市町別 () は実診療日数

市 町 名		延べ外来患者数			前年度比	
		平成22年度 (243 日)	平成23年度 (243 日)	平成24年度 (244 日)	増減数	伸率
小 浜 市		141,597	134,983	137,735	2,752	2.0%
若狭町	(旧上中町)	17,051	16,718	18,324	1,606	9.6%
	(旧三方町)	4,147	7,135	6,453	△ 682	-9.6%
おおい町	(旧名田庄村)	6,938	6,876	6,973	97	1.4%
	(旧大飯町)	7,906	7,411	7,878	467	6.3%
美 浜 町		709	740	843	103	13.9%
高 浜 町		6,058	6,585	7,823	1,238	18.8%
その他地域(県内)		1,137	1,195	1,037	△ 158	-13.2%
その他地域(県外)		2,909	2,745	2,419	△ 326	-11.9%
合 計		188,452	184,388	189,485	5,097	2.8%

1 日平均外来患者数 近隣市町別

市 町 名		1 日平均外来患者数			前年度比
		平成22年度	平成23年度	平成24年度	
小 浜 市		582.7	555.5	564.5	9.0
若狭町	(旧上中町)	70.2	68.8	75.1	6.3
	(旧三方町)	17.1	29.4	26.4	△ 3.0
おおい町	(旧名田庄村)	28.6	28.3	28.6	0.3
	(旧大飯町)	32.5	30.5	32.3	1.8
美 浜 町		2.9	3.0	3.5	0.5
高 浜 町		24.9	27.1	32.1	5.0
その他地域(県内)		4.7	4.9	4.3	△ 0.6
その他地域(県外)		12.0	11.3	9.9	△ 1.4
合 計		775.6	758.8	776.7	17.9

延べ入院患者数 診療科別 () は実診療日数

診療科	延べ入院患者数			前年度比	
	平成22年度 (365 日)	平成23年度 (366 日)	平成24年度 (365 日)	増減数	伸率
内科・循環器科	47,183	51,344	49,827	△ 1,517	-3.0%
外 科	11,238	10,680	10,280	△ 400	-3.7%
整形外科	12,187	11,764	12,913	1,149	9.8%
脳神経外科	14,480	18,663	23,006	4,343	23.3%
小 児 科	1,237	1,650	1,712	62	3.8%
産婦人科	3,280	3,491	3,885	394	11.3%
精神科	31,771	32,084	30,983	△ 1,101	-3.4%
耳鼻いんこう科	0	2	0	△ 2	—
眼 科	2,663	2,349	2,524	175	7.4%
皮 膚 科	438	204	13	△ 191	-93.6%
泌尿器科	2,405	3,339	2,921	△ 418	-12.5%
歯科口腔外科	641	381	387	6	1.6%
心臓血管外科	0	0	0	0	0.0%
形成外科	0	0	0	0	0.0%
合 計	127,523	135,951	138,451	2,500	1.8%

1 日平均入院患者数 診療科別

診療科	1日平均入院患者数			前年度比
	平成22年度	平成23年度	平成24年度	
内科・循環器科	129.3	140.3	136.5	△ 3.8
外 科	30.7	29.2	28.2	△ 1.0
整形外科	33.3	32.1	35.4	3.3
脳神経外科	39.6	51.0	63.0	12.0
小 児 科	3.4	4.5	4.7	0.2
産婦人科	9.0	9.5	10.6	1.1
精神科	86.8	87.7	84.9	△ 2.8
耳鼻いんこう科	0.0	0.0	0.0	0.0
眼 科	7.3	6.4	6.9	0.5
皮 膚 科	1.2	0.6	0.0	△ 0.6
泌尿器科	6.6	9.1	8.0	△ 1.1
歯科口腔外科	1.8	1.0	1.1	0.1
心臓血管外科	0.0	0.0	0.0	0.0
形成外科	0.0	0.0	0.0	0.0
合 計	349.4	371.4	379.3	7.9

延べ入院患者数 近隣市町別 () は実診療日数

市 町 名		延べ入院患者数			前年度比	
		平成22年度 (365 日)	平成23年度 (366 日)	平成24年度 (365 日)	増減数	伸率
小 浜 市		88,731	91,116	94,523	3,407	3.7%
若狭町	(旧上中町)	9,663	10,713	12,356	1,643	15.3%
	(旧三方町)	3,408	4,082	4,839	757	18.5%
おおい町	(旧名田庄村)	7,822	8,368	8,343	△ 25	-0.3%
	(旧大飯町)	4,699	5,614	5,745	131	2.3%
美 浜 町		783	1,627	1,539	△ 88	-5.4%
高 浜 町		5,185	6,351	5,025	△ 1,326	-20.9%
その他地域(県内)		2,813	3,504	3,240	△ 264	-7.5%
その他地域(県外)		4,419	4,576	2,841	△ 1,735	-37.9%
合 計		127,523	135,951	138,451	2,500	1.8%

1 日平均入院患者数 近隣市町別

市 町 名		1 日平均入院患者数			前年度比
		平成22年度	平成23年度	平成24年度	
小 浜 市		243.1	249.0	259.0	10.0
若狭町	(旧上中町)	26.5	29.3	33.9	4.6
	(旧三方町)	9.4	11.1	13.2	2.1
おおい町	(旧名田庄村)	21.4	22.9	22.9	0.0
	(旧大飯町)	12.9	15.3	15.7	0.4
美 浜 町		2.1	4.4	4.2	△ 0.2
高 浜 町		14.2	17.3	13.7	△ 3.6
その他地域(県内)		7.7	9.6	8.9	△ 0.7
その他地域(県外)		12.1	12.5	7.8	△ 4.7
合 計		349.4	371.4	379.3	7.9

平均在院日数

	平成22年度	平成23年度	平成24年度
一般病床合計	15.2	15.8	16.2

病床利用率（実稼動病床数による）

	平成22年度	平成23年度	平成24年度
一 般	85.1%	86.5%	89.7%
療 養	82.1%	90.1%	94.8%
結 核	14.5%	11.6%	7.7%
精 神	86.9%	87.5%	84.8%
合 計	83.4%	85.4%	87.2%
感染症	0.0%	0.0%	0.0%

（感染症病床の利用率は合計に含まず）

救急車搬送患者数

	平成22年度	平成23年度	平成24年度
日勤帯	616	712	630
休日・時間外	1,292	1,304	1,297
合 計	1,908	2,016	1,927
一日平均	5.2	5.5	5.3

休日および時間外診療患者数

	平成22年度	平成23年度	平成24年度
延べ患者数	9,671	10,138	10,128
一日平均	26.5	27.7	27.7

へき地巡回診療患者数

	平成22年度	平成23年度	平成24年度
延べ患者数	1,265	1,093	1,057
一回平均	7.5	6.5	6.3

[へき地巡回診療地区]

堅海、根来、宮川地区（小浜市）
奥杉山、河内、西浦地区（若狭町）
音海、日引、上瀬地区（高浜町）

年間診療回数：計 1 6 8 回

手術件数（中央手術室における件数）（循環器科手術件数は内科に含む）

診療科	平成22年度	平成23年度	平成24年度	前年度比	伸率
内 科	60	41	30	△ 11	-26.8%
外 科	365	359	371	12	3.3%
整形外科	257	235	285	50	21.3%
産婦人科	75	83	76	△ 7	-8.4%
耳鼻咽喉科	0	0	0	0	0.0%
泌尿器科	88	108	120	12	11.1%
脳神経外科	54	49	58	9	18.4%
眼 科	470	432	510	78	18.1%
歯科口腔外科	65	67	59	△ 8	-11.9%
心臓血管外科	0	1	1	0	0.0%
形成外科	81	89	62	△ 27	-30.3%
合 計	1,515	1,464	1,572	108	7.4%

分娩件数

	平成22年度	平成23年度	平成24年度	前年度比	伸率
分娩件数	223	231	218	△ 13	-5.6%

人工透析治療件数

	平成22年度	平成23年度	平成24年度	前年度比	伸率
昼間延べ数	12,291	11,925	12,241	316	2.6%
夜間延べ数	967	1,083	1,080	△ 3	-0.3%
計	13,258	13,008	13,321	313	2.4%

内視鏡検査件数 ※健診・ドックの検査件数を含む

	平成22年度	平成23年度	平成24年度	前年度比	伸率
上部消化管検査	2,273	2,372	2,461	89	3.8%
うち、粘膜切除術	9	2	4	2	100.0%
うち、内視鏡的胃ろう増設術	64	55	43	△ 12	-21.8%
下部消化管検査	937	903	942	39	4.3%
うち、大腸ポリープ切除術	50	32	9	△ 23	-71.9%
うち、シグモイドファイバー	28	7	2	△ 5	-71.4%
気管支ファイバー	38	20	25	5	25.0%
膵胆管造影検査	100	132	105	△ 27	-20.5%

薬剤件数

処方箋枚数

		平成22年度	平成23年度	平成24年度	前年度比	伸率
外 来	院内処方	8,886	7,794	7,891	97	1.2%
	院外処方	96,593	80,265	97,540	17,275	21.5%
入 院		32,282	30,528	39,825	9,297	30.5%
注 射		109,254	116,072	124,625	8,553	7.4%

調剤件数(全体)

	平成22年度	平成23年度	平成24年度	前年度比	伸率
外 来	18,201	15,835	15,698	△ 137	-0.9%
入 院	62,674	67,021	84,927	17,906	26.7%

無菌調製件数(抗がん剤)

	平成22年度	平成23年度	平成24年度	前年度比	伸率
外 来	453	567	610	43	7.6%
入 院	132	110	198	88	80.0%

無菌調製件数(TPN)

	平成22年度	平成23年度	平成24年度	前年度比	伸率
入 院	1,875	1,749	2,465	716	40.9%

※平成20年度は本館5・6・7・8階の4病棟のみ。21年度より全病棟実施。

薬剤管理指導件数

	平成22年度	平成23年度	平成24年度	前年度比	伸率
※ ICU	47	0	0	0	—
※ ハイリスク	576	341	705	364	106.7%
※ その他	681	257	608	351	136.6%
退院時服薬指導加算	101	57	178	121	212.3%
麻薬管理指導加算	41	29	56	27	93.1%

※ ICU:救命救急入院料算定患者

※ ハイリスク:特に安全管理が必要な医薬品の使用患者

※ その他:ICU及びハイリスク以外の患者

画像検査・放射線治療件数（画像診断室集計）

	平成22年度	平成23年度	平成24年度	前年度比	伸率
X線一般撮影	27,286	29,105	31,704	2,599	8.9%
CT	9,579	9,706	10,115	409	4.2%
MRI	2,969	2,706	3,160	454	16.8%
核医学検査(RI検査)	663	594	691	97	16.3%
血管造影	398	376	382	6	1.6%
骨塩定量検査	280	150	184	34	22.7%
超音波検査	3,383	3,417	3,503	86	2.5%
PET/CT検査	290	263	296	33	12.5%
放射線治療体外照射件数	862	861	931	70	8.1%

※核医学検査（RI 検査）には PET/CT を含む

リハビリテーション件数

	平成22年度	平成23年度	平成24年度	前年度比	伸率
理学療法	28,736	30,104	29,977	△ 127	-0.4%
作業療法	15,331	16,335	16,229	△ 106	-0.6%
物理療法	3,520	3,321	2,821	△ 500	-15.1%
言語療法	5,805	7,140	6,851	△ 289	-4.0%
心理検査	54	10	4	△ 6	-60.0%

患者給食数

	平成22年度	平成23年度	平成24年度	前年度比	伸率
常食	67,524	66,791	58,891	△ 7,900	-11.8%
軟菜食	132,081	130,982	134,966	3,984	3.0%
流動食	920	667	673	6	0.9%
特別食	129,441	152,766	166,491	13,725	9.0%

臨床検査件数（主要なものを掲載）

血液生化学検査		平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度
AST		32,293	34,452	35,370	37,802	40,952
ALT		32,277	34,436	35,300	37,737	40,872
γ-GT		17,363	19,773	16,840	19,488	21,437
総コレステロール		14,387	15,266	13,696	13,943	15,689
HDLコレステロール		3,919	8,090	9,017	9,552	10,620
尿酸		13,647	15,615	14,865	16,660	18,260
血糖		29,460	30,427	30,679	32,895	34,905
ヘモグロビンA1C		9,514	11,022	11,169	10,980	11,381
一般検査						
尿検査定性(糖・蛋白・潜血他)		24,348	26,275	25,556	26,143	28,509
便潜血検査		2,465	2,405	2,596	2,703	2,965
血液学的検査						
一般血液検査(血球数等測定)		36,640	39,413	40,454	42,741	45,743
血液細胞像/白血球分類検査		12,128	12,452	14,864	18,403	22,369
プロトロンビン時間		2,919	5,210	5,996	6,951	7,567
Dダイマー		387	657	654	919	1,362
免疫・血清学的検査						
B型肝炎ウイルス抗原		5,456	5,274	5,284	5,083	5,029
C型肝炎ウイルス抗体		5,148	5,142	5,003	4,671	4,290
CEA		3,310	3,512	3,692	4,061	4,223
CA19-9		1,976	2,152	2,275	2,592	2,788
BNP		1,191	1,592	1,549	1,998	2,088
生理機能検査						
心電図		6,132	4,894	4,746	4,446	4,223
ホルター心電図		254	211	192	140	112
脳波		207	225	214	212	196
ABI		144	304	262	219	201
神経伝導速度		74	91	71	49	60
微生物学的検査						
一般細菌培養検査		3,513	3,556	4,470	5,902	6,391
結核菌培養検査		242	316	246	431	312
細胞診検査						
細胞診検査		3,709	3,333	3,320	3,252	3,183
病理組織検査						
病理組織検査		1,651	1,742	1,929	1,983	1,814
術中迅速病理検査		13	15	14	12	13
病理解剖件数		6	8	6	4	10

*臨床検査システムによる集計件数です。

*心電図は時間外・救急室・一部病棟分を除く。

*20年度のBNPは外注分を含む。

地域連携・医療福祉相談件数

紹介率

平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度
24.9%	20.6%	22.4%	25.8%	26.3%

逆紹介率

平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度
17.0%	15.4%	20.7%	19.8%	20.7%

新規相談件数

	入院	外来	他院等より	計
件数	521	78	3	602

新規相談の主訴別分類（重複あり）

転院、退院（在宅医療）等の調整	379
各種制度紹介、活用援助	223
医療費等 経済的問題に関すること	19
その他	144

新規相談の受診科別分類（重複あり）

内科	外科	整形外科	脳神経外科	小児科
236	42	98	93	1
産婦人科	精神科	耳鼻いんこう科	眼科	皮膚科
4	47	0	3	0
泌尿器科	循環器科	歯科口腔外科	救急総合診療科	他院等より
11	23	1	46	5

面接対応・電話対応・文書作成の延べ件数

	面接対応	電話対応	文書作成
入院（入所）	3,972	1,117	227
外来（通所）	961	317	132

※（入所）（通所）とは、併設の介護老人保健施設アクール若狭利用者を示す

居宅介護支援事業契約者数（各年度末時点の数）

平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度
84	60	0	0	0

精神科訪問看護実施回数

平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度
55	43	34	52	39

IV. 決算概要

平成 24 年度公立小浜病院組合病院事業報告書（抜粋）

概況

総括事項

全国的な医師不足は現在も継続しており、特に、地方における医師確保は相当困難な状況が続いています。この医師不足により、一部の診療科を維持できない病院が増えてきており、地域医療の確保・継続が危ぶまれています。

看護師確保についても同様の状況にあり、看護師不足による休床・病棟閉鎖に踏み切る病院も出てきています。当病院組合においても内科・整形外科をはじめとする常勤医師の確保に苦慮しており、健全経営を阻害する大きな要因となっているところ です。

平成 24 年度についても、各事業ともに収益改善に努めて参りましたが、小浜病院事業、介護老人保健施設事業、レイクヒルズ美方病院事業ともに欠損を生ずる結果となりました。

このような状況の中ではありますが、杉田玄白記念公立小浜病院では小児療育施設、駐車場整備を含む第 3 期工事が 11 月に竣工し、平成 13 年度からの一連の整備事業が終了いたしました。

今後も引き続き、医師確保ならびに看護師確保を最重要課題とし、病院組合の各事業の役割をより明確化し、自律的な経営の下で良質な医療、介護を地域住民の皆様に継続して提供できますよう全力で取り組んで参ります。

なお、事業ごとの決算状況については、以下のとおりとなっています。

1) 患者数

外来患者数は、年間延べ 189,485 人(1 日平均 777 人)で、前年度に比べ 5,097 人(1 日あたり 18 人)増加し、入院患者数は、年間延べ 138,451 人(1 日平均 379 人)で、前年度に比べ 2,500 人(1 日あたり 8 人)増加しました。

2) 収益的収支

収入総額は、6,964,936,768 円で、前年度に比べ 104,157,258 円(1.5%)増加しました。一方、支出総額は、7,446,772,474 円で、前年度に比べ 76,130,518 円(1.0%)の増加となり、481,835,706 円の欠損を生じる結果となりました。尚、欠損金は、前年度に比べ、28,026,740 円減少しました。

3) 資本的収支

収入は、補助金 36,843,000 円、市町負担金 357,535,782 円、企業債 233,700,000 円など合計 636,354,786 円となり、支出では、建設改良費 446,394,404 円、企業債償還金 611,009,018 円など合計 1,076,635,422 円となりました。収入不足額の 440,280,636 円については、過年度分損益勘定留保資金 440,280,636 円で補てんしました。

建設改良費のうち施設整備第 3 期工事等については、408,724,184 円を執行しました。また、資産購入については、医療機械として経皮的心肺補助システム、上部消化管スコープ、陽圧人工呼吸器などを、備品として手術室の蒸気式加湿器などを整備し、合計で 37,670,220 円を支出しました。

経営概要

(単位：千円)

年度別		平成22年度	平成23年度	平成24年度	備考
収益的	収 入	6,641,163	6,860,780	6,964,937	
	支 出	7,161,824	7,370,642	7,446,772	
	収 益	△ 520,661	△ 509,862	△ 481,835	
資本的	収 入	758,919	1,206,371	636,355	
	支 出	1,039,777	1,778,081	1,076,635	
	差	△ 280,858	△ 571,710	△ 440,280	
繰入金	損益勘定	577,428	619,875	604,438	
	資本勘定	323,393	315,756	357,536	
	合 計	900,821	935,631	961,974	
医業収支比率		89.1%	90.5%	93.5%	医業収入／医業費用
職員給与比率		62.4%	63.1%	61.4%	職員給与費／医業収益
年度末職員数		438(118)	440(127)	437(132)	() 内 臨時職員数別掲
病床利用率		83.4%	85.4%	87.2%	感染病床2床分除く
病 床 数		456	456	456	

経営分析

分析項目		平成22年度	平成23年度	平成24年度
1日当り患者数	入 院	349人 (365日)	371人 (366日)	379人 (365日)
	外 来	776人 (243日)	759人 (243日)	777人 (244日)
	合 計	1,125人	1,130人	1,156人
医師1人 1日当り患者数	入 院	7.3人	7.6人	8.2人
	外 来	16.3人	15.5人	16.8人
	合 計	23.6人	23.1人	25.0人
医 業 収 支 前年度比率	医業収益の 前年度比	111.25%	102.90%	102.50%
	医業費用の 前年度比	104.16%	101.28%	99.16%
	差 引	7.09%	1.62%	3.34%
患者1人 1日当り 診療収入	入 院	31,100円	30,524円	30,474円
	外 来	8,778円	8,817円	8,983円
	合 計	39,878円	39,341円	39,457円

収益的収入および支出（公立小浜病院組合）

収益的収入

区 分	平成22年度	平成23年度		平成24年度	
	金 額 (円)	金 額 (円)	伸 率 (%)	金 額 (円)	伸 率 (%)
小浜病院事業収益	6,641,162,524	6,860,779,510	3.3	6,964,936,768	1.5
医業収益	5,884,537,059	6,055,043,109	2.9	6,206,711,218	2.5
外来収益	1,654,157,016	1,625,839,808	△ 1.7	1,702,104,135	4.7
入院収益	3,965,996,526	4,149,792,424	4.6	4,219,195,729	1.7
介護収益	6,740,417	0	皆減	0	0.0
その他医業収益	257,643,100	279,410,877	8.4	285,411,354	2.1
医業外収益	624,283,994	680,676,443	9.0	605,835,089	△ 11.0
財産収益	57,077,703	58,902,946	3.2	60,441,675	2.6
受取利息	0	0	0.0	0	0.0
受取利息	0	0	0.0	0	0.0
患者外給食収益	939,945	1,063,661	13.2	658,114	△ 38.1
付添寝具料	1,091,525	838,620	△ 23.2	791,370	△ 5.6
他会計補助金	471,405,222	523,415,300	11.0	483,702,621	△ 7.6
市町補助金	10,087,680	10,087,680	0.0	10,229,760	1.4
県助成金	4,298,325	4,377,000	1.8	6,859,000	56.7
国庫補助金	12,497,000	12,306,000	△ 1.5	11,197,000	△ 9.0
若狭健康診断室受託料	0	0	0.0	0	0.0
地域リハビリ支援事業受託料	958,096	958,095	△ 0.0	862,095	△ 10.0
地域療育拠点設置事業受託料	5,878,811	5,878,811	0.0	6,172,752	5.0
寄付金	0	0	0.0	0	0.0
その他医業外収益	60,049,687	62,848,330	4.7	24,920,702	△ 60.3
へき地医療拠点病院事業収益	24,378,870	24,490,640	0.5	27,211,230	11.1
へき地巡回診療収益	7,890,870	7,014,640	△ 11.1	6,992,230	△ 0.3
補助金	16,488,000	17,476,000	6.0	20,219,000	15.7
高等看護学院収益	107,962,601	100,569,318	△ 6.8	125,179,231	24.5
負担金	11,927,500	14,097,000	18.2	14,574,000	3.4
助成金	96,035,101	86,472,318	△ 10.0	110,605,231	27.9

区 分	平成22年度	平成23年度		平成24年度	
	金 額 (円)	金 額 (円)	伸 率 (%)	金 額 (円)	伸 率 (%)
介護老人保健施設事業収益	534,795,999	544,156,722	1.8	543,167,831	△ 0.2
施設運営事業収益	534,078,145	543,307,200	1.7	542,453,774	△ 0.2
施設介護報酬収益	333,089,722	334,286,754	0.4	329,239,859	△ 1.5
施設利用者負担金収益	36,373,718	36,689,329	0.9	36,148,759	△ 1.5
居宅介護料収益	67,304,667	73,466,169	9.2	76,910,908	4.7
居宅利用者負担金収益	7,368,093	8,031,224	9.0	8,304,660	3.4
利用者等利用料収益	89,427,757	90,442,524	1.1	91,445,712	1.1
その他事業収益	514,188	391,200	△ 23.9	403,876	3.2
施設基本食事サービス料収益					
施設運営事業外収益	717,854	849,522	18.3	714,057	△ 15.9
受取利息	0	0	0.0	0	0.0
その他施設運営事業外収益	717,854	849,522	18.3	714,057	△ 15.9
県補助金	0	0	0.0	0	0.0
レイクヒルズ美方病院事業収益	982,331,336	1,002,655,297	2.1	957,950,574	△ 4.5
医業収益	798,956,456	821,723,920	2.8	728,505,552	△ 11.3
外来収益	236,430,885	229,394,155	△ 3.0	214,073,476	△ 6.7
入院収益	531,181,214	556,583,479	4.8	478,545,442	△ 14.0
その他医業収益	31,344,357	35,746,286	14.0	35,886,634	0.4
医業外収益	183,374,880	180,931,377	△ 1.3	229,445,022	26.8
財産収益	2,382,279	1,874,879	△ 21.3	1,730,630	△ 7.7
受取利息	0	0	0.0	0	0.0
患者外給食収益	239,449	253,300	5.8	1,100	△ 99.6
付添寝具料	103,179	99,882	△ 3.2	55,922	△ 44.0
他会計補助金	169,279,297	168,432,448	△ 0.5	217,568,649	29.2
助成金	0	0	0.0	0	0.0
基金繰入金	9,385,013	9,071,797	△ 3.3	8,752,309	△ 3.5
その他医業外収益	1,985,663	1,199,071	△ 39.6	1,336,412	11.5
計	8,158,289,859	8,407,591,529	3.1	8,466,055,173	0.7

※「皆増」は前年度に数値がなく、全額増加したものを示す。

「皆減」は当年度に数値がなく、全額減少したものを示す。

収益の支出

区 分	平成22年度	平成23年度		平成24年度	
	金 額 (円)	金 額 (円)	伸 率 (%)	金 額 (円)	伸 率 (%)
小浜病院事業費用	7,161,823,558	7,370,641,956	2.9	7,446,772,474	1.0
医業費用	6,606,359,492	6,690,654,415	1.3	6,634,760,259	△ 0.8
給与費	3,672,102,400	3,818,426,142	4.0	3,813,297,925	△ 0.1
材料費	1,290,485,002	1,273,605,741	△ 1.3	1,293,069,802	1.5
経費	740,554,413	722,864,546	△ 2.4	785,347,174	8.6
減価償却費	773,163,677	737,142,117	△ 4.7	723,262,446	△ 1.9
資産減耗費	115,259,320	125,226,635	8.6	0	皆減
研究研修費	14,794,680	13,389,234	△ 9.5	19,782,912	47.8
統轄管理費	40,529,084	42,498,502	4.9	44,857,636	5.6
給与費	38,236,115	39,654,479	3.7	41,001,928	3.4
経費	2,292,969	2,844,023	24.0	3,855,708	35.6
医業外費用	383,823,909	513,526,798	33.8	616,047,262	20.0
支払利息及び企業債取扱諸費	233,872,311	225,207,973	△ 3.7	219,529,766	△ 2.5
患者外給食材料費	1,022,664	1,131,245	10.6	866,757	△ 23.4
患者外寝具委託費	629,618	631,343	0.3	629,618	△ 0.3
地域リハビリ支援事業費	989,143	988,907	△ 0.0	888,477	△ 10.2
繰延勘定償却	30,417,000	145,676,320	378.9	272,407,955	87.0
消費税	9,738,800	9,027,800	△ 7.3	10,190,100	12.9
積立金	0	0	0.0	0	0.0
その他医業外費用	107,154,373	130,863,210	22.1	111,534,589	△ 14.8
へき地医療拠点病院費	23,947,106	24,093,335	0.6	26,806,894	11.3
へき地巡回診療事業費	23,947,106	24,093,335	0.6	26,806,894	11.3
高等看護学院費	107,163,967	99,868,906	△ 6.8	124,300,423	24.5
給与費	91,561,278	85,940,118	△ 6.1	107,234,334	24.8
教材費	1,417,399	1,675,845	18.2	1,737,520	3.7
研究研修費	2,923,868	2,260,486	△ 22.7	2,601,408	15.1
経費	11,261,422	9,992,457	△ 11.3	12,727,161	27.4

区 分	平成22年度	平成23年度		平成24年度	
	金 額 (円)	金 額 (円)	伸 率 (%)	金 額 (円)	伸 率 (%)
介護老人保健施設事業費用	542,163,030	554,254,266	2.2	566,920,422	2.3
施設運営事業費用	513,362,339	526,090,010	2.5	539,641,410	2.6
給与費	367,128,531	378,681,663	3.1	386,958,876	2.2
材料費	47,447,686	44,659,131	△ 5.9	48,605,925	8.8
経費	30,534,553	33,403,006	9.4	34,326,086	2.8
委託費	25,792,269	25,787,835	△ 0.0	25,744,945	△ 0.2
研修費	323,348	258,623	△ 20.0	482,685	86.6
減価償却費	42,135,952	42,584,752	1.1	43,522,893	2.2
資産減耗費	0	715,000	皆増	0	皆減
施設運営事業外費用	28,800,691	28,164,256	△ 2.2	27,279,012	△ 3.1
支払利息	19,975,416	19,133,397	△ 4.2	18,274,341	△ 4.5
繰延勘定償却	3,308,000	3,308,000	0.0	3,308,000	0.0
消費税	323,800	310,200	△ 4.2	322,500	4.0
雑支出	5,193,475	5,412,659	4.2	5,374,171	△ 0.7
레이크ヒルズ美方病院事業費用	1,122,599,549	1,102,646,235	△ 1.8	1,083,012,630	△ 1.8
医業費用	1,066,913,861	1,048,410,852	△ 1.7	1,029,217,963	△ 1.8
給与費	625,634,902	651,281,415	4.1	652,881,240	0.2
材料費	174,553,153	178,664,736	2.4	157,422,021	△ 11.9
経費	149,593,513	141,032,097	△ 5.7	140,444,118	△ 0.4
減価償却費	116,035,567	76,308,343	△ 34.2	77,345,655	1.4
資産減耗費	584,580	0	皆減	44,750	皆増
研究研修費	512,146	1,124,261	119.5	1,080,179	△ 3.9
医業外費用	55,685,688	54,235,383	△ 2.6	53,794,667	△ 0.8
支払利息及び企業債取扱諸費	35,519,213	33,941,491	△ 4.4	32,962,395	△ 2.9
患者外寝具委託費	51,751	50,100	△ 3.2	28,051	△ 44.0
繰延勘定償却	4,728,250	4,728,250	0.0	4,728,250	0.0
消費税	1,249,900	1,417,100	13.4	1,411,000	△ 0.4
その他医業外費用	14,136,574	14,098,442	△ 0.3	14,664,971	4.0
計	8,826,586,137	9,027,542,457	2.3	9,096,705,526	0.8

※「皆増」は前年度に数値がなく、全額増加したものを示す。

「皆減」は当年度に数値がなく、全額減少したものを示す。

資本的收入および支出（公立小浜病院組合）

資本的收入

区 分	平成22年度	平成23年度		平成24年度	
	金額(円)	金額(円)	前年度比 伸率(%)	金額(円)	前年度比 伸率(%)
小浜病院事業資本的收入	758,919,209	1,206,370,784	59.0	636,354,786	△ 47.3
補助金	43,467,340	297,692,570	584.9	36,843,000	△ 87.6
市町負担金	323,392,869	315,756,214	△ 2.4	357,535,782	13.2
企業債	163,700,000	589,000,000	259.8	233,700,000	△ 60.3
固定資産売却代金	0	0	0.0	0	0.0
修学資金貸付金返還金	6,726,000	3,922,000	△ 41.7	8,276,004	111.0
基金繰入金	221,633,000	0	△ 100.0	0	0.0
레이크ヒルズ美方病院事業資本的收入	66,707,953	70,154,685	5.2	63,337,972	△ 9.7
市町負担金	50,217,502	54,182,920	7.9	47,046,719	△ 13.2
固定資産売却代金	0	0	0.0	0	0.0
基金繰入金	16,490,451	15,971,765	△ 3.1	16,291,253	2.0
計	825,627,162	1,276,525,469	54.6	699,692,758	△ 45.2

資本の支出

区 分	平成22年度	平成23年度		平成24年度	
	金額(円)	金額(円)	前年度比 伸率(%)	金額(円)	前年度比 伸率(%)
小浜病院事業資本の支出	1,039,777,328	1,778,080,746	71.0	1,076,635,422	△ 39.4
建設改良費	291,308,796	1,038,677,938	256.6	446,394,404	△ 57.0
企業債償還金	730,516,532	720,554,808	△ 1.4	611,009,018	△ 15.2
修学資金貸付金	17,952,000	18,848,000	5.0	19,232,000	2.0
予備費	0	0	0.0	0	0.0
介護老人保健施設事業資本の支出	46,997,498	56,029,862	19.2	46,988,123	△ 16.1
建設改良費	5,376,000	13,566,345	152.4	3,665,550	△ 73.0
企業債償還金	41,621,498	42,463,517	2.0	43,322,573	2.0
予備費	0	0	0.0	0	0.0
레이크ヒルズ美方病院事業資本の支出	66,707,953	70,154,685	5.2	63,337,972	△ 9.7
建設改良費	5,632,210	11,000,000	95.3	3,000,000	△ 72.7
企業債償還金	61,075,743	59,154,685	△ 3.1	60,337,972	2.0
予備費	0	0	0.0	0	0.0
計	1,153,482,779	1,904,265,293	65.1	1,186,961,517	△ 37.7

V. 公立病院改革プラン

概要・評価

平成 2 4 年度

杉田玄白記念公立小浜病院

改革プラン実績評価書

平成 25 年 9 月

杉田玄白記念公立小浜病院評価委員会

◎ はじめに

病院改革プラン（以下、「改革プラン」という。）は、平成１９年１２月に総務省において策定された「公立病院改革ガイドライン」に沿って平成２１年３月に策定され、その取り組み状況についての点検・評価をおこなう為、評価委員会が設置された。

「杉田玄白記念公立小浜病院評価委員会」は、外部有識者、住民代表等を含む５名の委員で構成され、平成２４年度決算の状況を含め、改革プランの実施状況の点検・評価を実施した。

１． 評価区分の基準

「計画、実績」「改革プランにおける数値目標等（実績、目標）」「公立病院として今後果たすべき役割」について評価を行った。

評価は次の表のように４段階とし、それぞれの評価の基準は説明のとおりである。

評価	評価の基準
◎	計画、数値目標を大きく上回った
○	計画、数値目標をほぼ達成した
△	計画、数値目標をやや下回った
×	計画、数値目標を大きく下回った

２． 総合評価

昨年度来からの評価結果に対する経過を踏まえ、努力の成果が得られている。

プラン・前年度と比較し、経常収支比率等の経営状況は改善傾向にあることは評価できる。

今後は、常勤医師・看護師の確保に注力し、診療機能の充実、経営改善を図ると共に地域の基幹病院としての役割をしっかりと担っていただきたい。

Ⅰ．「公立病院として今後果たすべき役割」

① 初期治療から高度特殊医療まで総合的に提供できる救急医療の提供

外来患者数、入院患者数共に増加しており、増収に繋がっている。また、救急科専門医の３名体制を継続し、地域の救急医療を担っており評価できる。

② 生活習慣病に適切に対応する医療の提供

協会けんぽ生活習慣病予防健診、個別がん検診に参加し、健診者数・健診収益共に増加している。今後は専従医師の確保に注力すると共に、ＰＥＴ検診等の啓蒙活動にも取り組んでいただきたい。

③ 地域災害医療センターとしての医療機能の提供

DMA T活動、および各種の訓練・研修会への参加等の積極的な姿勢は評価できる。又、平成24年度には自家発電の整備工事もおこない災害時の医療機能確保へ対応している。今後も災害拠点病院としての機能を果たしていただきたい。

④ へき地医療拠点病院としての機能の提供

患者数は、高齢化ならびに人口減少に伴い、徐々に減少傾向にあるが、無医地区への巡回診療や名田庄診療所への医師の派遣は評価できる。

⑤ 小児医療・産科医療の確保

地方において、小児科医2名体制で休日の小児医療を確保し、嶺南地域の小児療育医療に取り組むと共に、産科医2名を維持しながら地域医療に貢献していることは高く評価できる。

⑥ 研修機能の充実

認定看護師・助産師研修への参加等、看護師の研修体制を整備している。又、臨床研修医は平成24年度も引き続きフルマッチであり評価できる。今後は嶺南医療振興財団奨学生の確保・定着にも注力することを期待する。

⑦ 看護師の養成・確保

さまざまな取組をおこなってはいるが、平成24年度は採用者数と退職者数の差が6名の減となり看護師数は減少している。今後は現在の取組の他、SNS（ソーシャル・ネットワーキング・サービス）や修学資金制度の利用、地元出身者の優先入学等による併設の公立若狭高等看護学院卒業生の確保、定着への取組が望まれる。

⑧ 地域医療機関との連携の推進

紹介率・逆紹介率に対する取り組み姿勢については一定の評価ができる。しかしながら、当地域の医療施設の配置状況を考慮すると、これ以上の紹介率・逆紹介率の増加は期待しがたい状況にある。

Ⅱ. 「経費削減・抑制対策」

① 給与費の抑制

給与費の対医業収益比は減少しており評価できる。業務委託は、総合的に判断すると必ずしも費用の軽減に繋がらず、委託に当たっては、業務の専門性等を考慮する必要がある。

② 経費の削減

診療材料費については価格交渉等により対医業収益で減少している。今後はSPD

による物品購入がきちんと保険請求に繋がっているかどうか等の物品の購入、在庫、消費管理システムの構築を期待したい。

Ⅲ. 「収入増加・確保対策」

- ① 急性期病院として平均在日数の短縮に努め、効率的な病床運営を行い病床利用率を高める。

病床利用率が増加したにも関わらず、平均在院日数の増が抑制されていることは高く評価できる。

- ② 亜急性期病床を 8 床増床し、入院収益の増収を図る。

亜急性期病床の利用率は 90 % 以上を維持し、入院収益の確保を図っている点は評価できる。病床数については、今後の診療報酬改定の動向を参考に検討されることを望む。

- ③ 初診時特定療養費や文書料等の見直しを図る。

初診時特定療養費・一部診断書料金の見直しにより増収を図っている点は評価できる。

- ④ 診療報酬制度に的確に対応するため、研修等を実施する。

院外研修等への参加、院内講習会の開催は継続しており評価できる。今後は医師、看護師、技術員等への経営研修の継続をお願いすると共に、開設主体の異なる病院を対象として開催される経営研修会、「日本医療・病院管理学会」、「日本診療情報管理学会」、「日本医療マネジメント学会」、「日本医療経営学会」等への病院幹部職員の参加を望む。

- ⑤ 良質な医療の提供と収益性の向上を図るため、急性期入院医療における診断群分類別包括評価（DPC）準備病院に平成 20 年度申請した。

DPC 病院として診療情報管理士の育成に取り組む姿勢は評価できる。

- ⑥ 地域医療支援病院の承認が得られることにより、入院収益の増収が見込めることから承認申請に向け検討を開始した。

紹介率・逆紹介率は微増しているが、地域の医療環境を考慮すると地域医療支援病院の現在の施設認定基準を満たすことは困難と考えられる。地域医療支援病院として、既に実質的な医療機能は十分に充たしていると認められるので、今後は地域の状況に見合った国の基準の見直しに期待すると共に、当院からも関係病院団体及び行政への働きかけを継続して行うことが望まれる。

改革プランにおける数値目標等（実績・目標）

（単位：百万円）

収支	平成23年度 決算	平成24年度 プラン（A）	平成24年度 決算（B）	決算-プラン B-A	平成25年度 プラン
病院事業収益	6,861	6,772	6,965	193	6,767
うち外来収益	1,626	1,588	1,702	114	1,588
うち入院収益	4,150	4,183	4,219	36	4,187
うち医業外収益	626	673	669	▲ 4	668
病院事業費用	7,371	7,231	7,447	216	7,026
うち給与費	3,387	3,270	3,376	106	3,270
うち材料費	1,273	1,431	1,293	▲ 138	1,420
うち経費	723	750	785	35	750
うち減価償却費	737	723	723	0	671
純損益	▲ 510	▲ 459	▲ 482	▲ 23	▲ 259
累積欠損金	3,416	4,581	3,898	▲ 683	4,840
資金収支	227	264	241	▲ 23	412
不良債務	-	-	-	-	-

財務に係る数値目標	平成23年度 決算	平成24年度 プラン（A）	平成24年度 決算（B）	決算-プラン B-A	平成25年度 プラン	自己評価	委員会評価
経常収支比率	93.1	93.7	93.6	▲ 0.1	96.3	△	△
（減価償却費を除く）	103.4	104.1	103.6	▲ 0.5	106.5	△	△
医業収支比率	92.2	91.9	94.9	3.0	92.8	○	○
職員給与費率	54.3	53.6	53.1	▲ 0.5	53.6	○	○
病床利用率（一般）	81.7	81.0	85.0	4.0	81.0	○	○
病床利用率（療養）	90.3	90.0	94.8	4.8	90.0	○	○
病床利用率（全体）	82.5	82.2	84.3	2.1	82.2	○	○
外来患者数（1日平均）	758.8	810.0	776.9	▲ 33.1	810.0	△	△

平成24年度 杉田玄白記念公立小浜病院改革プラン評価シート

公立病院として今後果たすべき役割

嶺南医療圏・若狭地域の基幹病院として、政策的医療等の提供や病診連携の中心的役割を果たし、地域医療水準の維持、向上に努める。							
役割と計画		実 績			進捗の判断	自己評価	委員会評価
① 初期治療から高度特殊医療まで総合的に提供できる救急医療の提供					①外来患者数は「かかりつけ医制度」導入後減少傾向にあるが、平成24年度は増加した。 入院患者数は、年々増加しており、入院収益は増加した。 ②平成22年度は、救急科専門医師が2名であったが、平成23年度以降は3名に増員したことにより救急医療体制がより充実した。 ③救命救急センターを持つ地域の中核病院として、地域の救急医療に貢献している。	○	◎
② 生活習慣病に適切に対応する医療の提供					①平成24年度より、協会けんぽ生活習慣病予防健診、市町個別がん検診に参加したことにより、健診者数は増加した。 ②専従の医師確保に苦慮している。	○	○
役割と計画		実 績			進捗の判断	自己評価	委員会評価
③ 地域災害医療センターとしての医療機能の提供		6月 福井空港SCU資機材整備完了に伴う資機材の運用勉強会（2名参加）			平成24年度より福井県DMAT連絡協議会が発足し、県内7医療機関のDMATの責任者、福井県医師会・歯科医師会の代表者、福井県医療行政当局が一堂に会し、それぞれの課題や問題についての共通認識を深めるために、定期的に会合を持つこととなった。 隊員の養成の為、県を通じて厚労省に隊員養成研修への優先参加を要望中である。	○	○
		10月 福井県DMAT連絡協議会（1名参加）					
		11月 福井県総合防災訓練（坂井市等）（5名参加）					
		2月 市立救急病院での防災講演会（5名参加）					
		3月 中部DMAT実働訓練（石川県内各地）（5名参加）					
		※各種研修会・講習会（ICLS、トリアージ、ALS、BLS、その他）へのインストラクターの派遣					
④ へき地医療拠点病院としての機能の提供					へき地医療拠点病院として、無医地区への巡回診療を担当しているが、地域の過疎化により受診者は減少している。しかし、交通手段の乏しい地区への定期的な診療は、地域医療に大きく貢献している。 また、名田庄診療所の要請により医師を派遣した。	○	○
⑤ 小児医療・産科医療の確保					地方の医療機関で医師不足が深刻化する中、小児科医2名、産科医2名を維持しながら地域医療を担っている状況にある。 （平成25年4月より小児科は3名体制となった。） 小児医療については、休日の小児医療の確保の他、嶺南地域の小児療育医療に取り組んでおり、平成24年度に小児療育施設が完成した。 産科医療では、地域の妊産婦が安心して分娩できるよう医療体制を維持していく。	○	◎

役割と計画	実 績	進捗の判断	自己評価	委員会評価																																														
⑥ 研修機能の充実	①研修環境整備として医師、看護師向け各種医療用シミュレーターを平成22年度に購入し、研修に利用している。 ②TV会議システムを導入し、福井大学病院、福井県立病院など福井県内の7病院を回線で繋ぎ、双方向通信により他病院との会議・勉強会の開催や講演会などの受講が、当院に居ながら可能になり、継続的に利用している。 ③研修医については、平成24年度も引き続きフルマッチであり、研修修了者2名が後期研修に残った。 ④医師の国内研修制度を整備し、研修を推奨している。 (単位：人) <table><tr><th></th><th>平成22年度</th><th>平成23年度</th><th>平成24年度</th></tr><tr><td rowspan="5">学会出席</td><td>医 師</td><td>156</td><td>228</td><td>246</td></tr><tr><td>看 護 師</td><td>162</td><td>97</td><td>154</td></tr><tr><td>医 療 技 術 員</td><td>57</td><td>75</td><td>139</td></tr><tr><td>事 務 、 他</td><td>124</td><td>72</td><td>81</td></tr><tr><td>計</td><td>499</td><td>472</td><td>620</td></tr><tr><td rowspan="4">臨床研修医</td><td>病 院 単 独</td><td>5</td><td>7</td><td>7</td></tr><tr><td>たすきがけ医科</td><td>2</td><td>1</td><td>1</td></tr><tr><td>＃ 産科</td><td>0</td><td>1</td><td>0</td></tr><tr><td>計</td><td>7</td><td>9</td><td>8</td></tr><tr><td>救急救命士研修</td><td>14</td><td>12</td><td>16</td></tr></table>		平成22年度	平成23年度	平成24年度	学会出席	医 師	156	228	246	看 護 師	162	97	154	医 療 技 術 員	57	75	139	事 務 、 他	124	72	81	計	499	472	620	臨床研修医	病 院 単 独	5	7	7	たすきがけ医科	2	1	1	＃ 産科	0	1	0	計	7	9	8	救急救命士研修	14	12	16	①新人はもとより職場復帰者の研修においても、より安全に技術の向上が図れる体制が整った。 ②地域性の問題を解消し医療知識の向上が図れるようになった。現在は毎週金曜日に福井大学の研修医・医療従事者向けコアレクチャーなどを受講している。 ③今後も研修医の指導を充実させ、研修医を確保・定着を図るとともに嶺南医療振興財団の奨学生を確保する。 ④医師の技術習得・他病院での研修に対する支援制度確立を図った。 ⑤看護師については、昨年度に引き続き認定看護師の（集中ケア）研修に1名、助産師の資格取得に1名が長期研修に参加した。平成25年度においても、専任教員研修1名、認定看護師の長期研修を予定しており、今後も看護師の研修制度を推進していく。	○	○
	平成22年度	平成23年度	平成24年度																																															
学会出席	医 師	156	228	246																																														
	看 護 師	162	97	154																																														
	医 療 技 術 員	57	75	139																																														
	事 務 、 他	124	72	81																																														
	計	499	472	620																																														
臨床研修医	病 院 単 独	5	7	7																																														
	たすきがけ医科	2	1	1																																														
	＃ 産科	0	1	0																																														
	計	7	9	8																																														
救急救命士研修	14	12	16																																															
⑦ 看護師の養成・確保	(単位：人) <table><tr><th></th><th>平成22年度</th><th>平成23年度</th><th>平成24年度</th></tr><tr><td rowspan="3">看護師</td><td>新 採 用</td><td>21</td><td>19</td><td>17</td></tr><tr><td>退 職</td><td>13</td><td>16</td><td>23</td></tr><tr><td>増 減</td><td>8</td><td>3</td><td>-6</td></tr><tr><td rowspan="3">看護学生</td><td>入 学 生</td><td>33</td><td>37</td><td>32</td></tr><tr><td>卒 業 生</td><td>22</td><td>20</td><td>32</td></tr><tr><td>小浜病院組合就職者</td><td>14</td><td>6</td><td>12</td></tr></table> (小浜病院10名、レイクヒルズ2名)		平成22年度	平成23年度	平成24年度	看護師	新 採 用	21	19	17	退 職	13	16	23	増 減	8	3	-6	看護学生	入 学 生	33	37	32	卒 業 生	22	20	32	小浜病院組合就職者	14	6	12	①看護師の確保については、7：1看護体制を維持するための人数確保に努力している。引き続き、若狭高卒の卒業生を確保するとともに、他の看護学校・看護大学の新卒者や潜在看護師の確保を図る。潜在看護師の掘り起こしの為、看護師募集の新聞折り込みを行った。 ②看護師確保の為、修学資金を月5万円に増額するとともに、看護大学進学者等への奨学金制度を平成25年度より施行する。 ③看護師の養成については、8年連続で国家試験合格率が100%の実績を残せた。今後も、学生の獲得を図る。	△	△																
	平成22年度	平成23年度	平成24年度																																															
看護師	新 採 用	21	19	17																																														
	退 職	13	16	23																																														
	増 減	8	3	-6																																														
看護学生	入 学 生	33	37	32																																														
	卒 業 生	22	20	32																																														
	小浜病院組合就職者	14	6	12																																														

役割と計画	実 績				進捗の判断	自己評価	委員会評価
⑧ 地域医療機関との連携の推進		平成22年度	平成23年度	平成24年度	内科、整形外科を紹介制にした影響もあり、紹介率・逆紹介率ともに微増となった。 地域の医療機関との連携について連絡・協議を行う体制作りに取り組み、紹介率、逆紹介率の向上、高額医療機器・病床の共同利用等、地域の基幹病院としての機能の向上に取り組んでいきたい。	△	△
	紹介患者数	3,327人	3,597人	3,779人			
	逆紹介患者数	2,483人	2,258人	2,355人			
	紹介率	22.4%	25.8%	26.3%			
	逆紹介率	20.7%	19.7%	20.7%			

経費削減・抑制対策	実 績	進捗の判断	自己評価	委員会評価																																	
① 給与費の抑制 ・業務委託・機械化することにより、給与費の抑制を図る。 ・医師・看護師を除く職種については、原則として増員しない。	(人数は4月1日付) <table><tr><th></th><th>平成22年度</th><th>平成23年度</th><th>平成24年度</th></tr><tr><td rowspan="5">職員数</td><td>医 師</td><td>43 (7) 人</td><td>43 (8) 人</td><td>42 (13) 人</td></tr><tr><td>看 護 師</td><td>230 (68) 人</td><td>241 (74) 人</td><td>240 (78) 人</td></tr><tr><td>医 療 技 術 員</td><td>70 (4) 人</td><td>68 (5) 人</td><td>69 (5) 人</td></tr><tr><td>事 務 ・ 他</td><td>97 (25) 人</td><td>95 (31) 人</td><td>95 (35) 人</td></tr><tr><td>計</td><td>440 (104) 人</td><td>447 (118) 人</td><td>446 (131) 人</td></tr><tr><td>給 与 費</td><td>3,252,216千円</td><td>3,386,602千円</td><td>3,376,122千円</td></tr><tr><td>対医療収益比(%)</td><td>54.0%</td><td>54.3%</td><td>53.1%</td></tr></table>		平成22年度	平成23年度	平成24年度	職員数	医 師	43 (7) 人	43 (8) 人	42 (13) 人	看 護 師	230 (68) 人	241 (74) 人	240 (78) 人	医 療 技 術 員	70 (4) 人	68 (5) 人	69 (5) 人	事 務 ・ 他	97 (25) 人	95 (31) 人	95 (35) 人	計	440 (104) 人	447 (118) 人	446 (131) 人	給 与 費	3,252,216千円	3,386,602千円	3,376,122千円	対医療収益比(%)	54.0%	54.3%	53.1%	①職員数は主として医師、看護師の増員による、患者数の確保、単価の増を図っている。 医療技術員については、平成24年度に女性診療放射線技師を採用し、女性に対する配慮を図った。 ②給与費は主に事務職員の減により、対医療収益比で減少した。 ③業務委託の拡大は、職員の退職の状況等を考慮しながら引き続き検討する。	○	○
	平成22年度	平成23年度	平成24年度																																		
職員数	医 師	43 (7) 人	43 (8) 人	42 (13) 人																																	
	看 護 師	230 (68) 人	241 (74) 人	240 (78) 人																																	
	医 療 技 術 員	70 (4) 人	68 (5) 人	69 (5) 人																																	
	事 務 ・ 他	97 (25) 人	95 (31) 人	95 (35) 人																																	
	計	440 (104) 人	447 (118) 人	446 (131) 人																																	
給 与 費	3,252,216千円	3,386,602千円	3,376,122千円																																		
対医療収益比(%)	54.0%	54.3%	53.1%																																		
② 経費の削減 ・診療材料の購入は「診療材料検討委員会」で充分審議し、安価な材料に変更可能なものは変更する。また、物品の一括管理（SPD）の実施により診療材料等を定数管理しているが使用状況の確認を一層強化し、実績の2%削減を目指す。 薬品費の削減を図る。	<table><tr><th></th><th>平成22年度</th><th>平成23年度</th><th>平成24年度</th></tr><tr><td>薬 品 費</td><td>643,067千円</td><td>644,914千円</td><td>672,921千円</td></tr><tr><td>対医療収益比(%)</td><td>10.7%</td><td>10.7%</td><td>10.8%</td></tr><tr><td>診 療 材 料 費</td><td>539,696千円</td><td>512,801千円</td><td>498,819千円</td></tr><tr><td>対医療収益比(%)</td><td>9.0%</td><td>8.5%</td><td>8.0%</td></tr><tr><td>経 費</td><td>740,554千円</td><td>722,864千円</td><td>785,347千円</td></tr><tr><td>対医療収益比(%)</td><td>12.3%</td><td>11.9%</td><td>12.7%</td></tr><tr><td>う ち 委 託 費</td><td>388,408千円</td><td>385,090千円</td><td>421,501千円</td></tr></table>		平成22年度	平成23年度	平成24年度	薬 品 費	643,067千円	644,914千円	672,921千円	対医療収益比(%)	10.7%	10.7%	10.8%	診 療 材 料 費	539,696千円	512,801千円	498,819千円	対医療収益比(%)	9.0%	8.5%	8.0%	経 費	740,554千円	722,864千円	785,347千円	対医療収益比(%)	12.3%	11.9%	12.7%	う ち 委 託 費	388,408千円	385,090千円	421,501千円	①薬品費削減を図るため後発品の使用を拡大している。入院収益の増に比較し、薬品費の伸びは少ない。 ②診療材料費削減を図るため、同等品で安価なものへ切替を行うと共に、CT・MRI撮影時のフィルムレス化、ベンチマークソフトの活用で価格交渉をおこない、対医療収益比で0.5%改善できた。 ③経費については、修繕費等が増加傾向にあるが、業者交渉による削減を行っている。 委託費については、職員採用を抑え派遣等への切替の他、検査委託、画像診断委託等の業務量の増により、委託費が増加傾向にある。	△	△	
	平成22年度	平成23年度	平成24年度																																		
薬 品 費	643,067千円	644,914千円	672,921千円																																		
対医療収益比(%)	10.7%	10.7%	10.8%																																		
診 療 材 料 費	539,696千円	512,801千円	498,819千円																																		
対医療収益比(%)	9.0%	8.5%	8.0%																																		
経 費	740,554千円	722,864千円	785,347千円																																		
対医療収益比(%)	12.3%	11.9%	12.7%																																		
う ち 委 託 費	388,408千円	385,090千円	421,501千円																																		

収入増加・確保対策	実 績			進捗の判断	自己評価	委員会評価																
① 急性期病院として平均在院日数の短縮に努め、効率的な病床運営を行い病床利用率を高める。	<table><tr><th></th><th>平成22年度</th><th>平成23年度</th><th>平成24年度</th></tr><tr><td>病床利用率（全体）</td><td>77.6%</td><td>82.5%</td><td>84.3%</td></tr><tr><td>平均在院日数（一般）</td><td>16日</td><td>16日</td><td>16日</td></tr></table>		平成22年度	平成23年度	平成24年度	病床利用率（全体）	77.6%	82.5%	84.3%	平均在院日数（一般）	16日	16日	16日	救総科での1泊入院、クリニカルパス等の活用により、平均在院日数は低く推移している。 病床利用率も、平成23年度82.5%から平成24年度84.3%と向上している。 今後の計画として、DPCの分析による単価増、病床利用率の向上により入院収入の増加を図りたい。			◎	◎				
	平成22年度	平成23年度	平成24年度																			
病床利用率（全体）	77.6%	82.5%	84.3%																			
平均在院日数（一般）	16日	16日	16日																			
② 亜急性期病床を8床増床し、入院収益の増収を図る。（年間 21,900千円）	<table><tr><th></th><th>平成22年度</th><th>平成23年度</th><th>平成24年度</th></tr><tr><td>亜急性期病床</td><td>20床</td><td>20床</td><td>20床</td></tr><tr><td>1日平均患者数</td><td>18.1人</td><td>18.3人</td><td>18.1人</td></tr><tr><td>病床利用率</td><td>90.4%</td><td>91.3%</td><td>90.4%</td></tr></table>		平成22年度	平成23年度	平成24年度	亜急性期病床	20床	20床	20床	1日平均患者数	18.1人	18.3人	18.1人	病床利用率	90.4%	91.3%	90.4%	亜急性期病床の増床については、診療報酬制度並びに一般、療養等の病床の運営状況と、患者の病態等の状況を踏まえ検討していく。			○	○
	平成22年度	平成23年度	平成24年度																			
亜急性期病床	20床	20床	20床																			
1日平均患者数	18.1人	18.3人	18.1人																			
病床利用率	90.4%	91.3%	90.4%																			
③ 初診時特定療養費や文書料等の見直しを図る。	平成23年12月より、初診時特定療養費・一部診断書料金について県内の病院料金を考慮し増額改定した。			平成22年度と比較し、平成24年度の手数料収益は11,924千円の増収となった。	○	○																
④ 診療報酬制度に的確に対応するため、研修等を実施する。	(平成24年度診療報酬関係研修会参加状況) 診療情報管理士専門課程 2名参加 診療情報管理士基礎課程 2名参加 DPC分析セミナー 2名参加 第38回診療録情報管理懇話会 4名参加 第38回北陸診療情報管理研修会 1名参加 県ICDコーディング勉強会 4名参加 医療マネージメントセミナー 1名参加 診療報酬管理研修会 1名参加 診療報酬改定実施後の経営改善セミナー 1名参加 診療報酬改定説明 2回（所属長会議）			医師をはじめ、看護師、医療技術員に対しても、診療報酬改定の院内講習会を実施した。更に事務部において研修、情報収集、分析を行い各職種に対し問題提起すると同時に、適切なコーディング等によりDPCを有効に活用し収益増を目指す。 その為、診療情報管理士の取得育成のために研修派遣をおこなっている。	○	○																

収入増加・確保対策	実 績				進捗の判断		自己評価	委員会評価																	
⑤ 良質な医療の提供と収益性の向上を図るため、急性期入院医療における診断群分類別包括評価（DPC）準備病院に平成20年度申請した。	(平成22年度) 平成22年7月よりDPC請求開始。				診療情報管理士を新たに2名養成した。今後も引き続き診療情報管理士養成に取り組み、DPCを有効に活用する。		○	○																	
	(平成23年度) 職員2名が診療情報管理士の基礎課程を受講。				(平成25年度) 診療情報管理士基礎課程を4名受講中。 診療情報管理士専門課程を2名受講中。																				
⑥ 地域医療支援病院の承認が得られることにより、入院収益の増収が見込めることから承認申請に向け検討を開始した。	(平成24年度) 診療情報管理士基礎課程を2名受講。 診療情報管理士専門課程を2名受講。 診療情報管理士試験に2名合格となった。																								
	<table><tr><td></td><td>平成22年度</td><td>平成23年度</td><td>平成24年度</td></tr><tr><td>紹介患者数</td><td>3,327人</td><td>3,597人</td><td>3,779人</td></tr><tr><td>逆紹介患者数</td><td>2,483人</td><td>2,258人</td><td>2,355人</td></tr><tr><td>紹介率</td><td>22.4%</td><td>25.8%</td><td>26.3%</td></tr><tr><td>逆紹介率</td><td>20.7%</td><td>19.7%</td><td>20.7%</td></tr></table>					平成22年度			平成23年度	平成24年度	紹介患者数	3,327人	3,597人	3,779人	逆紹介患者数	2,483人	2,258人	2,355人	紹介率	22.4%	25.8%	26.3%	逆紹介率	20.7%	19.7%
	平成22年度	平成23年度	平成24年度																						
紹介患者数	3,327人	3,597人	3,779人																						
逆紹介患者数	2,483人	2,258人	2,355人																						
紹介率	22.4%	25.8%	26.3%																						
逆紹介率	20.7%	19.7%	20.7%																						

公立病院改革プランの概要

団 体 名		公立小浜病院組合										
プ ラ ン の 名 称		杉田玄白記念公立小浜病院改革プラン										
策 定 日		平成21年3月26日										
対 象 期 間		平成21年度 ～ 平成27年度										
病院 の 現 状	病 院 名	杉田玄白記念公立小浜病院										
	所 在 地	福井県小浜市大手町2番2号										
	病 床 数	456床(一般290床 結核8床 感染2床 療養50床 精神100床 ドック6床)										
	診 療 科 目	内科・呼吸器科・循環器科・外科・整外・脳外・産科・児科・耳科・眼科・泌科・皮科・放科 麻科・心血外科・形外・精科・神科・リハ科・歯口科										
公立病院として今後果たすべき役割(概要)		嶺南医療圏・若狭地域の基幹病院として、政策的医療等の提供や病診連携の中心的役割を果たし、地域医療水準の維持、向上に努める。 ① 初期治療から高度特殊医療まで総合的に提供できる救急医療の提供 ② 生活習慣病に適切に対応する医療の提供 ③ 地域災害医療センターとしての医療機能の提供 ④ へき地医療拠点病院としての機能の提供 ⑤ 小児医療・産科医療の確保 ⑥ 研修機能の充実 ⑦ 看護師の養成・確保 ⑧ 地域医療機関との連携の推進										
一般会計における経費負担の考え方(繰出基準の概要)		・ 1床あたりの普通交付税額相当分 ・ 救命救急センター運営に係る特別交付税額相当分 ・ 学生1人あたりの普通交付税額相当分 ・ 企業債元利償還額の普通交付税額相当分										
経営 効 率 化 に 係 る 計 画	財務に係る数値目標(主なもの)		19年度実績	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	備考
	変 更 後	経常収支比率	91.0%	85.7%	95.1%	88.5%	89.7%	93.7%	96.3%	99.4%	100.7%	
		(減価償却費を除く)	96.2%	98.3%	106.8%	98.9%	100.2%	104.1%	106.5%	108.1%	109.2%	
		医業収益比率	88.3%	81.7%	84.4%	86.3%	89.1%	91.9%	92.8%	94.7%	95.4%	
		(減価償却費を除く)	93.9%	95.0%	96.2%	97.2%	100.7%	103.2%	103.4%	103.6%	104.0%	
		職員給与費比率	60.5%	59.3%	57.5%	56.4%	54.4%	53.6%	53.6%	53.6%	53.5%	
		材料費比率	24.9%	25.3%	24.0%	23.9%	23.6%	23.5%	23.3%	23.1%	22.9%	
		経 費	11.9%	12.6%	12.2%	12.4%	12.3%	12.3%	12.3%	12.3%	12.3%	
		病床利用率	73.0%	71.1%	77.8%	76.7%	81.6%	82.2%	82.2%	82.2%	82.2%	
	変 更 前	経常収支比率				89.3%	89.6%	93.6%	96.3%	99.3%	100.6%	
		(減価償却費を除く)				99.7%	100.1%	104.0%	106.4%	108.1%	109.1%	
		医業収益比率				87.1%	89.0%	91.9%	92.8%	94.7%	95.3%	
		(減価償却費を除く)				98.2%	100.6%	103.1%	103.3%	103.6%	103.9%	
		職員給与費比率				55.8%	54.5%	53.6%	53.6%	53.6%	53.5%	
		材料費比率				23.7%	23.7%	23.5%	23.3%	23.1%	22.9%	
		経 費				12.3%	12.3%	12.3%	12.3%	12.3%	12.3%	
		病床利用率				82.2%	85.6%	86.7%	86.7%	86.7%	86.7%	
	上記目標数値設定の考え方		・ 支出においては、現金支出を伴わない高額の「減価償却費」等が含まれており、平成26年度までの黒字化は困難である。(経常黒字化の目標年度: 27年度) ・ 平成21年8月に看護の質の向上を図るため、7:1施設基準を取得した。そのため、入院患者数、入院単価を見直し、平成22年度より数値目標を変更した。									

					団体名 (病院名)		杉田玄白記念公立小浜病院				
公立病院としての医療機能に係る数値目標（主なもの）		19年度実績	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	備考
入院患者数(人)		114,012	116,800	127,750	125,925	134,322	135,050	135,050	135,050	135,420	
手術件数(件)		1,599	1,732	1,818	1,909	2,004	2,024	2,024	2,024	2,030	
健診件数(件)		796	1,090	1,300	1,365	1,430	1,445	1,445	1,445	1,449	
研修医受入数(人)		1	4	6	8	8	8	8	8	8	
経営効率化に係る計画	数値目標達成に向けての具体的な取組及び実施時期										
	民間的経営手法の導入	・ 病院給食業務の一部を外部委託している。 ・ 施設内の清掃業務・警備業務を外部委託している。 ・ 外来投薬の院外処方化を平成17年度から実施している。 ・ 医事業務の一部を機械化し、平成21年4月から運用を開始する。 ・ 電話交換手業務を外部委託の方向で検討中。 ・ 施設・設備の管理業務を一括して外部委託の方向で検討中。									
	事業規模・形態の見直し	病床運営 ・ 病床数は現行の450床を維持する。 ・ 救急・急性期機能に特化し、亜急性期病床を有効利用する。 ・ 維持期の患者については他施設へ紹介するなど、一層の連携を進める。									
	経費削減・抑制対策	① 給与費の抑制 ・ 業務委託・機械化することにより、給与費の抑制を図る。 ・ 医師・看護師を除く職種については、原則として増員しない。 ② 経費の削減 ・ 診療材料の購入は「診療材料検討委員会」で充分審議し、安価な材料に変更可能なものは変更する。 ・ また、物品の一括管理(SPD)の実施により診療材料等を定数管理しているが使用状況の確認を一層強化し、実績の2%削減を目指す。 ・ 高度医療施設整備事業(第3期工事)の工事費および医療機器購入については、出来るだけ事業費の削減を図る。									
	収入増加・確保対策	① 急性期病院として平均在院日数の短縮に努め、効率的な病床運営を行い病床利用率を高める。 ② 亜急性期病床を8床増床し、入院収益の増収を図る。(年間 21,900千円) ③ 初診時特定療養費や文書料等の見直しを図る。 ④ 診療報酬制度に的確に対応するため、研修等を実施する。 ⑤ 良質な医療の提供と収益性の向上を図るため、急性期入院医療における診断群分類別包括評価(DPC)準備病院に平成20年度申請した。 ⑥ 地域医療支援病院の承認が得られることにより、入院収益の増収が見込めることから承認申請に向け検討を開始した。									
	その他										
各年度の収支計画		別紙1のとおり									
その他の特記事項	病床利用率の状況	17年度 86% 18年度 83% 19年度 73%									
	病床利用率の状況を踏まえた病床数等の抜本見直し、施設の増改築計画の状況等	① 病床数の見直し ・ 病床数は現行の450床とし、平成24年度には利用率82%をめざす。 ・ 健診ベット6床についても現状を維持する。 ② 施設の増改築計画 ・ 平成14年4月に設置された「公立小浜病院高度医療施設整備計画策定委員会」の答申を受け、平成15年度より、施設整備事業を進めてきたが、平成21年度から3ヶ年計画で最終事業となる第3期工事に着手の予定。 ・ 第3期工事の骨子は診療棟の増築、既存施設の改修・解体、患者用駐車場整備であるが、あわせて福井県エネルギー研究開発拠点化計画に基づく病院医療機能の拡充にも取り組む。 (既存施設のうち、旧病棟は昭和55年以前に設計された建物であり、耐震強度基準を満たしていないため解体撤去し、狭隘化している患者用駐車場を拡張したい。)									

		団体名 (病院名)	杉田玄白記念公立小浜病院
再編・ネットワーク化に係る計画	二次医療圏内の公立病院等配置の現況	本院が所在する福井県嶺南医療圏には、次の公立病院および公的病院が開設されている。 ・ 市立敦賀病院(敦賀市・375床)・国立病院機構福井病院(敦賀市・320床) ・ レイクヒルズ美方病院(若狭町・美浜町・100床) ・ 国保上中病院(若狭町・75床)・社会保険高浜病院(高浜町・115床) (参考資料: 嶺南医療圏における病院の概要・福井県医療体制図)	
	都道府県医療計画等における今後の方向性		
	再編・ネットワーク化計画の概要及び当該病院における対応計画の概要 (注) 1 詳細は別紙添付 2 具体的な計画が未定の場合は、①検討・協議の方向性、②検討・協議体制、③検討・協議のスケジュール、結論を取りまとめる時期を明記すること。	<時 期>	<内 容> 医療圏は2つの地域に区別されるが、本院が属する若狭地域にあっては、本院が唯一の基幹病院である。 (参考資料: 嶺南医療圏における病院の概要・福井県医療体制図) 医療機関との連携 ・ 既に레이크ヒルズ美方病院とは医師の支援・職員の人事交流・患者紹介・逆紹介を行なっている。また上中病院を含む地域の医療機関と連携を図り、患者紹介・逆紹介を行なうとともに、CT・MRI・PET-CT検査を受託しており今後も地域の医療機関との連携を強化して行きたい。
経営形態見直しに係る計画	経営形態の現況 (該当箇所に ☒ を記入)	☒ 公営企業法財務適用 ☐ 公営企業法全部適用 ☐ 地方独立行政法人 ☐ 指定管理者制度 ☒ 一部事務組合・広域連合	
	経営形態の見直し(検討)の方向性 (該当箇所に ☒ を記入、検討中の場合は複数可)	☒ 公営企業法全部適用 ☒ 地方独立行政法人 ☐ 指定管理者制度 ☐ 民間譲渡 ☐ 現状維持を含め様々な形態を検討 ☐ 診療所化 ☐ 老健施設など、医療機関以外の事業形態への移行	
	経営形態見直し計画の概要 (注) 1 詳細は別紙添付 2 具体的な計画が未定の場合は、①検討・協議の方向性、②検討・協議体制、③検討・協議のスケジュール、結論を取りまとめる時期を明記すること。	<時 期> 平成21年度 調査研究 平成22年度 方向性とりまとめ	<内 容> 本院の使命と役割、さらに地域医療の確保・充実などの観点に立ち、平成21年度より、病院組合事業間で設置されている「病院組合事業運営会議」において、調査・研究したいと考えています。 平成22年度内には、病院としての方向性をとりまとめ、関係自治体と協議する予定です。
点検・評価・公表等	点検・評価・公表等の体制 (委員会等を設置する場合その概要)	外部有識者・住民代表・行政代表を含む「病院評価委員会」を平成21年度に設置予定	
	点検・評価の時期(毎年〇月頃等)	毎年度9月末を目途とする。	
その他特記事項			

(別紙1)

団体名 (病院名)	杉田玄白記念公立小浜病院
--------------	--------------

1. 収支計画 (収益的収支)

(単位: 百万円、%)

年度		18年度 (実績)	19年度 (実績)	20年度 (見込)	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
区 分											
収 入	1. 医 業 収 益 a	5,108	4,952	5,180	5,597	5,781	6,050	6,099	6,099	6,099	6,114
	(1) 料 金 収 入	4,828	4,715	4,899	5,293	5,466	5,725	5,774	5,774	5,774	5,786
	(2) そ の 他	280	237	281	304	315	325	325	325	325	328
	うち 他 会 計 負 担 金	112	49	23	23	23	23	23	23	23	23
	2. 医 業 外 収 益	646	719	742	1,421	601	618	673	668	662	696
	(1) 他 会 計 負 担 金・補 助 金	318	381	427	457	449	466	519	514	508	543
	(2) 国 (県) 補 助 金	203	195	192	179	11	11	11	11	11	11
	(3) そ の 他	125	143	123	785	141	141	143	143	143	142
	経 常 収 益 (A)	5,754	5,671	5,922	7,018	6,382	6,668	6,772	6,767	6,761	6,810
	1. 医 業 費 用 b	5,481	5,605	6,338	6,632	6,700	6,789	6,633	6,570	6,439	6,408
支 出	(1) 職 員 給 与 費 c	2,941	2,996	3,073	3,220	3,259	3,292	3,270	3,270	3,270	3,270
	(2) 材 料 費	1,348	1,231	1,311	1,344	1,381	1,430	1,431	1,420	1,408	1,399
	(3) 経 費	513	587	651	684	718	744	750	750	750	752
	(4) 減 価 償 却 費	335	332	883	811	755	781	723	671	552	528
	(5) そ の 他	344	459	420	573	587	542	459	459	459	459
	2. 医 業 外 費 用	533	625	570	751	511	647	598	456	366	356
	(1) 支 払 利 息	135	211	256	245	235	240	229	218	207	198
	(2) そ の 他	398	414	314	506	276	407	369	238	159	158
	経 常 費 用 (B)	6,014	6,230	6,908	7,383	7,211	7,436	7,231	7,026	6,805	6,764
	経 常 損 益 (A)-(B) (C)	-260	-559	-986	-365	-829	-768	-459	-259	-44	46
特 別 損 益	1. 特 別 利 益 (D)	0	28	0	0	0	0	0	0	0	0
	2. 特 別 損 失 (E)	0	253	0	0	0	0	0	0	0	0
	特 別 損 益 (D)-(E) (F)	0	-225	0	0	0	0	0	0	0	0
純 損 益 (C)+(F)		-260	-784	-986	-365	-829	-768	-459	-259	-44	46
累 積 欠 損 金 (G)		390	1,174	2,160	2,525	3,354	4,122	4,581	4,840	4,884	4,838
不 良 債 務	流 動 資 産 (7)	4,387	1,539	1,071	1,249	1,028	960	1,201	1,545	1,811	2,128
	流 動 負 債 (イ)	2,800	472	308	366	382	395	399	399	399	400
	うち 一 時 借 入 金	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	翌 年 度 繰 越 財 源 (ウ)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	当 年 度 同 意 等 債 で 未 借 入 又 は 未 発 行 の 額 (エ)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
差 引 不 良 債 務 (オ) [(イ)-(エ)]-[(7)-(ウ)]		-1,587	-1,067	-763	-883	-646	-565	-802	-1,146	-1,412	-1,728
経 常 収 支 比 率 $\frac{(A)}{(B)} \times 100$		95.7	91.0	85.7	95.1	88.5	89.7	93.7	96.3	99.4	100.7
不 良 債 務 比 率 $\frac{(オ)}{(A)} \times 100$		-31.1	-21.5	-14.7	-15.8	-11.2	-9.3	-13.1	-18.8	-23.2	-28.3
医 業 収 支 比 率 $\frac{a}{b} \times 100$		93.2	88.3	81.7	84.4	86.3	89.1	91.9	92.8	94.7	95.4
職 員 給 与 費 対 医 業 収 益 比 率 $\frac{(c)}{(A)} \times 100$		57.6	60.5	59.3	57.5	56.4	54.4	53.6	53.6	53.6	53.5
地方財政法施行令第19条第1項 により算定した資金の不足額 (H)											
資 金 不 足 比 率 $\frac{(H)}{(A)} \times 100$											
病 床 利 用 率		83.1	73.0	71.1	77.8	76.7	81.6	82.2	82.2	82.2	82.2

団体名 (病院名)	杉田玄白記念公立小浜病院
--------------	--------------

2. 収支計画(資本的収支)

(単位:百万円、%)

年度		18年度 (実績)	19年度 (実績)	20年度 (見込)	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
区 分											
収 入	1. 企 業 債	2,820	4,206	37	200	721	147	50	50	50	50
	2. 他 会 計 出 資 金	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	3. 他 会 計 負 担 金	51	91	107	208	324	316	357	278	197	196
	4. 他 会 計 借 入 金	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	5. 他 会 計 補 助 金	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	6. 国 (県) 補 助 金	414	554	8	0	0	0	0	0	0	0
	7. そ の 他	12	17	165	328	425	3	3	3	3	3
	収 入 計 (a)	3,297	4,868	317	736	1,470	466	410	331	250	249
	うち翌年度へ繰り越される 支出の財源充当額 (b)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	前年度許可債で当年度借入分 (c)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
支 出	純計(a)-(b)+(c) (A)	3,297	4,868	317	736	1,470	466	410	331	250	249
	1. 建 設 改 良 費	3,340	4,924	57	524	1,244	210	53	53	53	53
	2. 企 業 債 償 還 金	171	228	484	701	731	707	611	438	451	463
	3. 他会計長期借入金返還金	0	0								
	4. そ の 他	16	15	20	24	23	24	24	24	24	24
	支 出 計 (B)	3,535	5,167	561	1,249	1,998	941	688	515	528	540
	差 引 不 足 額 (B)-(A) (C)	238	299	244	513	528	475	278	184	278	291
	1. 損 益 勘 定 留 保 資 金	238	135	14	270	528	475	278	184	278	291
	2. 利 益 剰 余 金 処 分 額										
	3. 繰 越 工 事 資 金										
補 て ん 財 源	4. そ の 他	0	164	230	243	0	0	0	0	0	0
	計 (D)	238	299	244	513	528	475	278	184	278	291
	補てん財源不足額 (C)-(D) (E)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	当年度同意等債で未借入 又は未発行の額 (F)										
実質財源不足額 (E)-(F)											

1. 複数の病院を有する事業にあつては、合計表のほか、別途、病院ごとの計画を作成すること。
2. 金額の単位は適宜変更することも可能。(例)千円単位。

3. 一般会計等からの繰入金の見通し

(単位:千円)

	18年度 (実績)	19年度 (実績)	20年度 (見込)	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
収 益 的 収 支	(19,994)	(19,094)	(21,195)	(20,983)	(20,983)	(20,983)	(20,983)	(20,983)	(20,983)	(20,983)
	430,663	428,703	449,603	479,155	471,763	488,147	540,897	536,392	530,230	534,574
資 本 的 収 支	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)
	51,172	91,006	106,947	208,298	323,624	315,759	357,963	278,216	196,623	195,781
合 計	(19,994)	(19,094)	(21,195)	(20,983)	(20,983)	(20,983)	(20,983)	(20,983)	(20,983)	(20,983)
	481,835	519,709	556,550	687,453	795,387	803,906	898,860	814,608	727,053	730,355

(注)

1. ()内はうち基準外繰入金額を記入すること。
2. 「基準外繰入金」とは、「地方公営企業繰入金について」(総務省自治財政局長通知)に基づき他会計から公営企業会計へ繰り入れられる繰入金以外の繰入金をいうものであること。

小浜病院の役割と今後の目標に関する資料

1) 初期治療から高度特殊医療まで総合的に提供できる救急医療の提供

(単位:人)

		平成22年度実績	平成23年度実績	平成24年度実績
1日平均 患者数	外 来	775.5	758.8	776.9
	入 院	349.4	371.5	379.3
1日平均 救急患者	外 来	27.4	29.4	29.6
	入 院	6.8	8.0	7.4
1日平均 救急患者	時間外	26.5	27.7	27.7
	救急車	5.2	5.5	5.3

救命救急センター 市町別取扱い患者数

(単位:人)

		平成22年度実績	平成23年度実績	平成24年度実績
小浜市		8,173	9,099	9,433
若狭町	旧上中町	1,238	1,278	1,374
	旧三方町	358	374	462
おおい町	旧名田庄村	450	580	560
	旧大飯町	596	620	617
美浜町		41	56	39
高浜町		545	664	622
その他(県内外)		1,099	1,026	880
合計		12,500	13,697	13,987

若狭地域における救急車搬送状況について

平成22年度

(単位:人)

搬送先	死 亡	重 症	中等症	軽 症	合 計
若狭消防組合管内 ①	29	463	632	979	2,103
うち小浜病院	18	376	536	876	1,806
若狭消防組合管外 ②	0	69	34	15	118
舞鶴共済病院	0	43	18	11	72
舞鶴医療センター	0	9	11	4	24
舞鶴赤十字病院	0	0	1	0	1
舞鶴市民病院	0	0	0	0	0
①+②	29	532	666	994	2,221

平成23年度

(単位:人)

搬送先	死 亡	重 症	中等症	軽 症	合 計
若狭消防組合管内 ①	25	557	654	961	2,197
うち小浜病院	17	466	578	860	1,921
若狭消防組合管外 ②	0	71	33	24	128
舞鶴共済病院	0	32	17	17	66
舞鶴医療センター	0	14	8	7	29
舞鶴赤十字病院	0	1	0	1	2
舞鶴市民病院	0	0	0	0	0
①+②	25	628	687	985	2,325

平成24年度

(単位:人)

搬送先	死 亡	重 症	中等症	軽 症	合 計
若狭消防組合管内 ①	40	515	711	849	2,115
うち小浜病院	25	429	614	766	1,834
若狭消防組合管外 ②	0	69	19	22	110
舞鶴共済病院	0	34	8	16	58
舞鶴医療センター	0	10	7	5	22
舞鶴赤十字病院	0	1	0	0	1
舞鶴市民病院	0	0	0	0	0
①+②	40	584	730	871	2,225

2) 生活習慣病に適切に対応する医療の提供

(単位:人)

	平成22年度		平成23年度		平成24年度	
	受診者	要医療指摘者数	受診者	要医療指摘者数	受診者	要医療指摘者数
人間ドック	704	525	705	512	723	447
PET健診	30	11	22	6	40	15
脳ドック	85	28	68	25	62	13
人間ドック+脳ドック	39	19	67	49	46	38
人間ドック+PET健診	4	2	4	3	3	2
特定健診	72	14	63	7	81	9
婦人科癌検診	21	5	21	3	－	－
協会けんぽ	－	－	－	－	124	74
市町個別がん検診	－	－	－	－	48	－
受診者数合計	955	604	950	605	1,127	598
健診収入	49,098,661円		49,146,087円		51,817,738円	

3) 地域災害医療センターとしての医療機能の提供

「評価シート記載の通り」

4) へき地医療拠点病院としての機能の提供

(単位:人)

	平成22年度	平成23年度	平成24年度
巡回診療日数	168	168	168
1回平均患者数	7.5	6.5	6.3

年度別へき地診療実人数調

(単位:人)

年度	堅海	上根来 (上根来・下根来)	宮川	音海	日引	上瀬	奥杉山	河内	西浦 (常神・神子)	合計
	延人数	延人数	延人数	延人数	延人数	延人数	延人数	延人数	延人数	延人数
19	381	233	122	146	30	56	33	40	604	1,645
20	407	211	140	120	30	50	36	46	598	1,638
21	393	222	114	102	24	45	26	38	395	1,359
22	357	200	94	91	24	41	35	45	378	1,265
23	253	167	91	58	14	32	48	42	388	1,093
24	239	139	62	47	23	25	62	43	417	1,057

5) 小児医療・産科医療の確保

(単位:人)

			平成22年度	平成23年度	平成24年度
1日平均 患者数	小 児	外来	66.4	70.6	70.0
		入院	3.4	4.5	4.7
	産 科	外来	33.1	30.6	29.8
		入院	8.9	9.5	10.6
分娩件数	正 常		121	110	100
	異 常		56	77	75
	帝王切開		46	44	42
	計		223	231	217
分娩収入(自費非課税分)			85,336,020円	89,563,135円	85,573,580円

6) 研修機能の充実

学会・研修会等への出席

(単位:人)

	平成22年度	平成23年度	平成24年度
医 師	156	228	246
看 護 師	162	97	154
医療技術員	57	75	139
事 務 職 他	124	72	81

臨床研修医の状況

(単位:人)

		平成22年度	平成23年度	平成24年度
病 院 単 独		5	7	7
大学との たすき掛	医科	2	1	1
	歯科	0	1	0
合 計		7	9	8

救急救命士の研修状況

(単位:人)

	平成22年度	平成23年度	平成24年度
救急救命士の研修	14	12	16

7) 看護師の養成・確保

(単位:人)

		平成22年度	平成23年度	平成24年度
養成所入学者		33	37	32
卒業 者	小浜病院組合	14	6	12
	そ の 他	8	14	20
	計	22	20	32
看護 師	新採用者	21	19	17
	退 職 者	13	16	23
	増 減	8	3	-6

8) 地域医療機関との連携の推進

平成24年度 医療機関別

紹介患者件数

にしお内科クリニック	299
田中整形外科医院	298
小津外科医院	252
名田庄診療所	247
上中病院	192
舞鶴共済病院	182
千葉医院	156
高浜病院	152
山手医院	118
堀口医院	96
西津診療所	89
なごみ診療所	85
福井大学医学部付属病院	82
嶺南病院	72
齒科大下医院	72
吉井医院	68
いちせクリニック	68
レイクヒルズ美方病院	65
村上眼科医院	62
京都大学医学部付属病院	56
田中病院	55
中名田診療所	53
敦賀温泉病院	45
国立福井病院	34
和田診療所	33
市立敦賀病院	32
舞鶴医療センター	29
福井済生会病院	26
まつき歯科医院	25
関根医院	23
大下第3歯科医院	22
中山クリニック	21
齒科三宅医院	20
小計	3,129
その他(19件未満)	650
総計	3,779

逆紹介患者件数

舞鶴共済病院	157
福井大学医学部付属病院	130
京都大学医学部付属病院	112
上中病院	108
にしお内科クリニック	108
名田庄診療所	102
千葉医院	87
小津外科医院	86
なごみ診療所	68
田中病院	62
山手医院	61
高浜病院	56
レイクヒルズ美方病院	55
吉井医院	52
西津診療所	43
田中整形外科医院	40
福井済生会病院	36
中名田診療所	34
嶺南病院	30
村上眼科医院	28
市立敦賀病院	28
福井県立病院	27
敦賀温泉病院	22
堀口医院	20
小計	1,552
その他(19件未満)	803
総計	2,355

杉田玄白記念公立小浜病院評価委員会 委員名簿

(平成 25 年 9 月 1 日 現在)

区分	氏名	所属団体・役職等
委員長	白髪 昌世	広島国際大学医療経営学部医療経営学科教授
委 員	中塚 安治	元小浜市副市長
委 員	吉井 正雄	小浜医師会 会長
委 員	仲野 郁夫	小浜市民生部長
委 員	宮脇 美恵子	福井県連合婦人会 副会長

杉田玄白記念公立小浜病院評価委員会

開催日 平成 25 年 9 月 24 日 (火) 午後 6 時より

会 場 杉田玄白記念公立小浜病院 9 階会議室

VI. 醫師臨床研修概要

平成 24 年度 杉田玄白記念公立小浜病院卒後臨床研修

～ 地域・初期医療から高度医療まで ～

目的

基本必修科目は勿論、選択科目についても、診療科の枠に囚われることなく、幅広い症例に接し、医師としての基本的な能力・技能・知識の修得を目指します。

特徴

1. 地域唯一の総合病院であり、基本的疾患の診療を数多く経験することができます。また、医療圏唯一の救命救急センターにて、1次～3次まで幅広い症例に接することができ、救急専門医によるマンツーマン指導など充実したプライマリケアの研修を行うことができます。
2. へき地医療拠点病院として、地域医療の現場を体験することができるほか、精神科病棟、介護保健の研修についても併設施設で行うことができます。
3. 充実した待遇面などバックグラウンドもしっかりしていますので、安定した環境の中で研修生活を送ることができます。



研修プログラム責任者

副院長 服部 泰章

当院は単独型の臨床研修病院としては比較的小規模で診療科の垣根が低く、研修の自由度が高く、個々の希望にも対応しやすい利点があります。

平成19年秋に高度医療施設整備事業が完成し最新の医療設備がそろいました。救命救急センターも開設されて、充実したプライマリケアの研修を行うことができます。

プログラムの診療科及び期間（※ 各科研修内容詳細は後記参照）

年目	1 年目		1 年目又は 2 年目		2 年目	
研修科	内科	救急科	外科 (2)、麻酔科 (1)、 精神科 (1)、小児科 (2)、 産婦人科 (1) ※ 2 科目選択	選択科	地域 保健	地域 医療
期間	6 ヶ月	3 ヶ月	2～4 ヶ月	9～11 ヶ月	3 週間	1 月

協力施設

地域医療分野…高浜町国民健康保険和田診療所、おおい町保健・医療・福祉総合施設診療所、レイクヒルズ美方病院

地域保健分野…福井県赤十字血液センター、福井県嶺南振興局若狭健康福祉センター、介護老人保健施設アクール若狭

各科研修内容

<1 年次必修診療科の研修内容>

内 科	原則として患者1名ごと指導医1対1のペアを組み、マンツーマン指導を受ける。特に最初の1ヶ月は医師としての心構え、態度を学ぶ。初年度時はプライマリケアの研修に重点を置き、患者の全体像をとらえる訓練をする。呼吸器と血液疾患を中心に3ヶ月、循環器、糖尿病・内分泌および腎疾患を中心に3ヶ月でローテートする。
外 科	指導医が1対1で研修に当たる。消化器疾患を中心に診断、手術適応の判断、周術期管理および外科救急疾患のプライマリケアについて基本的な考え方を身につける。なるべく多くの手術に参加し、外科基本手技（切開、結紮、止血、縫合、穿刺、トレナージなど）の原則を習得する。
救急総合診療科	救急総合診療科（救命救急センター）において指導医とともに初期診療に参加し、救急医療におけるトリアージ、心肺蘇生法などを研修する。必要に応じて初期診療後に各専門医について、診断、治療について指導を受ける。
麻 酔 科	手術症例の術前診察、術中管理、術後観察に参加する。麻酔管理を通じて気道確保、気管内挿管、人工呼吸、静脈路確保、動脈穿針など全身管理に必要な基本手技を習得する。

<2 年次必修診療科の研修内容>

小 児 科	小児の特性と小児疾患の特異性を把握し、common diseaseを中心とした診療を研修するとともに、できるだけ多くの救急疾患を経験する。児の発達に合わせた診察法、家族への説明法を理解し、幼児期以降の簡単な採血・点滴などを習得する。
産 婦 人 科	指導医、研修医で構成されるチームの一員として研修を行ない、女性特有の疾患の初期診療、女性特有のプライマリケアを理解する。妊娠婦ならびに新生児の医療に必要な基本的知識を身につける。
精 神 科	精神疾患に対する理解を深めると同時に、患者（および家族）が身体的症状と同時に、不安、恐怖、苦悩などの精神症状を内在させていることを、常に忘れないようにする事を目標とする。
地域保健・医療	小浜保健所、僻地巡回診療、若狭健康診断室（成人病センター）、介護老人保健施設アクール若狭、医療福祉相談室などにおいて、地保健、医療、検診、介護などの制度と実際について学ぶ。また福井県赤十字血液センターによる採血業務に参加する。

<2 年次選択科目の研修内容>

選 択 科 目	それぞれの科の専門性、特殊性を理解し、遭遇する頻度の高い疾患について診断、治療の基本を学ぶとともに初期診療に参加する。 内科（腎臓、呼吸器、循環器、消化器）、外科、整形外科、脳神経外科、小児科、産婦人科、精神科、耳鼻咽喉科、眼科、皮膚科、泌尿器科、放射線科、麻酔科、救急総合診療科
---------	---

症例検討会・講習会等

4月 2日	オリエンテーション
4月 3日	接遇講習会
4月 4日	救急講習会
4月 5日	医療安全・個人情報保護・防災講習会
4月 6～13日	画像、検査、薬剤科研修
4月 9日	献血講習会（福井赤十字血液センター）
4月25日	医療倫理講演会 小杉教授（京都大学教授）
7月 6日	CVカテ講習会
11月10日	ICLS講習会
11月11日	トリアージ講習会
2月 1日	臨床研修医研究発表

I 「穿孔性虫垂炎・汎発性腹膜炎に対し、鏡視下手術で治癒し得た一例」

研修医1年目 佐藤 博文

II 「保存的療法が奏功し腹腔鏡下小範囲腸切除のみで低侵襲に治療が完遂し得た腸間膜静脈血栓症の一例」

研修医1年目 三原 聡仁

III 「心房細動の患者の心室頻拍に対して除細動を行い、心原性脳梗塞をきたした例」

研修医1年目 山下 北斗

IV 「インフルエンザ肺炎の一例」

研修医1年目 前田 裕和

V 「HIV感染後1年半で急性に発症したAIDSの一例」

研修医1年目 石上 雄一郎

VI 「慢性胆嚢炎経過中に経験した薬剤熱の一例」

研修医2年目 澤田 裕介

VII 「2年目研修医がERのフレックスタイムで研修することの有用性」

研修医2年目 鎌田 泰之

VIII 「骨盤開放骨折、開放性腹壁損傷、回腸間膜損傷で救急搬送された重症患者の一例」

研修医2年目 土井 洋幸



※ その他

研修医当直症例検討会（第1水曜日・第3水曜日）

講師 福井大学地域医療推進講座 寺澤教授、北野講師

救急モーニングカンファランス（週2回）

講師 当院救急総合診療科医師

注射講習会（5月）看護部合同

医局カンファレンス（年10回）

各科カンファレンス（週1回程度）

院外講習会

福井県レジデントフォーラム

福井県レジデントキャンプ



VII. 公立小浜病院組合 構成施設の紹介

公立若狭高等看護学院

介護老人保健施設アクール若狭

レイクヒルズ美方病院

公立若狭高等看護学院

所在地 福井県小浜市大手町 12 号 48 番地
tel 0770-52-0162
fax 0770-52-0554

学 院 長 吉 田 治 義
副 学 院 長 百 合 淳 子
事 務 長 北 原 幹 三

職員構成 専任教員 9 名、事務職員 3 名、公立小浜病院外講師 32 名、院内講師 28 名
(平成 25 年 4 月現在)

開校年月日 平成 2 年 4 月 1 日

修 業 年 限 3 年 (定員 1 学年 40 名) (男女共学)

卒業後の資格 看護師国家試験受験資格、保健師・助産師学校受験資格、養護教諭養成課程
受験資格、専門士

教 育 理 念 生命の尊厳と人間愛を根底に、健康なその人らしい生活を営めるように援助
する看護の精神を養う。
調和のとれた社会人としての人間形成をめざし、自主的に学ぶ看護者を育
成する。



平成 24 年度のあゆみ 「看護師国家試験合格率 8 年連続 100%を達成しました」

平成 24 年 4 月に、23 期生 31 名の入学生を迎え、翌年 3 月に 32 名の卒業生を送り出しました。
卒業生全員が看護師国家試験に合格し、合格率 8 年連続 100%を達成しました。

近年、4 年生の看護系大学は飛躍的に増加し、看護専門学校の学生確保は全国的にも困難な時代になっています。反面、社会状況により就職難や不安定な雇用が増加する中で、安定した職業である看護職の仕事が魅力ある職業のひとつとして評価され、大学卒業者や社会人、男子が増加しています。当学院でも、社会人や男子の受験は年々増加傾向にあります。

当学院では、学生確保対策として県内外の高校訪問や進学説明会などに積極的に参加し、養成所としてのメリット、看護職のやりがいや魅力に加え、当看護学院の特性を P R しています。

また、今年度は、スクールガイドの作成や「広報おばま」に学院紹介の記事を掲載していただきました。

10 月の学院祭では、「心～温かい心の通うコミュニケーション」というテーマで 2 日間開催し、地域の方々との交流を深めました。大阪から福角宣弘・幸子夫妻を招き「輝きつづけたい」のテーマで講演会を開催しました。2 日目には、卒後 1・2 年目の卒業生を招き、卒業生の交流、リフレッシュを図り早期離職を防止する目的で「卒業生の部屋」を開催しました。

3 月の卒業記念講演会は、卒業生 6 名によるシンポジウム、認定看護師による講演会を実施しました。

当看護学院は若狭地方における保健、医療、福祉を支える人材を育成する機関であり、重要な役割を担っています。今後もより学習環境を整え、優秀な看護者の育成に努めたいと思っています。

平成 24 年度 主な学校行事

宿泊研修	4 月 27 日 (金) ～28 日 (土)	1 年生 30 名参加
看護の日記念式	5 月 11 日 (金)	
学院祭	10 月 26 日 (金) ～27 日 (土)	
講演会	10 月 26 日 (金)	テーマ「輝きつづけたい」 福角宣弘・幸子夫妻
卒業生の部屋	10 月 27 日 (土)	卒業生 22 名参加
防火訓練	12 月 19 日 (水)	
卒業記念講演会	2 月 22 日 (金) 3 月 2 日 (土)	テーマ「がん看護～ちょっと素敵なエッセンス」 認定看護師 3 名 テーマ「看護とわたし」 卒業生 6 名によるシンポジウム

学生出身地内訳（平成 25 年 4 月現在）

	1 学年(24 期生)	2 学年(23 期生)	3 学年(22 期生)	計
小 浜 市	14	9	11	34
若 狭 町	2	7	1	10
おおい 町	2	0	1	3
美 浜 町	0	0	0	0
高 浜 町	1	2	3	6
その他県内	8	7	5	20
県 外	17	9	12	38
計	44 名	34 名	33 名	111 名

平成 23 年 3 月卒業生（19 期生）卒業生 22 名中

県内就職者 16 名		県外就職者 4 名	
杉田玄白記念公立小浜病院	14 名	舞鶴共済病院（京都府）	2 名
福井大学医学部附属病院	1 名	丹後中央病院（京都府）	1 名
坂井市立三国病院	1 名	京都第一赤十字病院（京都府）	1 名

進 学	2 名
-----	-----

平成 24 年 3 月卒業生（20 期生）卒業生 20 名中

県内就職者 7 名		県外就職者 13 名	
杉田玄白記念公立小浜病院	6 名	舞鶴共済病院（京都府）	3 名
国立病院機構福井病院	1 名	国立病院機構京都医療センター（京都府）	2 名
		市立福知山市民病院（京都府）	1 名
		第二岡本総合病院（京都府）	1 名
		北陸病院（石川県）	1 名
		関西大学附属枚方病院（大阪府）	1 名
		近畿大学付属堺病院（大阪府）	1 名
		加古川医療センター（兵庫県）	1 名
		江南厚生病院（愛知県）	1 名
		国立病院機構北海道がんセンター（北海道）	1 名

平成 25 年 3 月卒業生（21 期生）卒業生 32 名中

県内就職者 19 名		県外就職者 13 名	
杉田玄白記念公立小浜病院	10 名	舞鶴共済病院（京都府）	1 名
レイクヒルズ美方病院	2 名	国立病院機構舞鶴医療センター（京都府）	2 名
国立病院機構福井病院	3 名	丹後中央病院（京都府）	1 名
市立敦賀病院	1 名	堀川病院（京都府）	1 名
福井済生会病院	2 名	厚生会木沢記念病院（岐阜県）	1 名
福井循環器病院	1 名	大津赤十字病院（滋賀県）	1 名
		高島市民病院（滋賀県）	1 名
		国立循環器病研究センター（大阪府）	1 名
		関西電力病院（大阪府）	1 名
		兵庫県立西宮病院（兵庫県）	1 名
		板橋中央総合病院（東京都）	1 名
		K K R 札幌医療センター（北海道）	1 名

介護老人保健施設 アクルル若狭



所在地 福井県小浜市大手町 2 番 2 号

tel 0770-52-0989

fax 0770-52-0978

施設長 服部 泰章

総看護師長 大森 美代子

事務長 田邊 靖雄

開設年月日 平成 12 年 3 月 29 日

入所定員 100 名（認知症専門棟定員 30 名含む・短期入所 空床利用）

通所定員 40 名

室状況 個室 18 室、2 人室 1 室、4 人室 20 室

構造 鉄筋コンクリート 4 階建

基本理念 急速に進展する人口の高齢化により、21 世紀には 100 万人を越すであろうと言われている寝たきり高齢者にとって、ふさわしい生活の場は住みなれた家庭であることを鑑み、その自立を支援し、家庭への復帰を目指すために適切な医療ケアや看護、介護及びリハビリテーションを併せて提供する施設であり、運営にあたっては、明るく家庭的な雰囲気のもとに地域や家庭との結びつきを重視する事を基本としています。

- 運営方針**
- 1) 要介護高齢者の家庭復帰を最大目標（寝たきりの克服）とし、理学療法、作業療法、言語療法などのリハビリテーションを最重要点に、医療ケアや看護、介護及び日常生活サービスを一体的に提供する。
 - 2) 在宅介護支援の一環として短期入所療養介護、通所リハビリテーションなどのサービスを提供し、地域内の関係機関と調整、連携の上、在宅生活者を支援し、地域老人福祉のためのセンター的役割を担う。
 - 3) 一般社会により近い療養生活環境を提供するとともに、利用者様それぞれの生き方を大切に、個性に合わせた処遇を勧め、入所者様のご家庭に戻られることを前提に、施設と家庭との接点を増やし、意思の疎通を図る。
 - 4) 明るく清潔で文化的な療養生活を提供するため、環境の整備、運営の充実に努める。

職 員 数 正職員数 65 名 非常勤職員数 8 名 （平成 25 年 4 月現在）

平成 24 年度の総括

当年度の 1 日平均利用者数は、入所 98.6 人、短期入所 1.0 人、通所リハビリ 30.4 人でした。施設の利用率に大きな変化は無く、入所、短期入所を合わせてほぼ満床に近い状態で稼働しております。しかしながら、平成 24 年度の介護報酬の改定で在宅復帰率の状況及びベッド回転率の高い施設をより評価する報酬体系となり、収益は減少となりました。今後安定した運営を続けていくためには、在宅復帰をより意識していく必要があります、当施設においても在宅復帰率の向上に努めております。また 24 年度より入所の経過中に終末期の状態に陥った利用者様に対し、看取りを実施しております。終末期を過ごす場所を住み慣れた場所で過ごすことができ、利用者様、ご家族にも理解を得られており、今後も継続していきたいと考えております。

通所リハビリテーションの利用者の延べ人数は 7,822 人、対前年比で 287 人増加しました。1 日平均利用者数も 30.4 人で対前年比 1.3 人増となりました。通所については介護報酬の改定による収益の減少を利用者の増加により補うことができました。今後も近隣の居宅支援事業所との連携を深め、より多くの方に利用していただけるよう努めていきたいと考えております。

入所利用者数

		平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度
小 浜 市		34,095	32,469	31,348	32,096	32,711
若 狭 町	(旧上中町)	986	2,097	1,839	1,679	1,589
	(旧三方町)	0	172	549	449	530
おおい町	(旧名多庄村)	317	309	1,391	1,081	191
	(旧大飯町)	166	395	350	6	0
美 浜 町		0	0	0	275	611
高 浜 町		0	0	0	172	0
県 内		0	0	248	349	365
県 外		0	59	15	0	0
合 計		35,564	35,501	35,740	36,107	35,997
1 日 平 均 (人)		97.4	97.3	97.9	98.7	98.6

短期入所利用者数

		平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度
小 浜 市		720	792	566	328	368
若 狭 町	(旧上中町)	0	0	0	25	0
	(旧三方町)	0	0	0	0	0
おおい町	(旧名多庄村)	0	7	0	0	0
	(旧大飯町)	0	0	0	0	0
美 浜 町		0	0	0	0	6
高 浜 町		0	0	0	0	0
県 内		0	0	0	0	0
県 外		0	0	0	0	0
合 計		720	799	566	353	374
1 日 平 均 (人)		2.0	2.2	1.6	1.0	1.0

通所リハビリテーション利用者数

		平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度
小 浜 市		6,075	6,270	6,043	6,947	7,037
若 狭 町	(旧上中町)	444	427	452	501	762
	(旧三方町)	0	0	0	0	0
おおい町	(旧名多庄村)	0	34	50	87	23
	(旧大飯町)	0	0	0	0	0
合 計		6,519	6,731	6,545	7,535	7,822
1 日 平 均 (人)		26.6	26.9	25.8	29.1	30.4
営 業 日 数		245	250	254	259	257

事業会計

	平成 20 年度	平成 21 年度	平成 22 年度	平成 23 年度	平成 24 年度
事業収益	525,413	540,227	534,796	544,157	543,168
事業費用	531,078	539,775	542,163	554,254	566,920
利 益	△5,665	452	△7,367	△10,097	△23,753

レイクヒルズ美方病院

所在地 福井県三方上中郡若狭町気山 315 号 1 番地の 9
tel 0770-45-1131 fax 0770-45-2420

開設年月日 平成 15 年 7 月 1 日

病院長 入江 善二

副院長 東 博司

診療部長 和形 隆志

総看護師長 竹内 みゆき

事務長 中山 浩



病院理念 私たちは、地域密着型病院として、安心・安全・満足の医療を実践し、地域から信頼される病院を目指します。

- 病院基本方針
- 1) 初期治療から高齢者医療まで、幅広い医療を提供します。
 - 2) 周辺の地域医療機関との連携を図ります。
 - 3) 患者様の権利や安全を尊重し、説明と同意に基づいた医療を行います。
 - 4) 自治体病院として、公共性と経済性を大切にして、健全経営に努めます。
 - 5) つねに自己研鑽に励み、医療の質の向上に努めます。

職員数 正職員数 79 名 非常勤職員数 25 名 (平成 25 年 4 月現在)

診療科 内科、小児科、整形外科、皮膚科、泌尿器科、婦人科、眼科
耳鼻いんこう科、リハビリテーション科

病床数 一般 50 床、療養 50 床

施設基準の承認に関するもの

一般病棟入院基本料 (15 : 1)、看護補助加算 1 (30 : 1)、療養環境加算、看護配置加算、療養病棟入院基本料 2 (看護 25 : 1) (看護補助 25 : 1)、療養病棟療養環境加算 1、薬剤管理指導料、脳血管疾患等リハビリテーション料 (Ⅱ) 運動器リハビリテーション料 (Ⅰ)、呼吸器リハビリテーション料 (Ⅰ)、診療録管理体制加算*、検体検査管理加算 (Ⅰ)、コンタクトレンズ検査料 1、ニコチン依存症管理料、CT 撮影及び MRI 撮影、小児科外来診療料、がん治療連携指導料、がん性疼痛緩和指導管理料、地域連携診療計画退院時指導料 (Ⅱ)*、救急搬送患者地域連携受入加算 *H24.10.1 辞退

入院時食事療養に関するもの

入院時食事療養 (Ⅰ)、入院時生活療養 (Ⅰ)

指定医療機関等

健康保険法 生活保護法 国民健康保険法 原爆被爆者医療(一般) 労働者災害補償法
小児慢性特定疾患治療研究事業 (福井県他 12 都府県)

特定疾患治療研究事業（福井県他 14 道府県）

平成 24 年度の総括

入 江 善 二

地域医療にとっては非常に厳しい環境の中で、平成 24 年度病院目標の達成に向かって職員一同邁進いたしました。

1) 経営改善

平均外来患者数 90 人／日 単価 12,200 円

平均入院患者数 91 人／日 単価 17,600 円

2) 在宅支援体制の整備

3) 医療の連携強化

4) 地域への P R 推進

5) 地域の予防医療の促進（健診・検診含む）

が、平成 24 年度の目標でした。その総括は以下の如くです。

1) 平均外来患者数	70 人／日	達成度	77.8%
外来単価	12,573 円	〃	103.1%
平均入院患者数	81 人／日	〃	89.0%
入院単価	16,311 円	〃	92.7%

24 年度は年度当初から常勤医 1 名の長期療養、休職という事態が生じ、外来収益、入院収益ともに目標を大きく下回る結果となりました。外来患者については 22 年度から減少傾向にあり、入院患者については施設待ちや在宅療養不可など長期化する傾向にあります。そのような背景を元に、25 年 8 月より一般病床を 42 床に減床し、療養病床を 58 床に増床する計画を立て、25 年度は入院患者数を確保していきたいと考えています。引き続き、地域の強い要望である老老介護の負担軽減や、寝たきり老人の減少の為、地域の皆様との連携強化により患者数の増を図るべく努力しています。

2) 在宅支援体制の整備

平成 24 年度の訪問診療延べ人数は 181 人で前年度に比べ減少しました。訪問看護については 6 人で、今後は医療保険での訪問看護だけでなく、介護保険適応の訪問看護も視野に入れ在宅支援体制を整備したいと考えております。

3) 医療の連携強化

へき地巡回診療

平成 22 年度より、杉田玄白記念公立小浜病院の委託を受け、若狭町西浦地区のへき地巡回診療を担当しています。（平成 24 年度延べ 24 回、延患者数 435 人）

病病・病診連携

平成 24 年度の当院への転院紹介は 57 件の受入を致しました。介護・福祉施設か

らの入院は 40 件でした。

退院患者数は 278 件で、在宅へは 119 件（42.8%）、介護・福祉施設へは 49 件（17.6%）、死亡退院 63 件（22.7%）となっています。

外来患者の紹介状況は、年間 401 件で、他病院 171 件、診療所 211 件、介護老人保健施設 19 件でした。

今後とも病病・病診連携を図り、初期治療と共に慢性期・維持期の医療を提供してまいります。

4) 地域への P R

24 年度は広報誌の発行は出来ませんでしたが、町の広報誌を通じて新しく設置した外来の情報等を P R しました。

5) 地域の予防医療の促進

24 年度も定期予防接種、任意予防接種の契約を、若狭町、美浜町と年間を通じて締結し予防医療の促進に努めました。しかしながら接種件数は 23 年度と比較し、美浜町では 27 件の増となりましたが、若狭町では 230 件の減と大幅に減少しました。

平成 24 年度 病院年報
(第 11 号)

平成 26 年 3 月発行
杉田玄白記念公立小浜病院

〒917-8567
福井県小浜市大手町 2-2

TEL 0770-52-0990

FAX 0770-53-3745

<http://www.obamahp-wakasa.jp>

